# 基本計画書

		基		本		計		画		
事	項		記		入		欄		備	考
計	画の区分	学部の設置								
フ	リガナ	カ゛ッコウホウシ゛ン								
設		学校法人 東	[海大学							
フ	リ ガ ナ	トウカイタ゜イカ゛ク	okai Universit	. \						
大	学の名称		skai Universit 表市北金目4-1-1	•						
	子本部の位直	,								
大	学 の 目 的	本学は、人道! 教授することに		教養をもつ有能 の福祉に貢献す				問技術を研究		
新	設学部等の目的	本学部は、建 え、ソフトとハ 域に根ざした建 環境から都市環 築をめざすグロ・	ードの両面から 築・都市のあり 竟、地球環境ま	方を、既存の建 で及ぶ広い視野	題に取り組む 築・土木分野 と高い技術力	新しい学生の のみならず、	う育成を目指 多角的に学	す。また、地 ぶことで、住		
	新設学部等の名称	修業 入学 年限 定員	編入学 定 員		位又 称号	開設時期 び開設年と		在 地		
新設	建築都市学部 [Undergraduate School of Architecture and Urban Planning]	年	人年次人	人	41.0	年 月 第 年》	1			
学部等の	建築学科 [Department of Architecture]	4 240		960 学士(EBachel Engine	or of	令和4年4 第1年次		:川県平塚市 金目4-1-1		
概要	土木工学科 [Department of Civil Engineering]	4 100		学士(EBache) Engine	or of	令和4年4 第1年次		:川県平塚市 金目4-1-1		
	計	340	_	1360						
	设置者内における変更状況 はの移行,名称の変更等)	別紙のとおり								
	新設学部等の名称			る授業科目の総			卒業要件	比単位数		
教育		講義	演習	実験・実習		計	十木女厂			
課程	建築都市学部建築学科	33科目	22科目	9和	·目	64科目		124単位		
	建築都市学部土木工学科	51科目	15科目	8和	·目	74科目		124単位		

		<b>当</b>			専任	教員等			兼任	
教		学 部 等 の 名 称 	教授 人	准教授 人	講師人	助教人	計人	助手人	教員等人	
	新	建築都市学部建築学科	8 (8)	5 (5)	0 (0)	2 (2)	15 (15)	0 (0)	7 (7)	
		建築都市学部土木工学科	5	3	0	1	9	0	15	
		児童教育学部児童教育学科	(5)	(3)	(0) 6	(1)	(9)	(0)	(15)	令和3年3月認可申請
		経営学部経営学科	(7)	(5)	(5)	(1)	(18) 15	(0)	(9) 12	令和3年4月届出予定
		国際学部国際学科	(9) 7	(5)	(1)	(0)	(15) 14	(0)	(12)	令和3年4月届出予定
		情報理工学部情報メディア学科	(7) 6	(3)	(4)	(0)	9	(0)	(11)	令和3年4月届出予定
員		情報通信学部情報通信学科	(6) 10	(3)	(0) 6	(0)	(9) 24	(0)	(6) 10	令和3年4月届出予定
		工学部生物工学科	(10)	(7) 6	(6) 0	(1)	(24) 11	(0)	(10) 20	令和3年4月届出予定
			(5) 5	(6) 2	(0)	(0)	(11) 11	(0)	(20) 18	令和3年4月届出予定
	設	工学部機械システム工学科	(5) 5	(2)	(3)	(1)	(11)	(0)	(18) 21	令和3年4月届出予定
		工学部医工学科	(5)	(2)	(0) 5	(1)	(8) 15	(0)	(21) 11	令和3年4月届出予定
		人文学部人文学科	(6) 15	(4) 6	(5)	(0)	(15) 22	(0)	(11)	令和3年4月届出予定
組		海洋学部海洋理工学科	(15)	(6) 4	(1)	(0)	(22)	(0)	(20)	令和3年4月届出予定
水丘		文理融合学部経営学科	(7)	(4)	(3)	(0)	(14)	(0)	(12)	令和3年4月届出予定
		文理融合学部地域社会学科	(7)	(3)	(4)	(0)	(14)	(0)	(13)	
		文理融合学部人間情報工学科	(9)	(4)	1 (1)	(0)	(14)	(0)	17 (17)	令和3年4月届出予定
		農学部農学科	4 (4)	1 (1)	3 (3)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	13 (13)	令和3年4月届出予定
		農学部動物科学科	4 (4)	0 (0)	4 (4)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	16 (16)	令和3年4月届出予定
		農学部食生命科学科	6 (6)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	22 (22)	令和3年4月届出予定
織	分	計	127 (125)	63 (63)	43 (42)	7 (7)	240 (237)	0 (0)		
	既	文学部文明学科	3 (3)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	14 (14)	
		文学部歴史学科	8 (8)	5 (5)	2 (2)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	23 (23)	
		文学部日本文学科	3 (3)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	16 (16)	
		文学部英語文化コミュニケーション学科	7 (7)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	8 (8)	
		文化社会学部アジア学科	5 (5)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	20 (20)	
		文化社会学部ヨーロッパ・アメリカ学科	5 (5)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	12 (12)	
の		文化社会学部北欧学科	3 (3)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	7 (7)	
		文化社会学部文芸創作学科	4 (4)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	3 (3)	
		文化社会学部広報メディア学科	6 (6)	1 (1)	3 (3)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	2 (2)	
		文化社会学部心理・社会学科	7 (7)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	13 (13)	
	設	政治経済学部政治学科	10 (10)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	5 (5)	
		政治経済学部経済学科	8 (8)	2 (2)	4 (4)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	11 (11)	
概		法学部法律学科	12 (12)	5 (5)	3 (3)	0 (0)	20 (20)	0 (0)	(11)	
1976		教養学部人間環境学科	9	3	3	0	15	0	27	
		教養学部芸術学科	(9) 7	(3)	(3)	(0)	(15)	(0)	(27)	
		体育学部体育学科	(7)	(3)	(3)	(0)	(13)	(0)	(88)	
		体育学部競技スポーツ学科	(10)	(1)	(0)	(0)	(11)	(0)	(5)	
		体育学部武道学科	(6) 6	(3)	0	(0)	10	(0)	10	
		体育学部生涯スポーツ学科	(6)	(4)	(0)	(0)	10	(0)	(10)	
要	分	体育学部スポーツ・レジャーマネジメント学	(5)	(3)	(1)	(1)	(10)	(0)	(6)	
		科	(4)	(3)	(2)	(0)	(9)	(0)	(1)	

tel.		健康学部健康マネジメント学科	10 (10)	6 (6)	6 (6)	2 (2)	24 (24)	0 (0)	2 (2)
教 思	先	理学部数学科	6	4	5	0	15	0	3
		理学部情報数理学科	(6) 7	(4) 5	(5)	(0)	(15)	(0)	(3)
		理学部物理学科	(7)	(5)	(0)	(0)	16	(0)	(11)
		理学部化学科	(11)	(1)	(3)	(1)	(16)	(0)	0
		理学部	(9)	(4)	(2)	(0)	(15)	(0)	(0)
		基礎教育研究室 情報理工学部情報科学科	(2)	(2)	(0)	(0)	10	(0)	(0)
		情報理工学部コンピュータ応用工学科	(6) 5	(1)	(2)	(1)	(10) 10	(0)	(8) 11
		工学部応用化学科	(5) 6	(3)	(1)	(1)	(10) 9	(0)	(11)
			(6) 7	(1)	(1)	(1)	(9) 13	(0)	(3)
		工学部電気電子工学科	(7) 8	(3)	(3)	(0)	(13) 16	(0)	(5) 13
		工学部機械工学科	(7) 12	(4)	(0)	(0) 1	(11) 18	(0)	(13) 5
		工学部航空宇宙学科	(12) 7	(3)	(2)	(1)	(18) 14	(0)	(5) 10
		観光学部観光学科	(7)	(5)	(2)	(0)	(14)	(0)	(10)
		海洋学部水産学科	(7)	(4)	(3)	(0)	(14)	(0)	(11)
		海洋学部海洋生物学科 海洋学部	(8)	(7)	(0)	(1)	(16)	(0)	(5) 7
		海洋フロンティア教育センター	(1)	(2)	(1)	(0)	(4) 834	(0)	(7) 131
		医学部医学科	(127)	(106)	(205)	(396)	(834)	(0)	(131)
		医学部看護学科	8 (8)	8 (8)	14 (14)	4 (4)	34 (34)	0 (0)	47 (47)
		国際文化学部地域創造学科	9 (9)	1 (1)	3 (3)	1 (1)	14 (14)	0 (0)	14 (14)
		国際文化学部国際コミュニケーション学科	6 (6)	1 (1)	3 (3)	1 (1)	11 (11)	0 (0)	9 (9)
100	艾	生物学部生物学科	8 (8)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	14 (14)
		生物学部海洋生物科学科	5 (5)	5 (5)	2 (2)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	1 (1)
		計	403 (402)	231 (231)	296 (292)	411 (411)	1341 (1336)	0 (0)	
		現代教養センター	4 (4)	12 (12)	5 (5)	1 (1)	22 (22)	0 (0)	20 (20)
		国際教育センター	17 (17)	20 (20)	20 (20)	3 (3)	60 (60)	0 (0)	160 (160)
		情報教育センター	2 (2)	3 (3)	4 (4)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	19 (19)
		課程資格教育センター	6 (6)	7 (7)	3 (3)	1 (1)	17 (17)	0 (0)	46 (46)
		先進生命科学研究所	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
		教育開発研究センター	4 (4)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	0 (0)
		スポーツ医科学研究所	0 (0)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	3 (3)	0 (0)	0 (0)
		総合科学技術研究所	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	0 (0)
		情報技術センター	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
		総合社会科学研究所	0 (0)	0 (0)	1	0 (0)	1	0 (0)	0 (0)
		高輪教養教育センター	4	3	(1)	0	(1)	0	43
		清水教養教育センター	(4)	(3)	(1)	(0)	(8)	(0)	(43) 55
		海洋研究所	(9)	(10)	(5)	(0)	(24)	(0)	(55)
		総合医学研究所	(2)	(1)	(0)	0	(4)	(0)	(0)
		九州教養教育センター	(1)	(0)	(0)	(0)	(1) 16	(0)	(0) 23
		総合農学研究所	(4)	(8)	(4)	(0)	(16)	(0)	(23)
		札幌教養教育センター	(2) 7	(0)	(1)	(0)	(3)	(0)	(0)
分	न		(7) 64	(0) 66	(0) 47	(0)	(7) 185	(0)	(33)
<u> </u>		計	(64) 594	(66) 360	(47) 386	(8) 426	(185) 1766	(0)	_
		合 計	(591)	(360)	(381)	(426)	(1758)	(0)	_

					職		種				専 任			兼	任			計	
教員		事		į	務		職		員		779			269				048	
以											(779) 57			(269	)			048) 59	_
外の		技		1	術		職		員		(57)			(2)			(	59)	
職		図	書	1	館	専	門	職	員		44 (44)			(22)	)			66 66)	
員の		そ	0	`	他	1 (	カ	職	員		8			0				8	
概		٠.	V.	,	TLE	4 0	9	ЛЕК	貝		(8)			(0) 293				(8) 181	
要						計					(888)			(293				181)	
校地		X		分	}			専	用		共 用			共用する 対校等σ			1	<b>計</b>	東海大学付属望星高等学校と 共用 名称:東海大学付属望星高等 学校(通信制) 収容定員:3,000名 校地面積基準:なし
		校	舎!	敷	地			1, 770,	691. 41 m²		2, 052	88 m²			0.00	m²	1, 772,	744. 29 m²	内借用地: 55,045.86㎡
等		運動	助場	用	地			396,	797. 97 m²		0	00 m²			0.00	m²	396,	797. 97 m²	内借用地: 47, 282. 12㎡
		小			計			2, 167,	489. 38 m²		2, 052	88 m²			0.00	m²	2, 169,	542. 26 m²	
		そ	の		他			211,	174. 76 m²			$00\ m^2$			0.00	m²	211,	174.76 m²	内借用地:153,717.23㎡
		合			計			2, 378,	664. 14 m²	2, 052. 88 m²				m²	1 2, 380, 717. 02				借用期間:2~30年
	14 A			用	共 用			共用する他の 学校等の専用					計						
	校 舎 532,456.			456. 15 m²	î 0.00 m²						m²	i 532, 456. 15 m²							
	( 532, 456. 15 m			6. 15 m²)		(0.0	0 m²)	(0.00 m²)			<sup>2</sup> )	1							
	L		計	義	室			演習	室	97.	実験実習望	Ē	情幸	<b>W</b> 理学	習施設		語学学	丝習施設	
教国	<b>芒等</b>				4	80 室			328 室		1,	260 室	(	補助職	79 員 20 人	室()	(補助)	6 3 職員 0 人)	大学全体
	-4		7 2000				nd tota	Inn Land	新設学音	3等の名	称				室		数		
	専任	上教員	員研9	铚					部建築学科	£1.								18 当	_
							建築都市学部土木工学 図書 学術			<b>f雑誌</b>			40 mtr à	¥4 ₩erulet	F46 F F			4	
	新設	学部	等の	名科	尓	[ 5	ち外[	国書]	[うちタ	外国書〕 電子ジャー				′校/炒	・器具	標本			
図							₩			種〔うち外国					点		大学全体での共用として、		
書・	建	築都	市学	部				7, 250] 7, 098])				[410]     520       [371]     (505)			0 (0) 0 (0) (0 (0) )		電子データベースは37種[うち国 外16種] 学術雑誌(電子ジャーナル含		
設備																			■む) は約45,000種 [うち国外約 42,200種]
		Till I	+			106, 7	10 [1	7, 250]	1, 11	.0 [620]	J	490	[410]		520		(0)	0 [0]	電子ブックは約12,700点 [うち国外約7,000点]
						(105, 6	70 [17	7,098])	(1, 042	[575]	)	(441	(371))		(505)	(0)	(0))	(0 [0])	が利用可能。
	函	書館						面積			- 6	覧座席	<b>丐数</b>		収	納	可 能	冊数	大学全体
							21	, 687. 0		m²	3	, 734		席		-	18, 166	<del>III</del> .	X1 = F
	体育館 24,060,70			2	1.1.		育館以タ センター		パーツ施				大学全体						
	24,060.79 区分開設前年度第1			_	m² √r ≅	52年次		年次		年次		5mプール 5 年次	第6年次						
	教員1人当り研究費等			330千		330千円		330千円		30千円	Ma.	- 千円	— 千P						
経費の	費の 経費 の見 共同研究費等 1,68			1,680 €		,680千円		330千円 330千円 ,680千円 1,680千円			— 千円	— 千円	<u> </u>						
見積り及び組	積り 積り 英 同 妍 先 賀 等 1,68			370∓	·H	540千円	7	1,680千円 1,680千円 710千円 880千円			— 千円	— 千円	図書購入費には電子ジャーナ						
持方法の概要	去	(2) []	设 備	計	黄 ,	入費	2,9	994千円	2,994千	円 2	, 994千円	2, 9	994千円	2, 9	94千円		一 千円	— 千四	ー ル・データベースの整備費(運 用コスト含む)を含む。
V 2/13/15		学生	1人	当り		第	1 年》	7	第2年次		第3年次		第4年	次	第	5年次		第6年次	
		紗	付金	:		1, 5	54千1	<del>J</del>	1,354千	円	1, 3547	円	1, 3	54千円		_	千円	一千四	3
	学生	41.11						私	立大学	等経常経費補助金、手数料			数料等						

	大学の名称	東	海 大 学									
	学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学定員	収容 定員	学位又 は称号	定 員 超過率	開設 年度	所 在	地	備	考
既		年	人	年次	人	1849.73	倍					
				人								
	文学部		370	_	1, 480		1. 02		神奈川県平塚市:			
	文明学科	4	60	_	240	学士(文学)	1. 03	平成13年	"			
	7ジア文明学科	4	_	_	_	学士(文学)	_	平成13年	"			<b>り学生募集停止</b>
	ヨーロッハ゜文明学科	4	_	_	_	学士(文学)	_	平成13年	"		平成30年度より	
	アメリカ文明学科	4	_	_	_	学士(文学)	_	平成13年	"		平成30年度より	
設	北欧学科	4	_	_	-	学士(文学)	_	昭和42年	"		平成30年度より	り学生募集停止
	歴史学科		130	_	520		1. 02	昭和35年	"			
	日本史専攻	4	50	_	200	学士(文学)	1. 07	昭和58年	"			
	東洋史専攻	4	-	_	_	学士(文学)	_	昭和58年	"		平成30年度より	) 学生募集停止
	西洋史専攻	4	50	_	200	学士(文学)	0. 99	昭和58年	"			
	考古学専攻	4	30	_	120	学士(文学)	0. 99	昭和58年	"			
	日本文学科	4	90	_	360	学士(文学)	1. 01	平成13年	"			
	文芸創作学科	4	_	_	_	学士(文学)	_	平成13年	"		平成30年度より	) 学生募集停止
大	英語文化コミュニケーション学科	4	90	_	360	学士(文学)	1. 00	昭和35年	"			
	広報メディア学科	4	_	_	_	学士(文学)	_	平成13年	"		平成30年度より	<b>り学生募集停止</b>
	心理・社会学科	4	-	_	_	学士(文学)	_	平成13年	"		平成30年度より	) 学生募集停止
	文化社会学部		450	_	1, 800		1. 01	平成30年	神奈川県平塚市:	北金目4-1-1		
	アジア学科	4	70	_	280	学士(文化社会学)	1. 03	平成30年	"			
	ヨーロッパ・アメリカ学科	4	70	_	280	学士(文化社会学)	0. 99	平成30年	"			
	北欧学科	4	60	_	240	学士(文化社会学)	1. 02	平成30年	"			
学	文芸創作学科	4	60	_	240	学士(文化社会学)	1. 01	平成30年	"			
•	広報メディア学科	4	100	_	400	学士(文化社会学)	1. 01	平成30年	"			
	心理・社会学科	4	90	_	360	学士(文化社会学)	0. 99	平成30年	"			
	政治経済学部		480	_	1, 920		1.00	昭和41年	神奈川県平塚市:	北金目4-1-1		
	政治学科	4	160	_	640	学士(政治学)	1. 03	昭和41年	"			
	経済学科	4	160	_	640	学士(経済学)	0. 99	昭和41年	"			
	経営学科	4	160	_	640	学士(経営学)	0. 99	昭和49年	"			
	法学部		300	_	1, 200		1. 01	昭和61年	神奈川県平塚市:	北金目4-1-1		
等	法律学科	4	300	_	1, 200	学士(法学)	1. 01	昭和61年	"			
	教養学部		330	_	1, 320		1.03	昭和43年	神奈川県平塚市:	北金目4-1-1		
	人間環境学科		160	_	640		1. 01	昭和43年	"			
	自然環境課程	4	65	_	260	学士(教養学)	0. 97	昭和43年	"			
	社会環境課程	4	95	_	380	学士(教養学)	1. 01	昭和43年	"			
	芸術学科		90	_	360		1. 03	昭和43年	"			
	音楽学課程	4	32	_	128	学士(教養学)	1. 04	昭和43年	"			
_	美術学課程	4	20	_	80	学士(教養学)	1. 08	昭和43年	"			
の	デザイン学課程	4	38	_	152	学士(教養学)	1. 04	昭和43年	"			
	国際学科	4	80	_	320	学士(教養学)	1. 09	昭和47年	"			
	体育学部		480	_	1, 920		1. 01	昭和42年	神奈川県平塚市:	北金目4-1-1		
	体育学科	4	110	_	440	学士(体育学)	0. 97	昭和42年	"			
	競技スポーツ学科	4	140	_	560	学士(体育学)	1. 03	平成16年	"			
	武道学科	4	60	_	240	学士(体育学)	1. 02	昭和43年	"			
	生涯スポーツ学科	4	110	_	440	学士(体育学)	0. 99	昭和46年	"			
状	スポーツ・レジャーマネジメント学科	4	60	_	240	学士(体育学)	1. 03	平成16年	"			
	健康学部		200	_	800		1. 02	平成30年	神奈川県平塚市:	北金目4-1-1		
	健康マネジメント学科	4	200	_	800	学士(健康マネジメント学)	1. 02	平成30年	"			
	理学部		320	_	1, 280		0. 98	昭和39年	神奈川県平塚市:	北金目4-1-1	1	
	数学科	4	80	_	320	学士(理学)	0. 99	昭和39年	"			
	情報数理学科	4	80	_	320	学士(理学)	0. 99	昭和49年	"			
	物理学科	4	80	_	320	学士(理学)	0. 98	昭和39年	"			
	化学科	4	80	_	320	学士(理学)	0. 98	昭和39年	"			
況	情報理工学部		200	_	800		1. 03		神奈川県平塚市:		1	
	情報科学科	4	100	_	400	学士(工学)	1. 04	平成13年	// // // // // // // // // // // // //			
	コンピュータ応用工学科	4	100	_	400	学士(工学)	1. 03	平成13年	"			
	-/ //6/11 ナナイ		100		100	, <del>, , , , , , , , , , , , , , , , , , </del>	1.00	1/2/04	l		J	

ı	- ** **		1 000		F F60	1	1 01	misors &	#*************************************	]
	<b>工学部</b> 生命化学科	4	1, 390	_	5, 560	学士(工学)	1.01		神奈川県平塚市北金目4-1-1	
		4	100		400	• = \ • •	0.99	平成13年	"	
既	応用化学科 光·画像工学科		80	_	320	学士(工学)	1.00	平成13年		
	23 1100-111	4	60	_	240	学士(工学)	1.02	平成18年	"	
	原子力工学科	4	40	_	160	学士(工学)	0.89	平成18年	"	
	電気電子工学科	4	140	_	560	学士(工学)	1. 04	平成18年	"	
	材料科学科	4	80	_	320	学士(工学)	0. 98	昭和41年	"	
	建築学科	4	200	_	800	学士(工学)	1. 07	昭和41年	"	
	土木工学科	4	120	_	480	学士(工学)	1.05	昭和41年	"	
設	精密工学科	4	80	_	320	学士(工学)	1.06	昭和46年	"	
	機械工学科	4	140	_	560	学士(工学)	0. 99	昭和46年	"	
	動力機械工学科	4	150	_	600	学士(工学)	0. 99	昭和46年	"	
	航空宇宙学科	١.	140	_	560		0. 99	昭和42年	"	
	航空宇宙学専攻	4	90	_	360	学士(工学)	1. 03	昭和42年	"	
	航空操縦学専攻	4	50	_	200	学士(工学)	0. 93	昭和42年	#本川県立提索业を日4-1-1	
	医用生体工学科	4	60	_	240	学士(工学)	1. 04	平成22年	神奈川県平塚市北金目4-1-1 神奈川県伊勢原市下糟屋143	
大	観光学部		200	_	800		1. 03	平成22年	神奈川県平塚市北金目4-1-1 東京都渋谷区富ヶ谷2-28-4	
	観光学科	4	200	-	800	学士(観光学)	1. 03	平成22年	"	
	情報通信学部		320	_	1, 280		1. 02	平成20年	東京都港区高輪2-3-23	
	情報メディア学科	4	80	_	320	学士(工学)	1.00	平成20年	"	
	組込みソフトウェア工学科	4	80	_	320	学士(工学)	1. 07	平成20年	"	
	経営システム工学科	4	80	_	320	学士(工学)	1.00	平成20年	"	
	通信ネットワーク工学科	4	80	_	320	学士(工学)	1.04	平成20年	"	
学	海洋学部		530	-	2, 120		1.00	昭和37年	静岡県静岡市清水区折戸3-20-1	
	海洋文明学科	4	80	_	320	学士(海洋学)	1.00	平成16年	"	
	環境社会学科	4	80	_	320	学士(海洋学)	1.06	平成23年	"	
	海洋地球科学科	4	80	_	320	学士(海洋学)	1. 01	平成23年	"	
	水産学科	4	120	_	480	学士(海洋学)	1.04	平成18年	"	
	海洋生物学科	4	90	-	360	学士(海洋学)	1. 03	平成18年	"	
	航海工学科		80	-	320		0. 83	平成23年	"	
等	航海学専攻	4	20	_	80	学士(海洋学)	0. 96	平成23年	"	
	海洋機械工学専攻	4	60	-	240	学士(海洋学)	0. 78	平成23年	"	
	医学部		203	_	1, 048		0. 90	昭和49年	神奈川県平塚市北金目4-1-1 神奈川県伊勢原市下糟屋143	
	医学科	6	118	_	708	学士(医学)	0.88	昭和49年	"	
	看護学科	4	85	_	340	学士(看護学)	0. 97	平成30年	"	
	健康科学部							平成7年	神奈川県伊勢原市下糟屋143	平成30年度より学生募集停止
	看護学科	4	_	_	_	学士(看護学)	_	平成7年	"	平成30年度より学生募集停止
の	社会福祉学科	4	_	_	_	学士(社会福祉学)	_	平成7年	"	平成30年度より学生募集停止
	経営学部		230	-	920		0. 99	平成25年	熊本県熊本市東区渡鹿9-1-1	
	経営学科	4	150	_	600	学士(経営学)	1.04	平成25年	"	
	観光ビジネス学科	4	80	-	320	学士(経営学)	0. 92	平成25年	"	
	基盤工学部		140	_	560		0. 74	平成25年	熊本県熊本市東区渡鹿9-1-1	
	電気電子情報工学科	4	80	_	320	学士(工学)	0. 73	平成25年	"	
	医療福祉工学科	4	60	_	240	学士(工学)	0. 77	平成25年	"	
状	農学部		230	_	920		0. 89	平成20年	熊本県阿蘇郡南阿蘇村河陽	
	応用植物科学科	4	80	_	320	学士(農学)	0. 95	平成20年	"	
	応用動物科学科	4	80	_	320	学士(農学)	0.88	平成20年	"	
	バイオサイエンス学科	4	70	_	280	学士(農学)	0. 86	平成20年	11	
	国際文化学部		260	_	1, 040		1. 01	平成20年	北海道札幌市南区南沢5条1-1-1	
	地域創造学科	4	110	_	440	学士(教養学)	1. 05	平成20年	"	
	国際コミュニケーション学科	4	80	_	320	学士(教養学)	1. 05	平成20年	"	
況	デザイン文化学科	4	70	_	280	学士(教養学)	0. 89	平成24年	"	
,,,,	生物学部		140	_	560		1. 02		北海道札幌市南区南沢5条1-1-1	
	生物学科	4	70	_	280	学士(理学)	0. 99	平成24年	"	
	海洋生物科学科	4	70	_	280	学士(理学)	1. 05	平成24年	"	

≪大学院≫	ĺ			l		1 1		İ	ĺ	
								双击17年	神奈川県平塚市北金目4-1-1 等	
総合理工学研究科	I+ I = 0.70	0	0.5		105		0.47			
総合理工学専攻	博士課程	3	35	_	105	博士(理学)・博士(工学)	0. 47	平成17年	"	
地球環境科学研究科	•								神奈川県平塚市北金目4-1-1 等	
地球環境科学専攻	博士課程	3	_	_	_	博士(理学)・博士(工学)	_	平成17年	"	令和3年度より
生物科学研究科								平成17年	神奈川県平塚市北金目4-1-1 等	
生物科学専攻	博士課程	3	10	_	30	博士(理学)・博士(農学) 博士(水産学)	0. 10	平成17年	"	
文学研究科								昭和44年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
文明研究専攻 博	士課程前期	2	8	_	16	修士(文学)	0.31	昭和49年	"	
文明研究専攻 博	士課程後期	3	4	_	12	博士(文学)	0.41	昭和51年	"	
史学専攻博	士課程前期	2	8	_	16	修士(文学)	0.06	昭和44年	"	
史学専攻 博	士課程後期	3	4	_	12	博士(文学)	0.00	昭和46年	"	
日本文学専攻 博	士課程前期	2	8	_	16	修士(文学)	0.81	昭和49年	"	
日本文学専攻 博	士課程後期	3	4	_	12	博士(文学)	0. 50	昭和51年	"	
英文学専攻 博	士課程前期	2	4	_	8	修士(文学)	0. 12	昭和44年	"	
	士課程後期	3	2	_	6	博士(文学)	0.00	昭和46年	"	
コミュニケーション学専攻		2	8	_	16	修士(文学)	0. 43	昭和49年	"	
コミュニケーション学専攻		3	4	_	12	博士(文学)	0. 00	昭和51年	"	
	士課程	2	8	_	16	修士(観光学)	0. 43	平成26年	,,	
政治学研究科	- IM IE	-	-		10	19 I (1000 17)	0. 10		神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	士課程前期	2	10	_	20	修士(政治学)	0. 05	昭和46年	// // // // // // // // // // // // //	
	士課程後期	3	5		15	博士(政治学)	0.00	昭和48年	"	
5774 3 3 27 13	上际性该别	3	J		10	将工(以 <i>山于)</i>	0.00			
経済学研究科	*   ======	0	10		00	₩± (₩;★₩)	0.10		神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	尊士課程前期	2	10	_	20	修士(経済学)	0. 10	昭和54年	"	
	<b>尊士課程後期</b>	3	5	_	15	博士(経済学)	0. 00	昭和56年	"	
法学研究科								平成2年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	士課程前期	2	10	_	20	修士(法学)	0. 00	平成16年	"	
法律学専攻 博	士課程後期	3	5	_	15	博士(法学)	0. 00	平成5年	"	
人間環境学研究科								平成19年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
人間環境学専攻	修士課程	2	10	-	20	修士(学術)	0. 45	平成19年	"	
芸術学研究科								昭和48年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
音響芸術専攻	修士課程	2	4	_	8	修士(芸術学)	0. 37	昭和48年	"	
造型芸術専攻	修士課程	2	4	_	8	修士(芸術学)	0. 37	昭和48年	"	
体育学研究科								昭和51年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
体育学専攻	<b>尊士課程前期</b>	2	20	_	35	修士(体育学)	1. 36	昭和51年	"	
体育学専攻	博士課程後期	3	3	_	3	博士(体育学)	_	令和3年	"	
理学研究科								昭和43年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
数理科学専攻	修士課程	2	8	_	16	修士(理学)	0. 56	昭和43年	"	
物理学専攻	修士課程	2	12	_	24	修士(理学)	1. 37	昭和43年	"	
化学専攻	修士課程	2	12	_	24	修士(理学)	0.49	昭和43年	"	
工学研究科								昭和38年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
電気電子工学専攻	修士課程	2	50	_	100	修士(工学)	1. 03	平成28年	"	
応用理化学専攻		2	45	_	90	修士(工学)	1. 24	平成28年	"	
建築土木工学専攻		2	25	_	50	修士(工学)	1. 16	平成28年	"	
機械工学専攻	修士課程	2	75	_	150	修士(工学)	1. 21	平成28年	"	
医用生体工学専攻		2	8	_	16	修士(工学)	0. 37		神奈川県伊勢原市下糟屋143	
	12 - W11	-				· - 1/	2.07		東京都港区高輪2-3-23	
情報通信学研究科				ĺ						
情報通信学研究科 情報通信学恵攻	修十理段	2	30	_	60	修十(情報通信学)	n aa	平成24年	"	
情報通信学研究科 情報通信学専攻 海洋学研究科	修士課程	2	30	_	60	修士(情報通信学)	0. 99	平成24年	# 静岡県静岡市清水区折戸3-20-1	

1 1					1	1				T	1
	医学研究科								昭和55年	神奈川県伊勢原市下糟屋143	
	医科学専攻	修士課程	2	10	_	20	修士(医科学)	0. 80	平成7年	"	
既	先端医科学専攻	博士課程	4	35	-	140	博士(医学)	0. 49	平成17年	"	
	健康科学研究科								平成11年	神奈川県伊勢原市下糟屋143	
	看護学専攻	修士課程	2	10	-	20	修士(看護学)	0. 85	平成11年	"	
設	保健福祉学専攻	修士課程	2	10	_	20	修士(保健福祉学)	0. 15	平成11年	"	
	農学研究科								平成20年	熊本県阿蘇郡南阿蘇村河陽	
大	農学専攻	修士課程	2	12	_	24	修士(農学)	0. 87	平成20年	"	
	生物学研究科								令和2年	北海道札幌市南区南沢5条1-1-1	
224	生物学専攻	修士課程	2	8	_	16	修士 (理学)	0. 25	令和2年	"	
学	大学の名	称	東海	大学短期	引大学部						
等	学部等の名	名 称	修業 年限	入 学	編入学定 員	収 容定員	学位又 は称号	定 員超過率	開 設 年 度	所 在 地	
			年	人	年次	人		倍			
_					人						
Ø	食物栄養学科		2	_	_	_	短期大学士(食物業養学)	_	昭和41年	静岡県静岡市葵区宮前町101	令和2年度より学生募集停止
	児童教育学科		2	_	_	_	短期大学士(児童教育学)	_	昭和44年	"	令和2年度より学生募集停止
状	大学の名	称	東海	大学医療	<b>寮技術短</b> 期	朝大学					
	学部等の名	名 称	修業 年限	入 学定 員	編入学 定 員	収 容定員	学位又 は称号	定 員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
況			年	人	年次	人		倍			
					人						
	看護学科		3	_	-	-	短期大学士(看護 学)	_	昭和49年	神奈川県平塚市北金目4-1-2	令和2年度より学生募集停止

### 【別紙】同一設置者内における変更状況

```
政治経済学部経営学科(廃止)(△160)
                                   ※令和4年4月学生募集停止
教養学部国際学科(廃止)(Δ 80)
工学部生命化学科(廃止)(Δ100)
                                  ※ 令和 4 年 4 日学 生 墓 集 停 止
                                  ※今和4年4日学生募集停止
工学部光・画像工学科(廃止)(△ 60)
                                  ※ 令和 4 年 4 日学 生 墓 集 停 止
工学部原子力工学科(廃止)(△ 40)
                                  ※令和4年4月学生募集停止
工学部材料科学科(廃止)(△ 80)
                                  ※令和4年4月学生募集停止
工学部建築学科 (廃止) (△200)
                                  ※令和4年4月学生募集停止
工学部土木工学科 (廃止) (Δ120)
工学部精密工学科 (廃止) (Δ80)
                                   ※ 令和 4 年 4 月学 生 墓 集 停 止
                                  ※令和4年4月学生募集停止
工学部動力機械工学科(廃止)(Δ150)
工学部医用生体工学科(廃止)(Δ60)
                                  ※令和4年4月学生募集停止
                                  ※令和4年4月学生募集停止
情報通信学部情報メディア学科(廃止)(△ 80)
                                  ※令和4年4月学生募集停止
情報通信学部組込みソフトウェア工学科(廃止)(△ 80)※令和4年4月学生募集停止
情報通信学部経営システム工学科(廃止)(△ 80) ※令和4年4月学生募集停止
情報通信学部通信ネットワーク工学科(廃止)(△ 80)
                                  ※令和4年4月学生募集停止
海洋学部海洋文明学科(廃止)(A 80)
海洋学部環境社会学科(廃止)(A 80)
                                  ※ 令和 4 年 4 日学生募集停止
                                  ※ 令和 4 年 4 日学 生 墓 集 停 止
海洋学部海洋地球科学科(廃止)(△ 80)
                                  ※令和4年4月学生募集停止
海洋学部航海工学科航海学専攻(廃止)(△ 20)
                                  ※令和4年4月学生募集停止
海洋学部航海工学科海洋機械工学専攻(廃止)(△ 60)
                                  ※令和4年4月学生募集停止
経営学部 (廃止)
                                   ※令和4年4月学生募集停止
 経営学科(廃止)(△150)
                                   ※令和4年4月学生募集停止
 観光ビジネス学科 (廃止) (△ 80)
                                   ※令和4年4月学生募集停止
基盤工学部 (廃止)
                                   ※令和4年4月学生募集停止
 電気電子情報工学科(廃止)(△ 80)
                                  ※令和4年4月学生募集停止
 医療福祉工学科 (廃止) (△ 60)
                                  ※令和4年4月学生募集停止
展学部応用動物科学科(廃止)(△ 80)
農学部応用動物科学科(廃止)(△ 80)
農学部バイオサイエンス学科(廃止)(△ 70)
                                  ※令和4年4月学生募集停止
                                  ※ 令和 4 年 4 日学生募集停止
                                  ※ 令和 4 年 4 日学生墓集停止
国際文化学部デザイン文化学科(廃止)(△ 70)
                                  ※令和4年4月学生募集停止
児童教育学部(令和3年3月認可申請)
 児童教育学科(150)
経営学部(令和3年4月届出予定)
 経営学科(230)
国際学部(令和3年4月届出予定)
 国際学科(200)
情報理工学部情報メディア学科(100)(令和3年4月届出予定)
工学部生物工学科(100)(令和3年4月届出予定)
工学部機械システム工学科(140)(令和3年4月届出予定)
工学部医工学科(80)(令和3年4月届出予定)
情報通信学部情報通信学科(240)(令和3年4月届出予定)
人文学部(令和3年4月届出予定)
 人文学科(180)
海洋学部海洋理工学科海洋理工学専攻(130)(令和3年4月届出予定)
海洋学部海洋理工学科航海学専攻(20)(令和3年4月届出予定)
文理融合学部(令和3年4月届出予定)
 経営学科(130)
 地域社会学科(100)
 人間情報工学科(70)
農学部農学科(80)(令和3年4月届出予定)
農学部動物科学科(80)(令和3年4月届出予定)
農学部食生命科学科(70)(令和3年4月届出予定)
政治経済学部
 政治学科[定員増](40)(令和4年4月)
 経済学科[定員増](40)(令和4年4月)
教養学部
 人間環境学科〔定員減〕 (△40) (令和4年4月)
 芸術学科[定員減](△20)(令和4年4月)
体育学部
 体育学科[定員増](10)(令和4年4月)
 競技スポーツ学科 [定員増] (30) (令和4年4月)
生涯スポーツ学科 [定員増] (10) (令和4年4月)
 スポーツ・レジャーマネジメント学科〔定員増〕(10)(令和4年4月)
工学部
 応用化学科〔定員増〕(20)(令和4年4月)
 電気電子工学科[定員減](△20)(令和4年4月)
海洋学部
 海洋生物学科[定員減](△10)(令和4年4月)
医学部
 看護学科[定員增](10)(令和4年4月)
生物学部
 生物学科「定員増」(5)(令和4年4月)
 海洋生物科学科[定員增](5)(令和4年4月)
```

# 学校法人東海大学 設置認可等に関わる組織の移行表

# 令和3年度

# 令和4年度

学 部			ı			ı
•	学科·専攻·	課程	入学定員	編入学定員		備考
	文明学科		60	_	240	
		日本史専攻	50	_	200	
文学部	歴史学科	西洋史専攻	50	_	200	
		考古学専攻	30	_	120	
	日本文学科		90	_	360	
	英語文化コミュニケーション学科		90	_	360	
	アジア学科		70	_	280	
	ヨーロッパ・アメリカ学科		70	_	280	
+ 11. H. A. M. +n	北欧学科		60	_	240	
文化社会学部	文芸創作学科		60	_	240	
	広報メディア学科		100	_	400	
	心理·社会学科		90	_	360	
	政治学科		160	_	640	
政治経済学部	経済学科		160	_	640	
	経営学科		160	_	640	
			100		040	
	法律学科		300		1200	
<b>公子</b> 即	<b>公</b> 年于行			_		
	人間環境学科	自然環境課程	65	_	260	
		社会環境課程	95	_	380	
教養学部		音楽学課程	32	_	128	
	芸術学科	美術学課程	20	_	80	
		デザイン学課程	38	_	152	
	国際学科	·	80	_	320	
	体育学科		110	_	440	
	競技スポーツ学科		140	_	560	
体育学部	武道学科		60	_	240	
	生涯スポーツ学科		110		440	
	生涯スポーツ字科 スポーツ・レシ・ャーマネシ・メント学科			_		
h 库 쓴 *n			60	_	240	
健康学部	健康マネシ・メント学科		200	_	800	
	数学科		80	_	320	
理学部	情報数理学科		80	_	320	
	物理学科		80	_	320	
	化学科		80	_	320	
情報理工学部	情報科学科		100	_	400	
新理工子部	コンピュータ応用工学科		100	_	400	
	生命化学科		100	_	400	
	応用化学科		80		320	
	光・画像工学科		60	_	240	
	原子力工学科		40		160	
	電気電子工学科		140	_	560	
	材料科学科		80	_	320	
工学部	建築学科		200	_	800	
エナル	土木工学科		120	_	480	
	精密工学科		80	_	320	
	機械工学科		140	_	560	
	動力機械工学科		150		600	
	2075 120 170 7 1-1	航空宇宙学専攻	90		360	
	航空宇宙学科					
	EB+4-#4	航空操縦学専攻	50	_	200	
	医用生体工学科		60	_	240	
観光学部	観光学科		200	_	800	
	情報メディア学科		80	_	320	
<b>桂起泽后</b> 学如	組込みソフトウェア工学科		80	_	320	
情報通信学部	経営システム工学科		80	_	320	
	通信ネットワーク工学科		80	_	320	
	海洋文明学科		80	_	320	
				_		
	環境社会学科		80	_	320	
	環境社会学科 海洋地球科学科		80 80		320 320	
sac sign dala da	環境社会学科 海洋地球科学科 水産学科		80 80 120	_ _ _	320 320 480	
海洋学部	環境社会学科 海洋地球科学科	Ta	80 80 120 90	_ _ _ _	320 320 480 360	
海洋学部	環境社会学科 海洋地球科学科 水産学科	航海学専攻	80 80 120 90 20	_ _ _	320 320 480 360 80	
海洋学部	環境社会学科 海洋地球科学科 水産学科 海洋生物学科	航海学専攻海洋機械工学専攻	80 80 120 90	_ _ _ _	320 320 480 360	
海洋学部	環境社会学科 海洋地球科学科 水産学科 海洋生物学科		80 80 120 90 20	_ _ _ _	320 320 480 360 80	
海洋学部	環境社会学科 海洋地球科学科 水産学科 海洋生物学科		80 80 120 90 20	_ _ _ _	320 320 480 360 80 240	
	環境社会学科 海洋地球科学科 水産学科 海洋生物学科		80 80 120 90 20	_ _ _ _	320 320 480 360 80 240	118名は令和33度入学生まで
海洋学部	環境社会学科 海洋地球科学科 水産学科 海洋生物学科 航海工学科		80 80 120 90 20 60	_ _ _ _	320 320 480 360 80 240	118名は令和33度 度入学生まで
医学部	環境社会学科 海洋地球科学科 水産学科 海洋生物学科 航海工学科		80 80 120 90 20 60	_ _ _ _	320 320 480 360 80 240	118名は全和348度入学生まで
	環境社会学科 海洋地球科学科 水産学科 海洋生物学科 航海工学科 医学科 看護学科		80 80 120 90 20 60 118 85 150	_ _ _ _	320 320 480 360 80 240 708 340 600	118名は今和33度入学生まで
医学部	環境社会学科 海洋地球科学科 水産学科 海洋生物学科 航海工学科 医学科 看護学科 経営学科 観光ピジネス学科		80 80 120 90 20 60 118 85 150	_ _ _ _	320 320 480 360 80 240 708 340 600 320	118名は全和33度入学生まで
医学部 经営学部	環境社会学科 海洋地球科学科 水産学科 海洋生物学科 航海工学科 医学科 看護学科 経営学科		80 80 120 90 20 60 118 85 150 80	_ _ _ _	320 320 480 360 80 240 708 340 600 320 320	118名は令和33度入学生まで
医学部	環境社会学科 海洋地球科学科 水産学科 海洋生物学科 航海工学科 医学科 看護学科 経営学科 観光ビジネス学科 電気電子情報工学科		80 80 120 90 20 60 118 85 150	- - - - - - - - -	320 320 480 360 80 240 708 340 600 320	118名は令和34度入学生まで
医学部 经営学部	環境社会学科 海洋地球科学科 水産学科 海洋生物学科 航海工学科 医学科 看護学科 経営学科 観光ビジネス学科 電気電子情報工学科		80 80 120 90 20 60 118 85 150 80	- - - - - - - - -	320 320 480 360 80 240 708 340 600 320 320	118名は今和33度入学生まで

		令	和4年月	复			
東海大学 学 部	学科• 専攻	·課程	入学定員	編入学定員	収容定員	備考	変更の事由
	文明学科		60	_	240	ing · 5	22.77
		日本史専攻	50	_	200		
324 <del>\$</del> 13	歴史学科	西洋史専攻	50	_	200		
文学部		考古学専攻	30	_	120		
	日本文学科	1	90	_	360		
	英語文化コミュニケーション学科		90	_	360		
	アジア学科		70	_	280		
	ヨーロッパ・アメリカ学科		70	_	280		
文化社会学部	北欧学科		60	_	240		
	文芸創作学科		60	_	240		
	広報メディア学科		100	_	400		
	心理·社会学科		90		360		+=+=/\
政治経済学部	政治学科 经济党制		<u>200</u>		800		定員変更(40)
	経済学科		200		800		定員変更(40)
経営学部	経営学科		<u>0</u> 230	_	<u>0</u> 920		令和4年4月学生募集停止 学部の設置(届出)
法学部	法律学科		300		1200		于即 <b>以政</b> 區(周田/
					1200		
	人間環境学科		<u>120</u>	_	<u>480</u>		定員変更(△40)
*/L *** 334 &n							
教養学部	芸術学科		<u>70</u>	_	<u>280</u>		定員変更(△20)
			<u> </u>	L		_	
			0	_	<u>0</u>		令和4年4月学生募集停止
<u>国際学部</u>	国際学科		200	_	<u>800</u>		学部の設置(届出)
児童教育学部	児童教育学科		<u>150</u>	_	<u>600</u>		学部の設置(認可申請)
	体育学科		<u>120</u>	_	<u>480</u>		定員変更(10)
	競技スポーツ学科		<u>170</u>	_	<u>680</u>		定員変更(30)
体育学部	武道学科		60	_	240		点星素学なら
	生涯スポーツ学科	al .	<u>120</u>		<u>480</u>		定員変更(10)
健康学如	スポーツ・レシ・ャーマネシ・メント学系健康マネシ・メント学科	7	<u>70</u>	_	<u>280</u>		定員変更(10)
健康学部	数学科		200		800		
	情報数理学科		80	_	320 320		
理学部	物理学科		80		320		
	化学科		80		320		
	情報科学科		100	_	400		
情報理工学部	コンピュータ応用工学科		100	_	400		
	情報メディア学科		100	_	400		学部の学科の設置(届出)
			0	_	<u>o</u>		令和4年4月学生募集停止
	生物工学科		100	_	<u>400</u>		学部の学科の設置(届出)
	応用化学科		<u>100</u>	_	<u>400</u>		定員変更(20)
			<u>0</u>	_	<u>0</u>		令和4年4月学生募集停止
			<u>0</u>	_	<u>0</u>		令和4年4月学生募集停止
	電気電子工学科		<u>120</u>	_	<u>480</u>		定員変更(△20)
			<u>0</u>	_	<u>0</u>		令和4年4月学生募集停止
- ***			0	_	0		令和4年4月学生募集停止
工学部			0	_	<u>0</u>		令和4年4月学生募集停止
	機械システム工学科		<u>0</u> 140	_	<u>0</u> 560		令和4年4月学生募集停止 学部の学科の設置(届出)
	機械工学科		140	_	560		子中07子中000厘(海四)
			0	_	<u>0</u>		令和4年4月学生募集停止
		航空宇宙学専攻	90	_	360		
	航空宇宙学科	航空操縦学専攻	50	_	200		
			0	_	<u>0</u>		令和4年4月学生募集停止
	医工学科		80	_	<u>320</u>		学部の学科の設置(届出)
建築都市学部	建築学科		240	_	<u>960</u>		学部の設置(届出)
	土木工学科		<u>100</u>	_	<u>400</u>		2 NF 以上 \/用出/
観光学部	観光学科		200	_	800		
			0	_	<u>0</u>		令和4年4月学生募集停止
<b>練却沒怎些~~</b>			0	_	0		令和4年4月学生募集停止
情報通信学部			0	_	<u>0</u>		令和4年4月学生募集停止
	情報通信学科		<u>0</u>	_	<u>0</u>		令和4年4月学生募集停止
人文学部	人文学科		240 180	_	<u>960</u> 720		学部の学科の設置(届出) 学部の設置(届出)
- 3 - 2 - 3 H L			180 0	_	<u>/20</u>		字即の設置(油田)
			0	_	0		令和4年4月学生募集停止
			0	_	0		令和4年4月学生募集停止
	水産学科		120	_	480		
海洋学部	海洋生物学科		<u>80</u>	_	<u>320</u>		定員変更(△10)
			<u>0</u>	_	<u>0</u>		令和4年4月学生募集停止
			<u>0</u>		<u>0</u>		
	<u>海洋理工学科</u>	海洋理工学事攻	<u>130</u>		<u>520</u>		学部の学科の設置(届出)
		航海学専攻	<u>20</u>		<u>80</u>		
医学部	医学科		110		660		臨時定員増(8)は令和3年度まで
	看護学科		<u>95</u>		<u>380</u>		定員変更(10)
			<u>0</u>		<u>0</u> <u>0</u>		令和4年4月学生募集停止 令和4年4月学生募集停止
			0		<u>0</u>		令和4年4月学生募集停止
			0		0		令和4年4月学生募集停止
<u></u>	経営学科		130		<u>520</u>		
文理融合学部	地域社会学科		100		400		学部の設置(届出)
			<u>70</u>		280		
1	1		. <u></u>	1			1

#### 今和3年度

	令和3年	F度			
	応用植物科学科	80	_	320	
農学部	応用動物科学科	80	_	320	
	パイオサイエンス学科	70	_	280	
	地域創造学科	110	_	440	
国際文化学部	国際コミュニケーション学科	80	_	320	
	デザイン文化学科	70	_	280	
生物学部	生物学科	70	_	280	
工物子即	海洋生物科学科	70	_	280	
	計	6773	_	27328	

## 東海大学大学院

研究科	専攻		入学定員	編入学定員	収容定員	備考
総合理工学研究科	総合理工学専攻	(D)	35	_	105	
生物科学研究科	生物科学専攻	(D)	10	_	30	
	文明研究専攻	(M)	8	_	16	
	又明研究导攻	(D)	4	_	12	
	中学事件	(M)	8	_	16	
	史学専攻	(D)	4	_	12	
	口士立尚事故	(M)	8	_	16	
文学研究科	日本文学専攻	(D)	4	_	12	
	<b>本</b> 女 学 車 <b>ひ</b>	(M)	4	_	8	
	英文学専攻	(D)	2	_	6	
	コンニケンル労事を	(M)	8	_	16	
	コミュニケーション学専攻	(D)	4	_	12	
	観光学専攻	(M)	8	_	16	
<b>5.</b>	<b>水</b> 公学事 <b>水</b>	(M)	10	_	20	
<b>政治学研究科</b>	政治学専攻	(D)	5	_	15	
(2 15 AL THE OF THE	<b>内田保汝尚事</b>	(M)	10	_	20	
経済学研究科	応用経済学専攻	(D)	5	_	15	
+ 24 77 77 77 54	\+ \ch \tau \= \- \ch	(M)	10	_	20	
去学研究科	法律学専攻	(D)	5	_	15	
人間環境学研究科	人間環境学専攻	(M)	10	_	20	
H-45-24-77 (** 5.1	音響芸術専攻	(M)	4	_	8	
<b>芸術学研究科</b>	造型芸術専攻	(M)	4	_	8	
+********	<b>从</b> 充带事业	(M)	20	_	40	
本育学研究科	体育学専攻	(D)	3	_	9	
	数理科学専攻	(M)	8	_	16	
理学研究科	物理学専攻	(M)	12	_	24	
	化学専攻	(M)	12	_	24	
	電気電子工学専攻	(M)	50	_	100	
	応用理化学専攻	(M)	45	_	90	
工学研究科	建築土木工学専攻	(M)	25	_	50	
	機械工学専攻	(M)	75	_	150	
	医用生体工学専攻	(M)	8	_	16	
青報通信学研究科	情報通信学専攻	(M)	30	_	60	
毎洋学研究科	海洋学専攻	(M)	20	_	40	
토쓴대호원	医科学専攻	(M)	10	_	20	
医学研究科	先端医科学専攻(4年制D)	(D)	35	_	140	
神味利労取の利	看護学専攻	(M)	10	_	20	
建康科学研究科	保健福祉学専攻	(M)	10	_	20	
農学研究科	農学専攻	(M)	12	_	24	
生物学研究科	生物学専攻	(M)	8	_	16	
	計	1	563	_	1277	

# 令和4年度

		<u>0</u>	_	<u>0</u>	令和4年4月学生募集停止
	<u>農学科</u>	80	_	320	学部の学科の設置(届出)
農学部		<u>0</u>	_	<u>0</u>	令和4年4月学生募集停止
展于即	動物科学科	<u>80</u>	_	320	学部の学科の設置(届出)
		<u>0</u>	_	<u>0</u>	令和4年4月学生募集停止
	<u>食生命科学科</u>	<u>70</u>	_	<u>280</u>	学部の学科の設置(届出)
	地域創造学科	110	_	440	
国際文化学部	国際コミュニケーション学科	80	_	320	
		<u>0</u>	_	<u>0</u>	令和4年4月学生募集停止
生物学部	生物学科	<u>75</u>	_	300	定員変更(5)
土物子的	海洋生物科学科	<u>75</u>	_	<u>300</u>	定員変更(5)
	計	<u>6855</u>	_	<u>27640</u>	
				•	

## 東海大学大学院

研究科	専攻		入学定員	編入学定員	収容定員	備考	変更の事由
総合理工学研究科	総合理工学専攻	(D)	35	_	105		
生物科学研究科	生物科学専攻	(D)	10	_	30		
		(M)	8	_	16		
	文明研究専攻	(D)	4	_	12		
	+ W + - L	(M)	8	_	16		
	史学専攻	(D)	4	_	12		
		(M)	8	_	16		
文学研究科	日本文学専攻	(D)	4	_	12		
	# 1 W = 1	(M)	4	_	8		
	英文学専攻	(D)	2	_	6		
		(M)	8	_	16		
	コミュニケーション学専攻	(D)	4	_	12		
	観光学専攻	(M)	8	_	16		
		(M)	10	_	20		
政治学研究科	政治学専攻	(D)	5	_	15		
		(M)	10	_	20		
経済学研究科	応用経済学専攻	(D)	5	_	15		
		(M)	10	_	20		
法学研究科	法律学専攻	(D)	5	_	15		
人間環境学研究科	人間環境学専攻	(M)	10	_	20		
	音響芸術専攻	(M)	4	_	8		
芸術学研究科	造型芸術専攻	(M)	4	_	8		
		(M)	20	_	40		
体育学研究科	体育学専攻	(D)	3	_	9		
	数理科学専攻	(M)	8	_	16		
理学研究科	物理学専攻	(M)	12	_	24		
	化学専攻	(M)	12	_	24		
	電気電子工学専攻	(M)	50	_	100		
	応用理化学専攻	(M)	45	_	90		
工学研究科	建築土木工学専攻	(M)	25	_	50		
	機械工学専攻	(M)	75	_	150		
	医用生体工学専攻	(M)	8	_	16		
 情報通信学研究科	情報通信学専攻	(M)	30	_	60		
<b>海洋学研究科</b>	海洋学専攻	(M)	20	_	40		
	医科学専攻	(M)	10	_	20		
医学研究科	先端医科学専攻(4年制D)	(D)	35	_	140		
	看護学専攻	(M)	10	_	20		
健康科学研究科	保健福祉学専攻	(M)	10	_	20		
 農学研究科	農学専攻	(M)	12	_	24		
生物学研究科	生物学専攻	(M)	8	_	16		
>	計	*****	563		1277		

(建:	筑都市尚	教 育	課	程		等	;	σ	)	根	ŧ	· (H)				Y 4 概型)
( <u>Æ</u>	来们川寸	一郎 连来于科》		į	単位数	女	授	業形		Ę	<b>∮任</b> 教	員等	の配置	置		
	斗目 区分	授業科目の名称	配当年次	必	選	自	講	演	実験	教	准	講	助	助		備考
	_/,			修	択	由	義	習	実習	授	教 授	師	教	手		
î	♠ I 現 代	現代文明論	2前・後	2			0								兼1	
	文明	小計 (1科目)	_	2	0	0		_	•	0	0	0	0	0	兼1	
現	基礎	入門ゼミナールA	1前	2			0			8	5	0	2	0		
代教養	教養科	入門ゼミナールB	1後	2			0			8	5	0	2	0		
科目	目	小計 (2科目)	_	4	0	0		_	•	8	5	0	2	0		
	発 展	シティズンシップ	1前・後	2			0								兼1	
	教 養 科	地域・国際理解	1前・後	2			0								兼1	
	目	現代教養講義	2前・後	2			0								兼1	
		小計 (3科目)	-	6	0	0		_		0	0	0	0	0	兼1	
	目健康?	健康・フィットネス理論実習	1前・後	1					0						兼1	
	ス ポ ー	生涯スポーツ理論実習	1前・後	1					0						兼1	
	ツ 科	小計(2科目)	_	2	0	0		_	•	0	0	0	0	0	兼1	
Ⅲ 英語	ケーショショ	英語リスニング&スピーキング	1前・後	2					0						兼1	
科目	ヨミンユ	英語リーディング&ライティング	1前・後	2					0						兼1	
	科二目	小計 (2科目)	-	4	0	0		-		0	0	0	0	0	兼1	
IV 主 専	建築の	建築の理数学	1前		2		0			2						オムニバス
攻科		建築デザイン演習 1 (設計製図基 礎)	1前		4			0		2	2					
目		建築デザイン演習 2 (空間基礎造 形)	1後		4			0		1	2		1			
		建築デザイン演習3 (住宅建築設計)	2前		4			0		2			1			
		デジタルデザイン演習	1休		2			0		1	1					集中
		建築デザイン入門	1前		2		0			1	1		1			オムニバス
		空間計画	1前		2		0				1					
		建築計画A	2前		2		0			1						
		日本建築史1	2前		2		0			1						
		西洋建築史 1	2後		2		0			1						

/ z=+ <	× ±n ± è	教育	課	程		等		σ	)	相	ŧ	孠			
(建)	紫郁巾-	学部 建築学科) 		į	単位数	女	授	業形	態	Ę	<b>享任教</b>	員等	の配記	置	
科	斗目 ☑分	授業科目の名称	配当年次	必	選	自	講	演	実験	教	准	講	助	助	備考
	27)			修	択	由	義	習	実習	授	教 授	師	教	手	
IV 主	建築	住宅論	2前		2		0		ė		1				
専攻科	の基礎	建築法規	1後・2前		2		0			1	1				
目		建築構造力学1A・演習	1後		4			0		2					
		建築構造力学1 B・演習	2前		4			0		1			1		
		生産・構法A	1前		2		0			1	1				
		生産・構法B	1後		2		0			1	1				
		生産・構法実験	2前・後		2				0	1	1				
		建築環境工学・演習	1後・2前		4			0		1	1				
		建築設備	2後・3前		2		0			1					
		小計 (19科目)	_	0	50	0		_		8	5	0	2	0	
IV 主 専	建 築 計	建築デザイン演習 4 (公共建築設計A)	2後		4			0		1	1				
攻科	画	建築デザイン演習 5 (公共建築設計B)	3前		4			0		1	1				
目		建築デザイン演習 6 (提案型建築 設計)	3後		4			0			1		1		
		建築計画B	2後		2		0			1					
		日本建築史2	2後		2		0			1					
		西洋建築史 2	3前		2		0			1					
		建築文化史	3前		2		0			1					
		近現代建築史	3後		2		0			1					
		小計(8科目)	_	0	22	0		_		4	1	0	1	0	
	地域デ	地域まちづくり	3前		2		0				1				
	ザイ	都市計画	3後		2		0				1				
	ン	都市デザイン	4前		2		0			1					
		地域デザイン・演習	3後		4			0		1	1		1		
		公共政策学	3後		2		0			1					
		地域マネジメント	4前		2		0			1					
		小計(6科目)	_	0	14	0		_		4	1	0	1	0	

/ g-b, Arb. 1		教育	課	程		等		σ	)	相	ŧ	<u>(田</u> 要				恰A4桃空)
(建築都)	市与	学部 建築学科) 			単位数	Į.	授	業形		Ę	<b>享任</b> 教	員等	の配記	<u></u>		
科目 区分		   授業科目の名称	配当年次	必	選	自	講	演	実験	教	准	講	助	助		備考
E-71				修	択	由	義	習	実習	授	教 授	師	教	手		
IV	E	建築構造力学2・演習	3前		4			0		1						
攻 学	ź	建築構造解析・演習	3後		4			0		1						
目		建築鉄筋コンクリート構造・演習	2後·3前		4			0					1			
		建築鋼構造・演習	2後		4			0		1						
		建築耐震工学	3前		2		0			1						
		建築基礎構造	3後		2		0								兼1	
		建築構造製図	3後		2			0							兼1	
		建築施工	3前		2		0								兼1	
		建築測量実習	3前		2				0				1			
		建築材料A	3前		2		0			1	1					
		建築材料B	3後		2		0			1	1					
		建築環境計画・演習	3前		4			0		1	1					
		建築設備計画	3後		2		0			1						
		建築設備設計・演習	3後		4			0		1						
		小計 (14科目)	_	0	40	0		-		4	2	0	1	0	兼3	
ま 選 ス	È	建築インターンシップ A	2休		2				0		1		1			集中
タテ	7 ≟	建築インターンシップB	3休		2				0		1		1			集中
1		建築プレゼンテーション英語	3休		2			0		1	1					集中
		海外建築研修	3休		2				0	1	1					集中
		小計(4科目)	_	0	8	0		_		2	3	0	1	0		

			144										_	(用		<u>п</u> / т / г	エベル	各A 4 純型)
			教	育	課	程		等		O)	)	相	<b>X</b>	3	更			
(建	築都市等	<del>堂部 建築学科)</del> 	)		<u> </u>		出 / + *	h	1.00	<del>-</del> ж п/-	台台	-	ち /て ギ		ກ≖າ≞	<u></u>	I	
						_	単位数	X 	技	業形	実	-	学性多	人員寺	の配置			
	斗目 区分	授業	科目の名称	尓	配当年次	必	選	自	講	演	験	教	准教	講	助	助		備考
						修	択	由	義	習	実習	授	授	師	教	手		
IV 主	ゼミナ	建築専門演習			3後		2			0	В	8	5		2			
専攻科	ナール	卒業研究			4前	4				0		8	5		2			
目		卒業論文・卒業	<b></b> <b></b> <b></b> <b></b> <b></b> <b></b> <b></b> <b></b> <b></b> <b></b>		4後	4				0		8	5		2			
		小計(3科目)			_	8	2	0		_		8	5	0	2	0		
		合計 (64科	目)		_	26	136	0		_		8	5	0	2	0	兼7	
学位:	又は称号		学士(					は学科	中の分	野						関係		
以下の		卒 業 要 24単位以上修得す		ひ び	履修	方	法							授	業期間	11等		
		登録の上限:20単		) )														
□科目	■区分 I	現代文明論	<必修科	目 >	2	単位修	得											
□科目	目区分Ⅱ	見代教養科目 基礎教養科目 発展教養科目 健康スポーツ科	<必修科	目 >	61	単位修 単位修 単位修	得			-	1 学年	の学	期区分	分				2 学期
□科目	目区分Ⅲ	英語コミュニケーション科目	目 <必修科	目>	4	単位修	得											
□科目	■区分IV	主専攻科目			<u>76</u> 3	単位修	得											
	修科目> ■ゼミナ·	ール に設定され	た必修科目	を8単位修得	。 (計 8単位)					-	1 学期	の授	業期間	間				14週
	■実践ス	基礎 ■建築計画 タディ ■ゼミナ れた選択科目を68.	ール		建築工学 (計68単位)													
□科目	目区分Ⅳ(	の余剰、他学部・	他学科科目	を修得した単	单位 <u>30單</u> <u>合計124單</u>	单位修行 单位修行					1 時限	め授	業時間	罰				100分

建	2.	学部 土木工学科) I					1			1					ı	
<b>T.</b> J	_				単位数			業形	実		専任教					
	目 分	授業科目の名称	配当年次	必修	選択	自由	講義	演習	験・実	教授	准 教 授	講師	助教	助手		備考
	現	現代文明論	2前・後	2			0		習						兼1	
	代 文 明	小計 (1科目)	_	2	0	0		_		0	0	0	0	0	兼1	
II 現	基礎	入門ゼミナールA	1前	2			0			5	3	0	1	0		
代教養	教養科	入門ゼミナールB	1後	2			0			5	3	0	1	0		
科目	目	小計 (2科目)	_	4	0	0		_		5	3	0	1	0		
	発展	シティズンシップ	1前・後	2			0								兼1	
	教養科	地域・国際理解	1前・後	2			0								兼1	
	目	現代教養講義	2前・後	2			0								兼1	
		小計 (3科目)	-	6	0	0		_		0	0	0	0	0	兼1	
	目健康ス	健康・フィットネス理論実習	1前・後	1					0						兼1	
	ポー	生涯スポーツ理論実習	1前・後	1					0						兼1	
	ツ 科	小計 (2科目)	-	2	0	0		-		0	0	0	0	0	兼1	
Ⅲ 英 語	ケーショ	英語リスニング&スピーキング	1前	2					0						兼1	
科目	ヨミンユ	英語リーディング&ライティング	1後	2					0						兼1	
	科二目	小計 (2科目)	-	4	0	0		-		0	0	0	0	0	兼1	
IV 主 専	土木の	土木数物の基礎	1前		1		0						1			
攻 科	基礎	土木の数学	1前	2			0			2	1					
目		土木の微積分	1後		2		0				1					
		工科の線形代数	1前		2		0			1						
		基礎統計学	2前		2		0				1					
		土木解析学	1後		2		0			1						
		物理学	1後		2		0								兼1	
		化学基礎	1後		2		0								兼1	
		基礎情報処理	1前	2				0			2					
		プログラミング基礎	1後		2			0			2					
		土木基礎力学1 (演習含む)	1前	2				0		2						
		土木基礎力学2 (演習含む)	1後	2				0		2						
		小計 (12科目)		8	15	0		-		4	3	0	1	0	兼2	
IV 主 専	都市と	防災まちづくり	1前		2		0			1	1					オムニバス
<b>攻</b> 科	防災	地震防災基礎	2後		2		0			1						
目		都市防災工学	3前		2		0			1			1			オムニバス
		構造力学 1	2前	2			0			1						
		構造力学演習	2前	2				0		1						

/ Z由 <b></b>	5.±n±		課和	Ē	4	等		の		概		要				規格 A 4 鞭型)
(建)	印仰	学部 土木工学科)   			単位数	ţ	括	受業形	態	1	専任教	女員等	の配置	<u> </u>		
科 区	目分	授業科目の名称	配当年次	必	選	佃	講	演	実験	教	准	講	助	助		備考
	/]			修	択	由	義	習	実習	授	教 授	師	教	手		
IV 主	都市	構造力学 2	2後		2		0			1						
専攻科	と防災	橋梁工学	3休		2		0								兼1	集中
目		土質力学1	2前		2		0						1			
		土質力学演習	2前	2				0					1			
		土質力学2	2後	2			0			1			1			
		道路工学	3後		2		0			1						
		コンクリート工学1	2後	2			0			1						
		コンクリート工学2	3前	2			0			1						
		コンクリート構造	3前		2		0				1					
		メンテナンス工学	3休		2		0			1						集中
		土木施工	3前		2		0			1						
		建設マネジメント	3後		2		0			1						
		小計 (17科目)		12	22	0		_		5	1	0	1	0	兼1	
	都市と	測量学 1	1前		2		0			2						
	環境	測量学2	1後		2		0			1	1					
		測量実習	2前		2				0	1	1					
		地形情報処理学	3後		2		0			1						
		都市デザイン	2前		2		0			1						
		都市・地域計画	2後	2			0			1						
		計画数理	2後		2		0				1					
		地域マネジメント	2後		2		0			1						
		交通計画	3前		2		0				1					
		公共政策学	3後		2		0			1						
		まちづくり関連法規	4前		2		0			1						
		水理学1	2前	2			0				1					
		水理学演習	2前	2				0			1					
		水理学2	2後		2		0				1					
		河海工学	3前		2		0								兼1	
		環境工学	3前		2		0			1	1					オムニバス
		上下水道工学	3前		2		0								兼1	
		小計 (17科目)		6	28	0		_		3	2	0	0	0	兼2	

/ 7.ds. 61	× +vn		果和	<b>E</b>	4	等		の		概		要	į			
(建)	*都市	学部 土木工学科) 			単位数	女	抒	受業形:	態		専任教	收員等	の配置	f		
科		   授業科目の名称	配当年次	必	選	自	講	演	実験	教	准	講	助	助		備考
区	<b>ፓ</b>			修	択	由	義	習	実	授	教 授	師	教	手		
IV 主	実践	土木実験	3前	2					<u>習</u>	3	2		1			
専攻	力	環境防災実験	3後	2					0	4	1					
科目		土木設計製図	3後	2					0	1	1					
		まちづくり演習	3後		2			0		1						
		公務員受験対策専門演習	3後		2			0		3	1		1			オムニバス
		建設CAD	4前		2			0			1					
		土木技術者のための基礎英語	3後		2			0		1	1					
		小計 (7科目)	010	6	8	0		_		5	2	0	1	0		
	ゼ		93%	0	2			0		5	3					
	ミナー	土木工学ゼミナール	3後		2								1			
	ル	卒業研究 1	4前	2				0		5	3		1			
		卒業研究 2	4後	2				0		5	3		1			
	建	小計 (3科目)		4	2	0		_		5	3	0	1	0		
	築士	建築構造製図	3後		2			0							兼1	
	受験科	建築デザイン入門	1前		2		0								兼1	
	目	建築計画A	2前		2		0								兼1	
		建築計画B	2後		2		0								兼1	
		空間計画	1前		2		0								兼1	
		西洋建築史1	2後		2		0								兼1	
		日本建築史1	2前		2		0								兼1	
		建築法規	1後・2前		2		0								兼1	
		小計 (8科目)		0	16	0		-		0	0	0	0	0	兼6	
		合計 (74科目)	_	54	91	0		-		5	3	0	1	0	兼15	
学位又	は称号	学士 (工学) 卒 業 要 件 及 び 履	修方		学位又 法	は学科	斗の分	野				į	工 授業期	学関係 間等		
		で124単位以上修得する。 の登録の上限:20単位(1学期))														
		I 現代文明論 <必修科目>	2単位修	:得					1 学年	Eの学	期区な	<b>&gt;</b>				2 学期
□科目	1区分	Ⅲ現代教養科目 <必修科目> 基礎教養科目 <必修科目>	4単位修						- , ,		<i>,,,,,,,</i>	•				2 1,773
□科目	区分	発展教養科目 <必修科目> 健康スポーツ科目<必修科目> Ⅲ英語コミュニケーション科目 <必修科目>	6単位修 2単位修 4単位修	得												
CJ 도	「学	科目を基準」にして、区分IV主専攻科目のみ作成し	てください													
□科目	区分	Ⅳ主専攻科目	76単位修						1 学期	別の授	業期間	盯				14週
	修科と定さ	目> れた必修科目より36単位を修得。 (計 36	単位)													
	戥択科 ■十木	目> の基礎 ■都市と防災 ■都市と環境 ■実践力														
	ゼミ	ナール ■建築士受験科目 された選択科目より40単位以上を修得。														
		(計 40	単位)						1 時[	艮の授	業時間	町				100分
□科目	区分	IVの余剰、他学部・他学科科目を修得した単位	30単位修行	导												
		<u>台</u>	計124単位修行 <b>甘</b> ★													

			課		程		等		の		概	<u> </u>	要	<u> </u>	不圧不力	R格A4鞭型)_
()	C学部	建築学科)	T		77 /T #t		177	3 44° π./ - 8	et.	Ι .	± 1+ +/	L = #	O #1 #		ı	
	<b>€</b> 1 □				単位数			業形	実				の配置			
	科目 区分	授業科目の名称	配当年次	必	選	自	講	演	<b>験</b>	教	准 教	講	助	助		備考
	⇒∧ <b>τ</b>			修	択	由	義	習	実 習	授	授	師	教	手		<del>.</del>
Ī	論 I 現 代	現代文明論	2前	2			0								兼2	
	文 明	小計 (1科目)	_	2	0	0		-		0	0	0	0	0	兼2	
Ⅱ現代	基礎教	人文科学	1前	2			0								兼8	
教養科	養科	社会科学	1後	2			0								兼8	
科目	目	自然科学	1前	2			0								兼7	
		小計 (3科目)	_	6	0	0		_		0	0	0	0	0	兼23	
	発展教	シティズンシップ	1後	1			0								兼5	
	養 科	ボランティア	1後	1			0								兼5	
	目	地域理解	1前	1			0								兼4	
		国際理解	1前	1			0								兼5	オムニバス
		小計 (4科目)	_	4	0	0		_		0	0	0	0	0	兼15	
	目健康ス	健康・フィットネス理論実習	1前	1					0						兼15	共同
	ポート	生涯スポーツ理論実習	1後	1					0						兼17	共同
		小計 (2科目)	_	2	0	0		-		0	0	0	0	0	兼25	
Ⅲ 英 語	ケ英ー語シコ	英語リスニング&スピーキング	1後	2					0						兼28	
科目	ヨミンユ	英語リーディング&ライティング	1前	2					0						兼29	
		小計 (2科目)	_	4	0	0		_		0	0	0	0	0	兼50	
	育ロー科	グローバルスキル	2前	2					0						兼30	
	目バ ル	アカデミック英語	2後	2					0						兼31	
	人材	小計 (2科目)	_	4	0	0		-		0	0	0	0	0	兼52	

		教育	課		程		等		の		概		要			竹八 4 桃生)
_(I	学部	建築学科)		,	単位数	t	授	業形!	態	:	専任教	対員等	の配置			
Į į	4目	授業科目の名称	配当年次	必	選	自	講	演	実験	教	准	講	助	助		備考
	⊠分			修	択	由	義	習	実習	授	教 授	師	教	手		
IV 主	工学	工科の微積分1	1前・後		2		0		В						兼17	
専攻科	共通基	工科の微積分2	1後・2前		2		0								兼13	
目	礎	工科の微分方程式1	1後・2前・後		2		0								兼13	
	н	工科の微分方程式2	2後・3前		2		0								兼7	
		工科の線形代数 1	1前・後		2		0								兼17	
		工科の線形代数 2	1後		2		0								兼17	
		工科の確率統計	2前・後		2		0								兼8	
		基礎数学	1前・後		1		0								兼10	
		物理学A	1前		4		0								兼2	
		物理学B	1前・後		4		0								兼7	
		物理学C	1前		2		0								兼9	
		電磁気学基礎	1前・後・2前・後		2		0								兼9	
		熱力学基礎	1後・2前・後		2		0								兼5	
		基礎物理A	1前・後		1		0								兼4	
		基礎物理B	1前		1		0								兼3	
		物理実験	1前・後		2				0						兼20	
		化学	1後・2前		4		0								兼3	
		化学基礎	1前・後		2		0								兼10	
		基礎化学A	1前・後		1		0								兼4	
		化学実験	1前・後・2後		2				0						兼6	
		ものづくり1	2前・後		1			0							兼4	
		ものづくり2	2前・後		1			0							兼4	
		小計 (22科目)	_	0	44	0		_		0	0	0	0	0	兼85	
	工学関	国際インターンシップ	4後		2				0						兼1	
	浦	科学と倫理	2前		2		0								兼2	
	Ħ	特許戦略	3前		2		0								兼1	
		小計(3科目)	_	0	6	0		-		0	0	0	0	0	兼4	

			課		程		等		の		概		要		1 122 1147	兄恰A4靴空)
(J	学部	建築学科)			77 1T #1		1 12	3 4H× π2 s	<u>e</u> e	Ι ,	= 17 ×	L = /r	O #7 #		<u> </u>	
,	科目				単位数			業形態	実			講	の配置			
I	区分	授業科目の名称	配当年次	必修	選択	自由	講義	演習	験 • 実	教授	准 教 授	師	助教	助手		備考
IV 主	工学	応用化学数学	1後		2		0		習						兼1	
主専攻科目	分野横	電気電子工学概論	1前		2		0								兼12	
目	断基礎	建築デザイン入門	1前		2		0			1	1		1			
	科目	建築の理数学	1前		2		0			3	1					
		機械工学概論	1前		2		0								兼11	
		宇宙利用技術	1後		2		0								兼5	
		大気圏科学	4前		2		0								兼1	
		医用生体工学概論	1前		2		0								兼1	
		小計(8科目)	_	0	16	0		_	•	4	2	0	1	0	兼31	
•	目工 学 基	基礎情報処理	1前		2		0								兼4	
	~ 碟 科	小計(1科目)	_	0	2	0		_		0	0	0	0	0	兼4	
	目建築	入門ゼミナール	1前	2				0		10	5		2			
	入 門 科	小計(1科目)	_	2	0	0		_		10	5	0	2	0		
•	建築設	建築デザイン演習 1	1前		4			0		2	2				兼6	共同
	計製	建築デザイン演習 2	1後		4			0		1	2		1		兼6	共同
	図 科 目	建築デザイン演習3	2前		4			0		2			1		兼8	共同
		建築デザイン演習 4	2後		4			0		2	1				兼6	共同
		建築デザイン演習 5	3前		4			0		1	1				兼3	共同
		建築デザイン演習 6	3後		4			0			1		1			共同
		デジタルデザイン演習	1後		2			0		1	1				兼4	
		建築構造製図	3後		2				0						兼1	
		小計(8科目)	_	0	28	0		_		4	3	0	1	0	兼20	

		教育	課		程		等		の		概		要			式行 A 4 W(至)
(I	.学部	建築学科)		,	単位数	Ż	授	業形	態		専任教	員等	の配置	3		
₹ E	斗目 ≅分	授業科目の名称	配当年次	必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		備考
IV 主	建築	空間計画	1後		2		0		В		1					
主専攻科目	枓	建築計画A	2前		2		0			1						
目	目	建築計画B	2後		2		0			1						
		日本建築史1	2前		2		0			1						
		日本建築史2	2後		2		0			1						
		西洋建築史1	2後		2		0								兼1	
		西洋建築史 2	3前		2		0								兼1	
		近現代建築史	3後		2		0			1						
		建築文化史	4前		2		0			1						
	-	まちづくり	3前		2		0				1					
		都市計画	3後		2		0				1					
		都市デザイン	4前		2		0			1						
		小計(12科目)	_	0	24	0		_		3	2	0	0	0	兼1	
	目建 築法	建築法規	2前		2		0			1	1				兼1	
	規 科	小計(1科目)	_	0	2	0		_		1	1	0	0	0	兼1	
	目建 築 環	建築環境工学・演習	2前・後		4			0		3	1					
	境 工 学	建築環境計画・演習	3前		4			0		2	1					
	科	小計 (2科目)	_	0	8	0		_		3	1	0	0	0		
	建築設	建築設備	3前		2		0			1						
	備 科 目	建築設備計画	3後		2		0			1						
	Н	建築設備設計演習	3後		4			0		2					兼2	
	構造力	小計(3科目)	_	0	8	0		_		2	0	0	0	0	兼2	
		建築構造力学1A・演習	1後		4			0		2						
	学科目	建築構造力学1B・演習	2前		4			0		2						
	П	建築構造力学2・演習	3前		4			0		1						
	-	建築構造解析・演習	3後		4			0		1						
		小計 (4科目)	_	0	16	0		_		2	0	0	0	0		

		教育	課		程		等		の		概		要			10 八 千 小比主)
(]	学部	建築学科)			単位数	ζ	授	業形	態	1	専任教	(員等	の配置	=		
	科目	授業科目の名称	配当年次	必	選	自	講	演	実験	教	准	講	助	助		備考
'	区分			修	択	由	義	習	実習	授	教 授	師	教	手		
IV 主 亩	建築一	建築鉄筋コンクリート構造・演習	3前		4			0					1			
主専攻科	般 構	建築鋼構造・演習	2後		4			0		1						
目	造 科 目	建築耐震工学	3前		2		0			1						
		建築基礎構造	3後		2		0								兼1	
		小計(4科目)	_	0	12	0		_		2	0	0	1	0	兼1	
	建 築 材	生産・構法実験	2前・後		2				0	1	1				兼2	
	料科	建築材料	3前・後		4		0			1	1					
	目	小計(2科目)	_	0	6	0		_		1	1	0	0	0	兼2	
	建築生	建築測量実習	1前・後		2				0				1		兼2	
	産 科	生産・構法	1前・後		4		0			1	1					
	目	建築施工	3後		2		0								兼1	
		小計(3科目)	_	0	8	0		_		1	1	0	0	1	兼3	
	建築研	建築研修	3後		2				0	1	1					
	修 科	海外建築研修	2後		2				0	1	1					
	II.	小計(2科目)	_	0	4	0		_		2	1	0	0	0		
	卒業論	建築専門演習	3後		2			0		10	5		2			
	文・	卒業研究	4前	4				0		10	5		2			
	設 計 科	卒業論文・卒業設計	4後	4				0		10	5		2			
	<u> </u>	小計(3科目)	_	8	2	0		_	ı	10	5	0	2	0		
IV 主 専	教 職 科	工学概論	2後		2		0			1					兼10	
主専攻科目	目	職業指導	4前		4		0								兼1	
П		工業科教育法1	3前		2		0								兼1	
		工業科教育法 2	3後		2		0								兼1	
		小計(4科目)	_	0	10	0		_		1	0	0	0	0	兼12	
		合計 (97科目)	_	32	196	0		_		10	5	0	2	0	兼294	

# 別記様式第2号(その2の1)

		教	育	課		程		等		の		概		要		
(工学部	建築学科)															
						単位数	ζ	授	業形	態		専任教	負等	の配置	3	
科目区分	授業科	·目の名称		配当年次	必	選	自	講	演	実験・	教	准教	講	助	助	備考
					修	択	由	義	習	実習	授	授	師	教	手	
学位又は称号		学士 (工学)	1		学	や位又は	は学科	中の分	野					I.	学関係	Ŕ
	卒 業 要	件 及	び	履修	方	法							ł	受業期	間等	
(履修科目	で124単位以上修 の登録の上限:24 I現代文明論	4単位(1学	期))	9畄	位修	温				1 学年	三の学	期区を	}			2学期
□科目区分 □科目区分 □科目区分 (必修科	Ⅱ現代教養科目	(必修科目) (必修科目) 等得		<u>12単</u> 8単	位修 位修 位修 位修	<u>得</u> 得				1 学期	用の授	業期間	1			1 4 週
	Ⅳの余剰、他学部		目を修復		<u>位修</u> 位修					1 時限	見の授	業時間	Ī			100分

		教育	課		程		等		の		概		要		7117	(竹A4桃生)
(]	<b>上学部</b>	土木工学科)			単位数	<u> </u>	授	業形	態	]	専任教	7員等	の配置			
	科目 区分	授業科目の名称	配当年次	必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		備考
i	論 I 現 代	現代文明論	2前	2			0		8						兼2	
	文 明	小計 (1科目)	_	2	0	0		_		0	0	0	0	0	兼2	
Ⅱ現代	基礎教	人文科学	1前	2			0								兼7	
Ⅱ現代教養科目	養 科	社会科学	1前	2			0								兼8	
目	目	自然科学	1後	2			0								兼7	
		小計(3科目)	_	6	0	0		-		0	0	0	0	0	兼22	
	発展教	シティズンシップ	1前	1			0								兼5	
	養 科	ボランティア	1前	1			0								兼5	
	目	地域理解	1後	1			0				1				兼3	
		国際理解	1後	1			0								兼6	オムニバス
		小計 (4科目)	_	4	0	0		_		0	1	0	0	0	兼15	
	目健康ス	健康・フィットネス理論実習	1前	1					0						兼13	
	ポー	生涯スポーツ理論実習	1後	1					0						兼16	
		小計 (2科目)	_	2	0	0		-		0	0	0	0	0	兼22	
Ⅲ英語科	ケ英 ー シコ	英語リスニング&スピーキング	1前	2					0						兼26	
科目	ヨミンユ	英語リーディング&ライティング	1後	2					0						兼28	
		小計 (2科目)	_	4	0	0		_		0	0	0	0	0	兼46	
	育成科	グローバルスキル	2前	2					0						兼30	
	目 <i>バ</i> ル	アカデミック英語	2後	2					0						兼31	
	人材	小計 (2科目)	_	4	0	0		_		0	0	0	0	0	兼52	

		教育	課		程		等		の		概		要			
(I	学部	土木工学科)			単位数	t t	授	受業形:	態	1	専任教	対員等	の配置	<u> </u>		
	與目 <b>区</b> 分	授業科目の名称	配当年次	必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		備考
IV 主	工学	工科の微積分1	1前・後		2		0		習						兼17	
専攻科	共通基	工科の微積分2	1後・2前		2		0								兼13	
目	礎 科	工科の微分方程式1	1後・2前・後		2		0								兼13	
	目	工科の微分方程式 2	2後・3前		2		0								兼7	
		工科の線形代数 1	1前・後		2		0								兼17	
		工科の線形代数 2	1後		2		0								兼17	
		工科の確率統計	2前・後		2		0								兼8	
		基礎数学	1前・後		1		0								兼10	
		物理学A	1前		4		0								兼2	
		物理学B	1前・後		4		0								兼7	
		物理学C	1前		2		0								兼9	
		電磁気学基礎	1前・後・2前・後		2		0								兼9	
		熱力学基礎	1後・2前・後		2		0								兼5	
		基礎物理A	1前・後		1		0								兼4	
		基礎物理B	1前		1		0								兼3	
		物理実験	1前・後		2				0						兼20	
		化学	1後・2前		4		0								兼3	
		化学基礎	1前・後		2		0								兼10	
		基礎化学A	1前・後		1		0								兼4	
		化学実験	1前・後・2後		2				0						兼6	
		ものづくり 1	2前・後		1			0							兼4	
		ものづくり 2	2前・後		1			0							兼4	
_		小計 (22科目)	_	0	44	0		_		0	0	0	0	0	兼33	
	工学関	国際インターンシップ	4後		2				0						兼1	
	連 科	科学と倫理	2前		2		0								兼2	
	目	特許戦略	3前		2		0								兼1	
		小計(3科目)	_	0	6	0		_		0	0	0	0	0	兼4	

														<b>刊</b>		1-1-1-17	(恰A4概型)
		教	育	課		程		等		の		概		要			
(エ	学部	土木工学科)															
					j	単位数	ζ	授	業形	態		専任教	(員等	の配置	<u> </u>		
<b>.</b>	計目					122	_			実		.,,	-#				
τ·	¥日 <b>조</b> 分	授業科目の名称		配当年次	必	選	自	講	演	験 •	教	准教	講	助	助		備考
					修	択	由	義	習	実	授	授	師	教	手		
IV	I									習							
主	学	応用化学数学		1後		2		0								兼1	
専攻	分 野			عدر		0										<del>**</del> 10	
科	横	電気電子工学概論		1前		2		0								兼12	
目	断基	建築デザイン入門		1前		2		0								兼3	
	礎																
	科目	建築の理数学		1前		2		0								兼4	
		機械工学概論		1前		2		0								兼11	
		宇宙利用技術		1後		2		0								兼5	
		丁田和/// 1文///		11/2		4		0								AK O	
		大気圏科学		4前		2		0								兼1	
		医用生体工学概論		1前		2		0								兼1	
		[ 3] (ot) [])				4.0			_	ļ						2405	
		小計(8科目)		_	0	16	0				0	0	0	0	0	兼37	
	工 学	土木の数学		1前	2			0			2	1					
	基																
	礎 科	土木の微積分		1後	2			0				1					
	目																
		小計(2科目)		_	4	0	0		_		2	1	0	0	0		
	情	基礎情報処理		1前	2			0								兼2	
	報処	全級 旧 秋 火ごと		1 Hil	۷			0								AR4	
	理	プログラミングBASIC		1後		2		0				2					
	科 目																
		小計(2科目)		_	2	2	0		-		0	2	0	0	0	兼2	

		教 育	課		程		等		の		概		要			11日八 千帆主)
(I	学部	土木工学科)			単位数	Ż.	扬	受業形:	態	1	専任教	対員等	の配置	1		
1	科目 区分	授業科目の名称	配当年次	必	選	自	講	演	実験	教	准	講	助	助		備考
'	<u> ~ л</u>			修	択	由	義	習	実習	授	教 授	師	教	手		
IV 主	土木共	土木入門ゼミナール	1前	2			0			6	3		1			
主専攻科	通 科	土木基礎力学1 (演習含む)	1前	2				0		2						
目	目	土木基礎力学2 (演習含む)	1後	2				0		2						
		数理統計学	2前		2		0				1					
		土木解析学	2前		2		0			1						
		土木基礎ゼミナール	2後		2		0			6	3		1			
		土木実験	3前	2					0	4	2		1		兼1	
		環境防災実験	3後		2				0	1						
		土木工学演習A	3前		2			0		2			1			
		土木工学演習B	3後		2			0		2						
		土木工学ゼミナール	3後		2		0			6	3		1			
		土木設計製図	3後	2					0	1	1				兼1	
		建設CAD	4前		2		0			1						
		卒業研究 1	4前	4				0		6	3		1			
		卒業研究 2	4後	4				0		6	3		1			
		小計 (15科目)	_	18	16	0		-		6	3	0	1	0	兼1	
	構造科	構造力学1(演習含む)	2前	4				0		1						
	目	構造力学2(演習含む)	2後		4			0							兼1	
		橋梁工学	3前		2		0								兼1	
		土木振動学	3前		2		0								兼1	
		小計(4科目)	_	4	8	0		_		1	0	0	0	0	兼2	
	材料科	建設マテリアル	2後		4		0			1						
	目	コンクリート構造	3前		2		0				1					
		小計(2科目)	_	0	6	0		_		1	1	0	0	0		

		教育	課		程		等		の		概		要		7117	2恰A4減空)
(]	学部	土木工学科)			単位数	Į.	授	業形	態	]	専任教	<b>文員等</b>	の配置	<u> </u>		
5	斗目 区分	授業科目の名称	配当年次	必	選	自	講	演	実験	教	准	講	助	助		備考
'	<u> </u>			修	択	由	義	習	実習	授	教 授	師	教	手		
IV 主 専	水工	水理学1 (演習含む)	2前	4				0		1	1					
攻科	科目	水理学2 (演習含む)	2後		4			0		1	1					
目		海岸工学	3前		2		0			1						
		河川工学	3後		2		0								兼1	
		小計 (4科目)	_	4	8	0		_		1	1	0	0	0	兼1	
	環 境 科	上下水道工学	3前		2		0								兼1	
	# <del>*</del> 目	水環境学	3後		2		0								兼1	
		エコマテリアル	3前		2		0			1						
		小計(3科目)	_	0	6	0		_		1	0	0	0	0	兼1	
	地 盤 科	土の力学(演習含む)	2前	4				0					1			
	目	地盤工学(演習含む)	2後		4			0		1			1			
		道路工学	3後		2		0			1						
		小計 (3科目)	_	4	6	0		_		2	0	0	1	0		
	施 工 科	土木施工	3前		2		0			1						
	目	メンテナンス工学	3前		2		0			1						
		建設マネジメント	3後		2		0			1					兼1	
		小計 (3科目)	_	0	6	0		_		1	0	0	0	0	兼1	
	測量	測量学1	1前		2		0			2						
	科 目	測量学2	1後		2		0			1	1					
		測量実習	2前		2				0	1	1					
		地形情報処理学	3後		2		0			1						
		小計 (4科目)	_	0	8	0		_		2	1	0	0	0		

												· · ·	用紙	н /	アエネル	R恰A 4 靴型)
		教育	課		程		等		の		概		要			
(_	<b>上学部</b>	土木工学科)			*** * 1 . 141			5 alle == c	44		+		_ ====		1	
					単位数	ζ	捞	業形	態実		専仕教 I	(貝等	の配置	Ī		
	科目	授業科目の名称	配当年次	必	選	自	講	演	験	教	准	講	助	助		備考
	区分	2.57.27.7.7		修	択	曲	義	習	実	授	教授	師	教	手		
				119	7/0	Н	找	В	習	18	12	ılı	狄	7		
IV 主 専	計画科	都市・地域計画	3前		2		0			1						
攻科	目	交通計画	3前		2		0				1					
目		シビックデザイン	3後		2		0			1						
		小計(3科目)	_	0	6	0		_		1	1	0	0	0		
	教 職 科	工学概論	2後		2		0			1					兼10	
	目	職業指導	4前		4		0								兼1	
		工業科教育法1	4前		2		0								兼1	
		工業科教育法 2	4後		2		0								兼1	
		小計(4科目)	_	0	10	0		_		1	0	0	0	0	兼12	
		合計 (96科目)	_	58	148	0		_		6	3	0	1		兼271	
学位	又は称号	* * * * * * * * * * * * * * * * * * * *			位又は	は学科	中の分	野						学関係		
D1-	- n ∧ ≥1	卒業   要件   及び     で124単位以上修得する。	履修	方	法							抄	受業期	間等		
(屋	<b>夏修科目</b>	で124年位以上修侍する。 の登録の上限:24単位(1 学期)) · I 現代文明論 (必修科目)		5	2単位値	<b></b>			1 学年	三の学	期区分	<del>)</del>				2 学期
□ □ □ □ 1	4目区分 4目区分	Ⅱ現代教養科目(必修科目) Ⅲ英語科目 (必修科目) Ⅳ主専攻科目 目) 36単位修得		12 8	2単位( 3単位( 2単位( 2単位(	<u>多得</u> 多得			1 学期	明の授	業期間	1				1 4週
		IVの余剰、他学部・他学科科目を修行			)単位( 1単位(				1 時限	見の授	業時間	]				100分

		授	業	科	目	Ø	概	要	<u>                                      </u>
科	<b>築都</b> 目 分	3市学部 建築学科) 世 授業科目の名称			計	義等の内容			備考
野イフリ	-	現代文明論	うために開 直すことを うとする力 て、現代の 多様な角度	構される。す 通じて、地球 強い思考や意 課題の根源を から読み解く	なわち歴史 規模で深刻 (欲を養うこと 探るためにる	や世界への見れまする困難ないを目的として可欠な歴史にこったとと	識を高め、人 事態にあって ている。理系 的・系譜的な	組解し自らの思想を培 類社会のあり方を見 も、時代を開拓しよ 、文系の枠を超え 認識を深め、それを 別価値に基づいた倫理	
Ⅱ現代教養科目	基礎教養科目	入門ゼミナールA	る。「大学 ルを構築し 用方法とい 知識をまず 発表といっ	での学び方」 つつ、大学と った、大学生 な養習を通じ	を学ぶことを の取り方や情 活を送るうえ 。さらに特別	を目的とし、 青報収集の方 えで必要なア 定のテーマに の学問的関心	4年間の計画 法、情報リテ カデミックス ついて個人の	が年次教育科目であ 前的な学習スケジュー・ラシー、図書館の利 ・ラシー、図書館の利 ・キルの基礎的能力・ 関心に応じた調査・ 自分自身が持つ興味	
		入門ゼミナールB	る。「入門 遍的な問い リーディン ルの向上」 対しての取	ゼミナールAへ変換させる グ、レポート を目指すと同 り組み方、倫	」で培った値 能力を養うこ のまとめ方の 時に、所属管 理観などの	■人的関心かことを目的と □学び、グル・ □学科における 育成を通じて	ら生じた問い する。具体的 一プ演習・発 専門分野の基 、本学が育成	初年次教育科目であ を、より公共的・・ りにはクリティカル き表を通じて、「スキ でののでは、 でののでは、 でののでは、 でののでは、 である。 でる。 でる。 でる。 でる。 でる。 でる。 でる。 で	
	発展教養科目	シティズンシップ	る様々な人 に参加する。 シップ(市) て、意見の ればよいか	々が相互に関 人々のことを 民性) 」の まいを乗り越 を考えること	わりながら暮  市民(シティ  点から、多様  え、相互の/  を目標とする	事らしている。 イズン)と呼 様な人々が民 人権を尊重し る。参加型授	。背景の違い ぶ。この科目 主政治の担い あえる社会を 業を通じ、社	性別、国籍等の異な はあっても、共同体 では、「シティズン 手である市民とし 形成するにはどうす 会の様残な課題につ 会参加のあり方を学	
		地域・国際理解	豊かな生活: な地域を持続されされ、こ なっている。 様な人々の	を営むために 売させていく 遠く離れた地 この科目で 児点に立ち、	、地域で仲間 必要がある。 域ともひと・ は、自らが暮 地域社会・目	間をつくり、。 一方、現代・もの・こと・ ・もの・こと・ 暮らす地域社: 国際社会の様	議論し、協同 の地域社会は を介し国際社会 々な課題を発	がら生活している。 引し、基盤となる豊か とグローバル化の波に に連動するように の現実を見つめ、多 見し、その解決につ はすることを目標とす	
		現代教養講義	る。情報技術 る一方、気候 社会の中で の枝葉にと り組んでい	析の発展や経	済活動のグロ 格差など、 るため、高月 をつかみ、 で講義する。	コーバル化な 様々な問題解 度に専門化し 学ぶ必要があ	「ど、急激な社と 会別を追られて を現代の科目 る。こい視野	とめに必要な知識であ 会的変化にされされ いる。こうした現代 いわ知識について、そ は教員自身が現在取 を重視しつつ、現代	
Ⅱ現代教養科目	健康スポーツ科目	健康・フィットネス理論実習	方法を講義 に身体活動 ミュニケー につけるこ	と実習を通し を通しての「 ション能力の とに重点を置	て学習する。 友達づくり」 向上をねらい き、健康に関	また、健康 や「仲間と とする。具	・体力面だけ の信頼関係で 体的には、健 重要性を理解	るための理論と実践 でなく、仲間ととも なくり」を体験し、 健康的な生活習慣を身 するとともに、自己	
		生涯スポーツ理論実習	方法を講義 に身体活動 ミュニケー ライフスタ	と実習を通し を通しての「 ション能力の イルの獲得に	て学習する。 友達づくり」 向上をねらい 重点を置き、	また、健康 や「仲間と いとする。具 スポーツの'	・体力面だけ の信頼関係つ 体的には、生 "おもしろさ	るための理論と実践でなく、仲間とともなく、仲間とともなる。 からり」を体験し、コ 進を通じたスポーツ、本で、大切さ、など で、本で、大切さ、など で、などもからない。	

/	. Art Lun		授	業	科	目	Ø	概	要		
科	目分	3市学部 建築学科)       授業科目の名称				詩	義等の内容				備考
Ⅲ英語科目	英語コミュニケーシ	英語リスニング&スピー	キング	英語を使って題に柔軟に対盤を作ること別クラス編成	て意思疎通を 対応し、問題 とを目標とす 戈で、多様な	はかることの を解決するが る。学習者の 種類の英語	引わず言語や値 の重要性がされ とめの実践的の が英語力に合う が理解するり、 目互に関連され	っに高まっ 英語コミュ っせて効率 スニング力	ている。その ニケーション よく学習でき と、自分の意	中での課 能力の基 る習熟度 志を適切	
	ション科目	英語リーディング&ライ グ	ティン	英語を使って 題に柔軟に対 盤を作ること 別クラス編成	て意思疎通を 対応し、問題 とを目標とす 戈で、多様な	はかることの を解決するが る。学習者の 種類の英語	引わず言語やの の重要性がさら とめの実践的すり の英語力に合わ と理解するリー と相互に関連る	らに高まっ 英語コミュ っせて効率 ーディング	ている。その ニケーション よく学習でき 力と、自分の	中での課 能力の基 る習熟度 意志を適	
IV主専攻科目	建築の基礎	建築の理数学		震などの外話 れるようにす 化し評価する 本講義は、	記に耐えるよけるには、数 5 能力を、「 5 建築の実務 そのため、 5 。	うに設計され 学・物理の発 建築の基礎」 に日常的に発 工科系で扱	と提供するとる れている。この 口識を得るだけ として修得する 差場する数理 う数学全般から	のような機; けでなく、 ることが求; 見象につい	能を建築物に それらを用い められている て理解するこ	もたせら てモデル 。 とを目的	オムニバス方式
				行列、バネ <i>0</i> (6 山本 え ベクトル、	励数字、三角 りのびについ 憲司/7回) 微分、積分	て扱う。 、平面角とユ	ご関する三角[ ☑体角、指数[	関数、対数	関数について	扱う。	
		建築デザイン演習 1 (設 基礎)	計製図	基礎的な知識礎」に属する法を身に付け 演習では料	畿に対して、 体験型の演習 けていく。 好来建築に携 建築空間を計 2次元)と立	まずは体験 日 日本目であり おるうえでの 画・設計する	でも必須となる。 しまでは しまでは しまでは の基本的な造形 は の関係を読る の関係を読る	しでいく科 やアイデア ド感覚や表 吾となる図	目である。「3 'を具現化し' 現技術の手法 面の基礎的表	<ul><li>建築の基 ていく方</li><li>を学ぶ。</li><li>現を身に</li></ul>	
		建築デザイン演習 2 (空 造形)	間基礎	基礎的能力を 習1(設計製 かたちあるう 演習では調 やスケール原	と習得する、 図基礎)」で学 デザインへと 果題に応じた 或を養うとと ス作業、提出	「建築の基礎 学んだ建築空 繋げていくる 小空間の構想 もに、建築望 物作成、講話	見などの具体的 2間の構成とう 平というプロヤ	習科目であ を基として 内なデザイ ディテール	る。「建築デ <sup>・</sup> 、自分自身の ンを実践し、 を理解する。	ザイン演 の発想を 造形感覚 提案作	
		建築デザイン演習3(住 設計)	宅建築	する演習科目 能力や表行う。 演習を行う。 解きながら、	目である。「愛 方法等を基と 主宅や集合住 地域性・社 作成、講評と	<ul><li>業築デザイン して、自分目</li><li>宅などの住る</li><li>会性などを</li></ul>	ながる技術を見 演習2(空間見 目身の発想を見 まうことを対象 いまえて設計さ スが繰り返され	基礎造形)」 具体的な建 象とした身 を進める。	までに学んた 築設計へと繋 近な建築プロ 提案作業、エ	空間把握 げていく グラムを スキス作	
		デジタルデザイン演習		ぶ、「建築の 演習では、 ともに、事前	基礎」の科目 CADを用い 前に与えられ	である。 C設計を進め る住宅・建績	けるCAD(コンE ていくための いま計課是 ○企業が業務で	様々な手法 頃を汎用の	について概認 建築CADソフ	脱すると トを用い	

			授	業	科	目	Ø	概	要	1、 口本性未規恰A4〜(1)
		おおります。 建築学科) 		1						
科 区 IV	目 分 建	授業科目の名	<b>名称</b>	(概要)本	講義は、学科		議等の内容 53つの専門力	のうち、特に	に「建築計画」は	備考 および「オムニバス方式
主専攻科目	築の基礎	建築デザイン入門		過去を がと	築にかた。 ボーザン観像がを イラステス (40) インのる「大工、場かなが、 インのる「大工、場かなが、 インのででは、 インのででがでは、 インのででは、 イとのででは、 インのででは、 インのででは、 インのででは、 インのででは、 インのででは、 インのででは、 インのででは、 インのででは、 インのででは、 インのででは、 インのででは、 インのででは、 インのででは、 インのででは、 インのででは、 インのででは、 インのででがでがでがでがでがでがでがでがでがでがでがでがでがでがでがでがでがでがで	に触れるこ。 設計思想な 養う。 国回) 20世紀以降の 計思想、採別 現代の日本の は、採用されが	とは、意匠設 になできる。 いできる。 いのは の日本の はを詳述し、 の日本の は、できる。 の日本の は、できる。 の日本の は、できる。 のは、できる。 で。 で。 で。 で。 で。 で。 で。 で。 で。 で	構義では具体 書築を考える 作品を中心に 背景にある 中心に取り上 にある時代性	そらず史学やまな的な建築作品 うえで必要な ・ 取り上げ、 ・ 社会性を ・ 社会性を ・ 社会性を ・ 社会性を ・ 社会性を ・ な 取り上	を取り 建築を でがず 性を詳 ・インの がす
				5、飞0座	米心心 ( )工五	(IX/C )/ (B	計算な 1,20°			
		空間計画		の適正な設定 基礎、及び 「建築計画 んでいく建	定手法や、人 その応用手法 〕につながる 築学について	間工学的な事 について学 主要なテー の基礎的な知	要求条件などの 習していく。 マとも言える。 知識を得るだ	の概要につい このような講 けでなく、将	集築設計時の面 いて学び、空間	計画の 今後学 諸とし
		建築計画A		ニティ施設 世界・日 る各種教育 建築計画」・ 実例のフィ	等の今日的課 本のさまざま 施設、生涯学 へつなげる要 ールドワーク	題や今後のすな風土・地野 な風土・地野 習・コミュニ 点と実例を約 課題を出題「	対応等を考究 がと集落立地、 ニティ施設事 紹介する。ま	することを目 家族と住居 列等を話題に た、講義内容 ドワークでの	形式の関係、 取り挙げなが と関連した各 )調査・分析・	特色あ ら、「 種建築
		日本建築史1		を過去から 意匠の選択の 構成、社会 本講義で	問い直し、正 の関係が最も 構造の変化、 は、日本の住	しく把握する 明確に示され 技術の進歩。 宅と都市の	ることにある。 れる存在であ とも深く関係 <sup>*</sup> 歴史を概観す	特に住宅は り、それを取 する。 ることにより	社在の建築の位 は、人の生活と なり巻く都市・ 、建築に対す :目標とする。	平面・ 集落の
		西洋建築史 1		みた様々なi 史的建造物 る。 本講義は、 史的な建築・	教訓と実験を を空間体験し ヨーロッパ や都市が、ど きたかについ	基礎として原 、その感動を の古代から「 のように発達	展開された。 を呼ぶ要因や 中世を中心に、 達・多様化し、	このため、す 背景を分析す 人間社会の 人間社会に	なく、先人たでに存在してることが重要 ご話動の結晶で ことってどのよ 建築の基礎」を	いる歴 !であ *ある歴 :うな意
		住宅論		て学ぶことに 基礎」のなか 際に設計を行 さまざま ンの考え方	は、建築計画 いでも、初歩的 行う建築デザ な住宅のデザ	において基础 的な共通認識 イン演習と インの事例を ・空間・形に	遊となる重要 としてすべか あわせて履修 を写真や図面	な事柄である らく習得す することを望 で紹介しなが	対計・デザイン。 本講義は「後べき科目である」 対し、でき科目である。 対し、初歩的な の設計手法確	建築の る。実 :デザイ
		建築法規		生条件確保(害、建築技行となった。 本講義ではおける建築(単体規定)、	のための最低 術の進歩等の は、将来建築 行為に関わる 、都市計画等	基準等を定る 社会情勢の に携わる者に 諸手続き、発	かる。1950年 変化に合わせ こ不可欠な「建 建築物の敷地 定(集団規定) (	の制定以降、 て改正され、 築の基礎」と ・構造・建築	全性と良好な地震・大火等 地震・大火等 複雑かつ難解 して、建築基 設備に関する 成を修得し、そ	をの大災 学な構成 ご準法に 規定

/ 7-th	Art to	7±45 14 14 14 14 14 14 14 14 14 14 14 14 14	授	業	科	目	Ø	概	要	
科区	目	3市学部 建築学科) 授業科目の名	 6称		備考					
	建築の基	建築構造力学1A・濱	置習	だけで解く、 いが、静定材 習得すべき」 本演習では の支持反力	ことのできる 構造の力学は 重要な科目で ま、まず構造 や、梁や柱な	構造物を扱う構造系科目のある。 物の力の釣る どの部材の可	う。実際の構 の基本となる 分状態につい	造物は不静定 ものであり、 て理解するこ 面力(軸力・	ばれる力の釣合条件式 関構造である場合が多 「建築の基礎」として とから始め、構造物 せん断力・曲げモー	
		建築構造力学 1 B・液	· 智	度を超える! る。強度を「 が有効であ 。 を は と して重 本演習で 理解し、その	負担がかかる 向上させたりり、強度や変 である。 ま、まず応力 の後、それら	、あるいは、 変形を小さく 形に断面形も 度に関わるほ の係数を用い	過剰に変形 くする為には 犬がどのよう 系数が断面の	すると、機能 、部材のか学 に関わるか学 形状・寸法が 求める方法を	を物は、耐えられる残さが確保出来なくない。 が確保出来なくない。 では、できないでは、できないでは、できないでは、できないできます。 いら求められることをできない。また、各係数では、ないでは、できないでは、できないできます。	:
		生産・構法A		位置付けらる 建築物の 備や環境な ず生産プロー る基礎と代	れる。 生産プロセス ど多岐にわた セスや関連業	や構法を理所 る観点に触れ 務・技術の内 造様式である	翼することは いることがで 内容を概説す	、構造・材料 きる。「生産 る。その後、	ミ工学」の概要科目と →や施工に限らず、記 ・養法A」では、ま 建築の下部構造であ まについて、主に構治	
		生産・構法B		位置付けらる 建築物の 備や環境な 造様式であ	れる。 生産プロセス ど多岐にわた る木構造・鋼	や構法を理角 る観点に触れ	军することは ιることがで οいて、主に	、構造・材料 きる。「Bて	延工学」の概要科目と ↓や施工に限らず、記 さは、代表的な上部様 観点から解説する。	
		生産・構法実験		びつき、アー は、実験と 験実施での 文章力やプ 的な素養と	イディアを触 レポート作成 毀取りや遂行 レゼン技術の なる。	発するきった を通じ、これ 力、結果の 習得は、建築	いけになる。 いまでの講義 考察での分析 をのいずれの	「建築の基礎 で学んだ理論 能力や発想力 分野を学ぶう	他の直感的な理解に系 は属する本実習で はを実践理解する。身 し、レポート作成での うえでも必須の、基礎 な、基礎 な、基礎 ない。 ない、 ない、 ない、 ない、 ない、 ない、 ない、 ない、	€ )
		建築環境工学・演習		理論的に説明な知識を学ぶ 本演習でき 具体的な数句に理解する。	明が可能であ ぶ科目である 学ぶ分野は、 直を使って問 本演習は「	る。本演習に 。 主として人間 題を解きなた 建築設備」の基	は、建築環境 引と建築を取 ぶら、人と建 基礎となる科	を工学的に理 り巻く自然環 築のまわりて 目であり、自	組み合わせなどは、 能解するための基礎的 関係であり、 一起こる現象を定量的 メエネルギーを有変 欠の知識である。	
		建築設備		物内で快適 講義では、 する基本技行 本講義では	かつ健康に活 建築環境工 <sup>2</sup> 析を学ぶ科目 は、建築設備 前計画・演習	動するための 学・演習」で学 である。 の具体例や基	の環境を創出 学んだ物理現 基礎理論につ	し維持する機 象を健康・快 いて、「建築	のことであり、建 後能を担っている。本 ・適性の観点から制徒 工学」の「建築設備計 となる知識・考え方	2

. Arter design	7-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1	授	業	科	目	Ø	概	要	
目分	(時間では、100円				計	構義等の内容			備考
建築計画	建築デザイン演習 4 (公共建築 設計 A)		デザイン演 その表現方 く。 演習では を解きなが キス作業、	習3(住宅建 法を基として 小規模な公共 ら、地域性・ 提出物作成、	築設計)」ま 、自分自身の は 建築を対象。 社会性・公 講評という	でに学んだ建 の発想をより とした複雑な 共性をふまえ	築設計におけ 具体的な建築 機能が要求さ て設計を進め	る基礎的な考え方と 設計へと繋げてい れる建築プログラム る。提案作業、エス	
	建築デザイン演習 5 設計 B)	(公共建築	デザイン演 <sup>2</sup> 術を応用し 演習では を解きなが キス作業、	習4(公共建 て、自分自身 中規模な公共 ら、地域性・ 提出物作成、	築設計A)」 アの発想をよ 建築を対象。 社会性・公 講評という	までに学んだり高度な建築 り高度な建築 とした複雑な 共性をふまえ	建築設計にま 設計へと繋け 機能が要求さ て設計を進め	3ける考え方と提案技 「ていく。 これる建築プログラム うる。提案作業、エス	
	建築デザイン演習 6 築設計)	(提案型建	デザイン演さ と提案技術 いく。 演習では 性をふまえ	習 5 (公共建 を駆使して、 自ら建築プロ て設計を進め	築設計B)」 自分自身の グラムや敷む る。提案作	までに学んだ 発想を社会的 地などの条件 業、エスキス	建築設計にま 提案性のある を設定し、地 作業、提出物	らける応用的な考え方 5建築設計へと繋げて 地域性・社会性・公共 0作成、講評というプ	
	建築計画B		後のあり方 画・設計実作 技能・技では よの要点と 場等の芸術	等を考究する 考別を紹介した 等についる を種類を紹介で ま例を紹介する 文化施設、 が	ことを目的 さいら、 はずする。 マイールり学い でいる。 でいる。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	して、施設の ・設計プロセ ークなどを通 ずる具体的施 施設などの医	機能・用途別 スにおいて必 して、各種公 設としては、	川に話題性のある計 公要となる建築知識、 、共施設の計画・設計 博物館・美術館・劇	
	日本建築史 2		短所を補い 論や用法の 導入、新素 伝統的な和 本講義で	ながら、独自 変化に応じる 材・新技術の 虱建築もまた は、日本建築	の空間を創え ため、独特の 採用により、 その影響を その技術と空間	造してきた。 の空間を育ま; 時代の要請 受けた。 間の歴史を古	社寺建築によれた。一方、 に応じた新た 代から近代を	らいては、宗教上の理 近代には洋風建築の な空間が創造され、	
	西洋建築史 2		た。本講義 心に、人間 化し、人間 将来的に 宅のプラン、 同時に、現	は、「西洋建 社会の活動の 社会にとって 建築に関わる ニングの多く 代の建築・都	築史1」に続き 対話晶である だのような プロフェッジ の具体例に	き、ヨーロッ 歴史的な建築 意味をもって ショナルとし 触れ、「建築計	パのルネサン や都市が、と きたかを考察 て、様式、意 ト画」に関する	バスから近代までを中 そのように発達・多様 そする。 低圧、技術、都市や住 日本を持たつけると	
	建築文化史		な所産とし、 思想を培っ、 本講義では 観し、「建築 間としての	て捉えること ていくうえて は、視覚芸術 計画」に関す 建築、時間。	は、広い範囲である。 で重要だと考え できまれる事門的視り でもなる事での建築	囲を有する建 える。 築の歴史を18 野を広げるこ :、変化複合と	築領域におい 世紀の美学棚 とを目標とす : しての建築	、て、その基盤となる 既念の誕生を中心に概 ける。具体的には、空 の3つの側面から、1	
	近現代建築史		思想によっ、 これからの。 本講義で し、「建築計 家、技術、	て誕生した近 建築と都市を は、20世紀を 一画」に関する 保存の3つの	現代建築とん 考えるうえを中心とした。 専門的視野を側面から、よ	まどのようなで、極めて重 比較的新しい を広げること 近現代建築の	ものであった 要だと考える い時代におけ を目標とする 特徴を理解し	このかを知ることは、 。 る建築と都市を概 る。具体的には、建築 し、時代と社会と文化	
	目分 建築計	(分)   (表)   (a,b)   (a,b)	<b>築都市学部 建築学科</b>     目分   授業科目の名称     提案計画   建築デザイン演習 4 (公共建築     設計 A )     建築デザイン演習 5 (公共建築     設計 B )     建築デザイン演習 6 (提案型建築     全築計画 B     日本建築史 2     連築文化史     連築文化史	(単年) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本	業都市学部 建築学科)    授業科目の名称	(基案計画) 建築学科)  (大学科目の名称	(投業科目の名称	要都中学郎 建築学科)  「建築計画」において重要となる建築設計とより専門的に学えが必要ない。  「建築計画」において重要となる建築設計とより東門的に学えが必要ない。  「建築計画」において重要となる建築設計とより東外的な地域を対象とした複雑な機能が要求とから東方が、複数形と、対象性を必まえて設計を強して、対象性を必要なとして複雑な機能が要求とから解さが、複数形と、対象性を必まえて設計を強力を指する場合を関係して、対象をは、大きないので作品制作を行う。  「建築計画」において重要となる建築設計と、と同学的などのよりなが、複数形と、対象では一般をから、地域性・社会性・公共性を必まえて設計を認め、通常では、中規的なた、地域性・社会性・公共性を必まえて設計を認め、通常では、中規的や成計を建して、自分自身の発起をより高度な建築設計として解さる解析を用して、自分自身の発起をよう高度な建築設計とと関係さない。、地域性・社会性・公共性を必ままて定設計を選挙を解析をながら、地域性・社会性・公共性を必ままで設計を選が、通常では、自身をながら、地域性・社会性・公共性を必ままで設計ととの指数でない。、地域性・社会性を会ままで設計とない。と解表技術を確認して、自身自身の発色を対象とした複数計というアロセスが建り返され、直端では自身に対象を対象とした複数に表情をを使して、自身自身の発色を対象となり建築を設計といる。と発表技術を理解して、自身自身の発色を対象となりを観光を記さまままままままままままままままままままままままままままままままままままま	(議案計画) 建業等4) 2 (

<i>( </i>	统业	3市学部 建築学科)	授	業	科	B	Ø	概	要	
科区	目	授業科目の名	·····································			講	義等の内容			備考
主専攻科	地域デザイン	地域まちづくり		生活空間の理 計画などハー づくりなどと 心して住み終 本講義では	型想像を計画 ードの側面と ノフトの視点 売けられる地 は、「地域デザ くりの実例を	<ul><li>実現するも 共に、行政・ も必要とされ 域に根ざした デイン」の基礎</li></ul>	のである。 事業者・住 いる。特に近 住環境づく 性的知識とし	このため、都 民の合意形成 年は少子高齢 りが求められ て、現代の都	体となって市街地や 市計画に基づく空間 は、地域社会のルール が化社会を背景に、安 でいる。 市計画のしくみと参 地域・まちとの関わり	
		都市計画		境を確保して 本講義では 築・都市景額 に検証し、愛 用版、かつ「	つつ市街地形 は、現実に都 見、土地利用 建築基準法及	成を規制・割 市の表層とし の様相と、近 び都市計画法 /」の専門領域	導するしく。 で表れる建 代都市計画。 の効果と課題 はに当たる講	みとして役割 築形態、市街 及び建築法制 題について学 義であり、建	i生上の最低基準の環  を果たしてきた。  地形態、街並み、建  度との関係を具体的 :ぶ。「建築法規」の応 築・都市計画実務者	
		都市デザイン		られる。本語 デザインと 建築群の景質 境資源や歴史 る。 本講義は、	構義は、建築 ランドスケー 見構成や環境 史的要素、造	設計に必要なプの手法を学計画、ラント園、建築群な	に周辺環境お をぶものであ スケープでに とど景観を構 に視点から都	よび建築の関る。都市計画 は土地に起因 成する様々な 市デザインを	考慮することが求め J連領域として、都市 Iでは都市を構成する Iする風景のほか、環 要素が対象とされ 俯瞰し、地球環境と	
		地域デザイン・演習		高まりから、 でいる。本海 の保全・再生 域を対象に、 策の検討、伊	歴史まちづ 演習では、地 上等の計画技 フィールド	くり法の制定 域特性や歴史 術を体験的に 調査、地域資 画の策定、自	Eや重要文化に での文脈を踏 で学ぶことを を源発掘のた E民等へのプ	的景観の導入 まえた地域再 目的とする。 めのワークシ レゼンテーシ	現づくりへの要求の など法的整備が進ん 「生や、歴史的町並み 演習では、実在の地 ショップ、法制度や施 ションにグループで取	
		公共政策学		NGO、住民な 用による都付 野を対象とし 評価の各段内 本講義は「 技術者にとっ	どが担うさま うづくりも公 、、 政策課題 きに分けるこ 地域デザイン って重要な公	ざまな方針 共政策の一つ の発見・設定 とができる。 との政策に 共的政策につ	や施策、事業 つである。公 乏、政策案の はに当たる講 いて、政治	であり、社会 共政策は、公 形成、政策決 養であり、社 学、経済学、	をはじめ、NPOや会基盤の整備や利活 会基盤の整備や利活 共に関わる多くの分字に、政策実施、政策 定、政策実施、政策 会資本整備に携わる 観光学の側面から学 どんなものかについ	
		地域マネジメント		土木分野では 高齢化に伴う 策・地域経済 本講義では 整備・更新、	は老朽化した 分出建築ス 斉面では財政は「地域デザイ	都市インフラ トックの複合 健全化に向け ン」の視点、 の維持管理・	の維持管理 化・再配置 た新たな方気 すなわちハ	と更新・再編 ・縮減と維持 策等が模索・ ード面での都	きなテーマである。 4、建築分野では少子 ・管理、また地域政 試行されている。 市・建築施設の再編 実践事例を交えなが	i

			授	業	科	目	Ø	概	要		
<b>(建</b> 科 区	目	3 <b>市学部 建築学科</b> )       授業科目の名詞	<b></b>			講	義等の内容				備考
IV主専攻科目	. •	建築構造力学2・演習	静分ので ので ので	を対象に力 を構造のの 高い力学に で で で で で で で で で が と で し た り で の の の の の の の で の に り た し た し た し る し る し る し る し る し る と る と う る 、 る と う る る ら る ら る 。 と る と ろ と る と ろ と ろ と ろ と ろ と と と と と と	学を学んだが 学について学 知識や理解力 を解くには構 を理解し、作	ヾ、この演習 ≥ぶ。「建築: 」を養う。 青造物の剛性 £意骨組の変	では力の釣º  工学  として    、変形を知・  形を求める	合のみでは解 構造設計に必 る必要がある 解法として仮	習」では主に くことのでき 要となるより 。前半では直 想仕事の原理 み角法の二つ	ない不 専門性 線部材 につい	
		建築構造解析・演習	に対 造 の に 3次 に	対して構造 力学1A・ 力学を学」として構造 対学を受ける 対対のな空間 は、 では、	物の力学的多 演習」およて 、骨組構造を ま造設計に必 引構造の力学	を全性を検討 が「建築構造 対象とした 要となる、 における基礎 と計で必要と	するうえで 力学1B・泊 力学基礎理 平面的な広が 選理論につい される壁板、	最も重要な学 寅習」におい 論を学んだ。 いりを持つ2次 いて理解を深る	を含めた様々 問である。「 いて、柱や梁等 本演習では、 元的構造部材 める。 、曲板等の幅	建築構の線材「建築	
		建築鉄筋コンクリート複	点 てい 注 構造・演 し、 に	を補う複合 いるでは、 するでいて がして 対して 補強	構造である。 特性を理解す まず、鉄筋と 梁・柱・床・	我が国では ることは「 コンクリー 壁・基礎と の配置方法を	、この構造 建築工学」と トの複合体 いった建築 学ぶ。例題、	が土木建築分 して重要であ として力に抵 めの構成部材 課題を通じ	を生かして相野で数多く用る。 抗するしくみについて、加て鉄筋コンク	いられ を理解  わる力	
		建築鋼構造・演習	の 分 動 精 あ る。	基本的な専 野に関わる 要 は 関 と 関 で は 関 で は で は で は で に れ り に り に り に り れ り に り に り に り に り に	門知識についず、この構造 鋼材の特徴が できるので、 構造力学を	いて学ぶ。「 きの特性を理 いら、構造力 構造力学と を復習しつつ	建築工学」の 解しておく 学で学んだ 構造設計の 、鉄骨構造	科目であるが ことが望まし 解法によって 結びつきが理 特有の、鋼材	つであり、こ 、、学生の将来 い。 ・骨組の応力や 解しやすい構 の性質、接合 いて順に解説	変形が 造であ	
		建築耐震工学	り、 表 震 制	それをど はじめに、 し方を学ぶ 設計に必要 要・免震構	のように考え 過去の地震と 。続いて、基 な地震荷重の	・対処して 地震被害お 基本となる- う考え方を学 その構成要	いるかを学 よび地震の 層建築物の ぶ。また、	ぶ。 発生機構から 振動について 近年多用され	に振動するの 地震動の性質 理解し、その るようになっ ーターなど)と	とその 後、耐 ている	
		建築基礎構造	建 で 論。 質 (や、	築基礎の設 ある。本講 と現場を融 本講義では こついて解	計法に関する 義は、建築権 合させる、「 、はじめに、 説する。つつ	知識は、安 素造および杉 建築工学」に 土質試験法 がて、地盤	心安全な建 料・施工分 属する科目 、地盤調査 の支持力と	築物を設計・ 野の知識をべ である。 去を通して土 建築物規模に	地盤の工学的 施工するうえ 一スとして概 の物理的・力 応じた基礎の 、ムと対策につ	で重要 念や理 学的性 設計法	
		建築構造製図	れら その い。 描述 造	らの図面はの図面に何のの図面に何います。 の図面に何でではます。 のではまずでではます。 ではまずではます。 ではまずではます。 では、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	設計者の意思 が描かれてい では建築の基 方について当 、鉄筋コンク	まを他部門に いるかが正確 は礎で学んた とぶ。 リート構造 は得する。伏	伝える言語に読みとれた 知識を用い、 および鉄骨 図、軸組図、	こ相当する伝 なければ建築 「建築工学」 構造の構造図 構造詳細図	、設備図がある   遠手段となる   物の施工はで   として特に構   の作成を通し   、断面表など	ので、 きな 造図の て、構	
		建築施工	ぶ。 希望 るこ し、	「建築工学 望する者は 建築の施工 ことから、 施工計画	全」を学ぶ者の 特に、習得す 現場では最好 実際の現場写	つなかでも、 「ることが望 に端技術が惜 ほ務に携わっ	施工現場や ましい。 しみなく用い ている企業の	関連する事業 いられており の人材を非常	江実務の基本 に将来携わる 、専門化が進 勤講師として さらに、最新	ことを んでい 招聘	

			授	業	科	目	の	概	要		
(建	築都	市学部 建築学科)									
科区	目分	授業科目の名	称			計	義等の内容				備考
	建築工学	建築測量実習		施工中の建 を行うため る。 本実習で 3種類を扱	築物に設けるの測量機器の の測量機器の は、少人数の も、実際に各	るための工事? り操作方法お。 ブループで、 <sup>3</sup> 測量が敷地測	削量がある。 はびデータ処: 平板測量と水: 量および工事	「建築工学」と 理方法の学習 準測量および ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	「図から決定し7 ・して、これら6 引が実習の目標 「トランシット? ように関わるの 食器の操作方法6	の測量 であ 則量の かを	
		建築材料は、大きく構造材料と仕上げ材料に分類される。構造材料は、名前のとおり構造設計に密接に関連し、仕上げ材料は、意匠設計および設備設計に密接に関連する。すなわち、本講義は、「建築工学」を学ぶ者にはもちろん、「建築計画」を学ぶ者にとっても、素養として習得すべき科目である。本授業では、現代建築の代表的な構造材料である、木材・鋼材・コンクリートについて、物性や力学的特性を解説する。									
		建築材料B		おり構造設 連する。す ぶ者にと業で 材を複合し	計に密接に関 なわち、本語 ても、素養と は、仕上げれ	掲連し、仕上に 構義は、「建築 こして習得すっ す料についても こめ、個々の₹	げ材料は、意  工学」を学ぶ べき科目であ 既説する。仕	匠設計および 者にはもちろ る。 上げ材料には	送材料は、名自 対設備設計に密持 か、「建築計画 は極めて多種多材 が、複合され	接に関 i」を学 様な素	
		建築環境計画・演習		直感やひら 工学」に位記 な建築環境 小規模な の性能設計	めきなどの原 置づけられ、 計画・設計に 建築物を対象 を行う。これ る。建築の素	感性ではなく、 「建築環境工 こ反映してい。 なとし、まずい いらのパーツ。	工学的な知 学・演習」で くための演習 は壁や開口部 と組み合わせ	職が必須であ で学んだ知識を行う。 などのパーツ、建築物とし	ゲーで実現する( のる。本科目は「 を発展させ、具 いに分けて、それ しての振る舞いる ボー使用量に与っ	建築 体的 れぞれ を定量	
		建築設備の計画方法を実務に沿って学ぶ、「建築工学」の科目である。「建築の基礎」の「建築設備」で学んだ基礎的な理論・具体例を応用展開する。本講義では、建築設備のうち主に空気調和設備、給排水設備の計画理論について解説する。また、冷暖房熱負荷の計算、ファン静圧・ポンプ揚程の算定、給水・給湯・排水負荷単位、各種配管の管径決定法などの設計用計算理論について学ぶ。									
	建築設備の設計方法を実建築物を対象にして実務に沿って学ぶ、「建築工学」の科目である。「建築の基礎」の「建築設備」で学んだ基礎的な理論・具体例を応用展開する。 建築の基礎」の「建築設備」で学んだ基礎的な理論・具体例を応用展開する。 本演習では、設備設計用計算理論を駆使し、具体的な建築物を対象に、空気調和設備(熱源機、搬送系)、給排水設備(搬送系、貯留槽)のスペックを合理的に決定する手順を学ぶ。								展開する調和		

	<b>66</b> 1		受 第	其 科	目	Ø	概	要	
( <b>建</b> 科 区	目	活学部 建築学科) 授業科目の名称				講義等の内容			備考
IV主専攻科目	実践スタディ	建築インターンシップA	けてきをやされる。である。	実践していく力 実践していく力 演習の人間のでは得の考え 社会になる場合を 対いているでは は理るのは は理るのが がで研修に にいているが にいていなが にいていなが にいていなが にいていなが にいていなが にいていなが にいていなが にいていなが にいなが にいなが にいていなが にいていなが にいていなが にいていなが にいていなが にいていなが にいていなが	の体得を目指し 目指す。専門分野の ない専門分野の や意見、問題点 つけていく。 身 内容を研修先と	、文系と理系の まの指導のもとで の実践的知識に加 まに触れることに に関の対象は、 に打合せ、計画	の区別に捉お での記 いた のの記 いた いた いた いた いた いた いた いた いた いた いた いた いた	いにより問題解決に われない幅広い専門 きを通じ、大学での ぎでは気づかない様 か自身の経験から職 計事務所のオープ 担当教員に提出し ポートをまとめ発表	性 講 々 業 ン た
		建築インターンシップB	けて を養 義 観 と 体 に 事	実践していく力 ってで身にで身にで身にで身にで身にで身に一個 一個では一個では一個では一個ででは でで一個ででででいる。 ででではいい。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 で	の体得を目指し ・目指す。専門別 ・た知識や能力と ・を通じて身につ ・アークショット 内容を研修先と	、文系と理系の表の指導のもとでは実とのギックはでいく。実際である。 ・打合せ、計画電	り区別に捉む での就業体験 ップを体感し 習の対象は、 書を作成して	かにより問題解決に いれない幅広い専門。 を通じ、大きでのは、ながら、自らの職・ 地方自治体や市民。 地方自治体や市民。 世当教員に提出し、 一トをまとめ発表	性 講 業 団
		建築プレゼンテーション	識とす とす の は 知識 に お り ジェ 備	しての英語だける。 文法を伝えることでいたる なななることでいた。 なたるにないたいたのにしていた。 ないたがないたが、 ないたが、 ないたが、 ないたが、 ないたが、 ないたが、 ないたが、 ないたが、 ないたが、 ないがが、 ないが、 ないが、 ないがが、 ないがが、 ないがが、 ないがが、 ないがが、 ないがが、 ないががが、 ないががが、 ないがが、 ない	でなく、コミュ 実践スタディ」に よりも伝えよう はない。また、 にとの本質き出し ポイントを含め	ユニケーション? 工位置づけられる とする意思でも 自分の言葉でほ ほう問い直す必要 したが、口頭発表	ソールとして る。コーカリンショニ あり、一方的 日本語ある。 見 表を通じたフ	要不可欠である。。 の英語の可得を目に か一ションに重要 に難解な情報・ 語に置き換えを は は が が が が が が が が が が が が が が が が が	的な問程 ロ、
		海外建築研修	市景 研修 まと のワ	覗を実地に見学 こ先立ち、見学 めることで理解 ークショップを	し、専門分野の 対象の意匠・打 を促進する。さ	の知識および空間 技術、設計者等に らに、外国語に	間・技術理解 こ関する調査 こよる建築解	、優れた建築物や そを体験的に深める。 を行い、レポート 誤説や海外研究者等 視野と国際理解、	 に と
	ゼミナール	建築専門演習	いて。 学に 単位。 建 が担 生の	研究・設計のた 関して真剣に向 数を十分に修得 築学の分野の概 当を希望する教 興味に合わせ、	めの基礎力を習 き合う契機とす している学生の 説と各教員の専 は員を選定し、名	習得するとともに つる。その性質」 のみを対象とする 専門分野や研究を か研究室でプレヤ はいます。 はいまするともに はいますると はいますると はいますると はいますると はいますると はいますると はいますると はいますると はいまする はいまる はい	こ、自身の と、3年次後 る。 内容の説明を ゼミ活動を実	る教員の研究室に 近性を見極め就職・ 近期で、卒業に必要・ 開いたうえで、学・ 活動する。加えて、・ 分野を超えた協働・	進 な 生 学
		卒業研究	動を れて 究・ 養う 各	展開し、論文・ いながらも未解 間作活動を通じ ことを目的とす 数員の専門分野	設計としてまと 決の課題を設定 、リテラシー( る。 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	とめるための前長 こし、課題の解析 問題解決力)とこ	受階の科目で 央方法を検討 コンピテンシ えで、学生が	関する研究・制作: ある。社会的に望ける。実践的な研 一(社会人基礎力) が担当を希望する教	を
		卒業論文・卒業設計	を展し 定しし ピテ・ 定し	開し、論文・設 た課題について で発表する。実 ンシー(社会人見 た教員のもとで 分野・学科の研	計としてまとめ 、調査・実験な 践的な研究・ 構造 基礎力)を養うこ 、引き続き研究	うるための後段 などで得られた& 川作活動を通じ、 とを目的とする こと・制作活動を多	皆の科目であ 吉果を分析・ リテラシー る。具体的に 実施する。な	引する研究・制作活 うる。「卒業研究」で 考察し、論文・設 ・(問題解決力)とコ には 「卒業研究」で さは、「卒業研究」で に に を を は に に に に に に に に に に に に に	設 計 ン 選 よ

	授	業	科	目	の	概	要	
市学部	土木工学科)						Т	
学科目	授業科目の名称			講義	等の内容			備考
見んで月前	現代文明論	に開講される 通じて、地球 思考や意欲を を探るために	。すなわち歴 規模で深刻化 養うことを目的 不可欠な歴史的	史や世界への見 する困難な事態 的としている。 的・系譜的な認	記識を高め、人	類社会のあり 時代を開拓し 枠を超えて、 れを多様な角	方を見直すことを ようとする力強い 現代の課題の根源 度から読み解く思	
基礎教養科目	入門ゼミナールA	「大学での学 しつつ、ノー た、大学生活 ていく。さら じ、学生個別	び方」を学ぶ、トの取り方やかる とび方」を学ぶ、トの取り方やかい というこう でいい かいま かいま でいま に 特定のテープ の学問的関心	ことを目的とし 情報収集の方法 必要なアカデミ マについて個丿	ン、4年間の計 去、情報リテラ ミックスキルの 人の関心に応じ	画的な学習スシー、図書館 シー、図書館 基礎的能力・ た調査・発表	ケジュールを構築 の利用方法といっ 知識をまずは養っ といった演習を通	
	入門ゼミナールB	「入門ゼミナ いへ変換させ レポートの と同時に、所 理観などの育	ールA」で培って能力を養う、 る能力を養う、 とめ方の学び、 属学科における 成を通じて、	った個人的関心 ことを目的とす 、グループ演習 る専門分野の基 本学が育成を目	いから生じた問ける。具体的に 引・発表を通じ 基礎的知識や問 目指す、自ら考	いを、より公 はクリティカ て、「スキル 題点に対して	共的・普遍的な問 ルリーディング、 の向上」を目指す の取り組み方、倫	
発展教養科目	シティズンシップ	様々な人々が する人々の観点 り越え、相互 を目標とする	相互に関わりが とを市民(シラ から、多様なが の人権を尊重し 。参加型授業を	ながら暮らして ティズン)と呼 人々が民主政治 しあえる社会を を通じ、社会の	ている。背景の 呼ぶ。本科目で 台の担い手であ と形成するには り様残な課題に	違いはあって は、「シーとして る市ければよ ついて話し合	も、共同体に参加 ズンシップ (市民 、意見の違いを乗 いかを考えること	
	地域・国際理解	な生活を営む 持続させてい く離れた地域 では、自らが 域社会・国際	ために、地域 いく必要がある。 ともひと・もの 暮らす地域社 社会の様々な話	で仲間をつくり , 一方、現代の の・ことを介し 会と国際社会の 課題を発見し、	)、議論し、協 の地域社会はグ して緊密に連動 の現実を見つめ その解決につ	同し、基盤と ローバル化の するようにな 、多様な人々	なる豊かな地域を 波にされされ、遠 っている。本科目 の視点に立ち、地	
	現代教養講義	情報技術の発 気候変動や階 り良く生きる ず本質をつか て講義する。	展や経済活動の 級格差など、 ため、高度に み、学ぶ必要が 文理融合的な	のグローバル( 様々な問題解決 専門化した現代 がある。本科 E	となど、急激な やを迫られてい 犬の科学的知識 目は教員自身が	社会的変化に る。こうした について、そ 現在取り組ん	されされる一方、 現代社会の中でよ の枝葉にとらわれ でいる研究につい	
健康スポーツ科目	健康・フィットネス理論実習	を講義と実習動を通しての ション能力の 重点を置き、	を通して学習で う「友達づくり」 向上をねらい。 健康に関する ま	する。また、仮   や「仲間と <i>の</i> とする。具体的 理論や重要性を	捜康・体力面だ ○信頼関係づく りには、健康的	けでなく、仲 り」を体験し な生活習慣を	間とともに身体活 、コミュニケー 身につけることに	
	生涯スポーツ理論実習	を講義と実習動を通しての ション能力の の獲得に重点	を通して学習で う「友達づくり」 向上をねらい。 (を置き、スポー	する。また、仮 」や「仲間との とする。具体的 ーツの"おもし	<b>建康・体力面だ</b> ○信頼関係づく りには、生涯を ∪ろさ"や"大	けでなく、仲 り」を体験し 通じたスポー 切さ"などを	間とともに身体活 、コミュニケー ツライフスタイル	
	学見たで月前 基礎教養科目 発展教養科目 発展教養科目	***	本	###	本科目   技業科目の名称	字科目 授業科目の名称 講義等の内容	字科目 授業科目の名称	李科目 授業科目の名称 講義等の内容 講義等の内容 本科目は東海大学に学ぶすべての学生が、様字の精神を選解し自らの思想を持うため、上間違うれる。すないも理要や世界への関係を高め、人類社会のありりを見合すことを 面して、調整機能で認何にお問題が事態にあって、時にな関係にようとも またい 地域で関係で関係である場合と乗りため、 大郷社会のありりを見合すことを 通して、調整機能で認何で制度で関係である場合と事に 、 中には、関係して、関係と関係で関係である場合と事に 、 中には 関係して、 対象を関係で関係である場合と事に 、 中には 関係して

(用紙 日本産業規格A4縦型)

		授	業	科	目	の	概	要		
(建築都	市学部	土木工学科)								
科目区分	学科目	授業科目の名称			į	講義等の内容			備考	
英語科目	英語コミュニケーシ	英語リスニング&スピーキン グ	を使ってがに対応し、を目標とする様な種類	意思疎通をはか 問題を解決す する。学習者の 質の英語を理解	なことの重要 るための実践 英語力に合わ なするリスニン	性がさらに高ま 的英語コミュニ せて効率よく学	っている。その ケーション能 習できる習熟 意志を適切に	N / D / C - / - / - / - / - / - / - / - / - /		
	ョン科目	英語リーディング&ライティ ング	を使って流 に対応し、 を目標とす 多様な種類	意思疎通をはか 問題を解決す する。学習者の 質の英語を理解	ることの重要るための実践 英語力に合わ なするリーディ	性がさらに高ま 的英語コミュニ せて効率よく学	っている。その ケーション能 習できる習熟 の意志を適切	これがりつにめりノ		

		授	業	科	目	の	概	要	
(建築者	『市学部	土木工学科)							
科目区分	学科目	授業科目の名称			計	義等の内容			備考
IV 主専 攻 科 目	土木の基礎	土木教物の基礎	学科に特化 躓くと推測 では扱う単 複雑な構造	した、ごく され、かつ 位(Unit)が 物の設計計	基本的な数学(ま 複数の専門講義で 膨大になるため、	よび物理)を対 共通して扱うが 単位の扱いに 、計算力向上を	対象としており テーマを扱う。 貫れるよう基礎 を見据えた演習	学問を扱う。土木工 1、多くの初学者が 例えば、専門土木 値学習を行う。また 習を行う。物理学も 等は扱わない。	
		土木の数学	本科目では の専門分野 ラフ、ベク	、工学や自 で特に用い トル、行列: また、専門	然科学で扱う数量 られる基礎的な数 式、微分・積分、 科目においてそれ	: (有効数字、& :学(図形、三5 確率など)の『	欠元、単位)を 角関数、指数関 項目を重点的に	を要不可欠となる。 はじめ、土木工学 関数、対数関数、グ 演習問題を解きな しているかを具体的	
		土木の微積分	工学の基礎 きるように 各種微分法	として不可 なることと 、②偏微分	欠な科目であると そのために必要と	の位置づけから なる知識を重視 数の展開、④	っ、この授業で 見する。具体的 1変数の積分・	。 微積分は、土木 では正しい計算がで 的には、①1変数の 広義積分の計算	
		工科の線形代数	目の基礎と 可欠な、線 理解につな について学	なる最重要 形代数の基 げることを んだ上で、	科目である。本授 礎的概念について 目的とする。具体	業では、土木二 学ぶことで、 的には、ベク 非常に重要な過	L学の専門科目 その後の専門科 トルや行列の概	学の多くの専門科  を理解する上で不  目へのスムーズな  おやそれらの演算  この解法、逆行列や	
		基礎統計学	混在したデ や設計の意 不確定な要 出す場合に	ータの中か 思決定を行 素を含む量 は統計学の 礎的な統計	ら本質的な情報を なう必要がある。 を扱ったり、限ら 知識が必要となる 処理の方法、確幸	効率よく取りと 交通量の調査、 れたデータの「 。本科目では、	出し、実態を的 材料特性の割 中から必要な情 調査や実験に	では、様々な要素が の確に把握して計画 を価や出質管理など を指数を効率よく取り とよってを推し計る統	
		土木解析学	設計の基礎 礎をなす微 常微分方程	をなしてい。 分方程式を 式について 線形微分方	るケースも多い。 学び、その解法を 学習する。1階の 程式などを扱い、	「土木解析学」 理解し、修得で 常微分方程式で	では、このよ することを目的 として、変数分	社式の解が構造物の こうな土木工学の基 うとしており、特に の としており、特に の 職形、同次形、完 定数係数の線形微	
		物理学	となる必須 いて理解で 目的として 事」、「エ	の素養であ きることを いる。 具体 ネルギー」、	る。「物理学」の 追求しつつ、その 的には、粒子の選 、「運動量」など	講義では、基本 ような必須の外 動法則の学習が の重要な概念	本的ないくつか 勿理学の素養を からスタートし を学習する。さ	、土木工学の基礎 いの自然法則に基づ と身に着けることを 、、次いで、「仕 らにこれらの概念 うことを学習する。	
		化学基礎	において専 している。 化、物質を 質の三相(	門的学問を 具体的には、 構成する原 気体、液体、	学習する上で必要 、物質の組成、構 子の電子配置と周	となる化学の3 造、反応など1 期表の関係や原	基礎知識を習得 こついて取り扱 原子間の結合で	特に土木工学分野 身することを目標に すう。物質の体系 である化学結合、物 で衡、酸・塩基およ	
		基礎情報処理	生活の中で る。本科目 通して、研 る。具体的 ワーク基礎	必須になっ では、コン 究や土木分! な内容とし 知識・情報	ているばかりか、 ピュータやネット 野の業務で使える ては、①情報デサ	土木工学分野 ( ワークの基礎) レベルの実践 イン、②コン (	こおいても必須 印識を学習する 力をも身につけ ピュータの構成	業務など様々な社会 質の基礎科目であ らとともに、演習を けることを目的とす え・特性、③ネット の活用、⑥プレゼ	

			業	科	目	の	概	要	<u>本性未祝恰A4靴型)</u>	
(建築都	市学部	土木工学科)	1						1	
科目 区分	学科目	授業科目の名称			詩	義等の内容			備考	
IV 主専攻科目	土木の基礎	プログラミング基礎	を学ぶ。これできない基礎 ら始まり、答 らない。 本講義では ロ・VBA (Vis	ルらは構造物 を科目である をえを見つけ は、MS Offic sual Basic 新計算に欠か	のの設計など、よ る。構造物の挙動 けることが難しい ceアプリケーシ for Applicatio	りよい生活環境 や自然の現象を 微分方程式を数 ョンのExcel や ns)を使ってプ	竟を創造するだ と理解するため 対値解析によっ Wordなどに登 ログラミング	を基礎とした学問とめに欠かすことの かには、四則演算かって解かなければな 載されているマク 技術の基礎を学習する		
		土木基礎力学1 (演習含む)	学、水理学な を設計するた 作用する力と 用したとき、	など) の基 こめの初歩的 こそのつり台 その内部に	礎となる重要科  対知識を修得する い、② 構造材料	目で、より安全 ことが目的であ 計の力学的特性 と変形、④ 構	でより経済的 ある。この授業 と評価方法、 造部材の断面	構造力学、土の力 な土木・建築構造物 をでは、① 構造物に ③ 構造物に力が作 の諸性質、⑤ 構造		
		土木基礎力学 2 (演習含む)	学、水理学な を設計するた 学1」で学ん や断面諸量	など) の基礎 よめの初歩的 た力学の基 (断面1次、	をとなる重要科目 対職を修得する 基礎の上に、はり	一、より安全で で、より安全で ことが目的でも の断面力図(せ など)の求め力	でより経済的な ある。この授業 せん断力図、曲 方について修得	構造力学、土の力 ←土木・建築構造物 美では「土木基礎力 はげモーメント図) 身する。その上で、		
	都市と防災	防災まちづくり	積した都市 は は る い た い か い の の く り に と ち る め い の く り く っ 、 と り に っ 、 ろ と り く っ く っ く っ く 、 く 、 に く 、 く 、 く く く く く く く く く く く	は、	按害を受けるととに対する都市の脆け策(防災計画)、 が災害ボランテ が、災害、薬再生) は保、産業再生) (4回) (2) (4回) (2) (5) (5) (6) (6) (7) (7) (7) (8) (8) (9) (9) (9) (9) (9) (9) (9) (9	もに、長期間に 弱性を理解し、 避難計画、防ち イア)、災害多 を災害の事例を 、 後興まちづく	上渡る復興への 防災・減災の 長教育、災害情 後生後の復興へ 等から学ぶ。	物、産業経済が集 つプロセスが必要と つまちづくりを目指 情報の活用)、災害 へのプロセス(復興 旦当する。	オムニバス方式	
		防災計画、防災教育、災害情報の活用、復興まちづくりについて担当する。 (32 鈴木 美緒/7回) 避難計画、災害救助、物資輸送について担当する。  本科目は都市に地震防災対策を講じ、安心安全で豊かな社会を構築するために必要な 基礎知識を習得することを目的とするものである。講義前半では振動学の基礎を学習した上で構造物の地震応答解析手法を修得する。後半では、まず地震学の基礎を学習した上で構造物の地震応答解析手法を修得する。さらに、耐震設計法を学び、その基本的な考え方を修得する。以上の知識をもとに、近年の地震被害について考察し、構造物や地盤の被害の発生メカニズムの理解を深めるとともに、今日の防災対策について学習する。。								
		都市防災工学	目的は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は	科目で、 注記 対別 対別 対別 対別 対別 対別 対別 対別 対別 対別	なや洪水などに対 かいて、その発生 たついて都市の防 たの、具体的には、 経の液状化や斜面 4回) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	する都市の防災のメカニズムペ のメカニズムペ 災力を向、潮 災津波、を対象とし ついて担当する	込など、わがしたという。 で被害の実態に するための様々 可川の洪水なと 、それらのじ 、それらのじ	☆を構築することを 国において多発して こついて学ぶととも ☆な手法について修 どの水関係の災害、 方災スキルを涵養す	オムニバス方式	
		構造力学 1	で豊かな社会 して、構造物 あい条件だけ れば解析でき	会を構築する が静止·安 けで解析でき ない不静気	ことを目的とし 定するための力なる静定構造物と	た科目で、土木 学に関する学ぶ この静的つりま る。学習対象に	<ul><li>株造物を設ま</li><li>安定な構造</li><li>が条件に変用</li><li>は、土木構造物</li></ul>	可上させ、安心安全 十するための基礎と 物のうち、静的つり 多の条件を加えなけ かを構成する静的お 斤の力を養う。		
		構造力学演習	て、その理解 力を向上させ 目の1つであ 線、②静定は	なな深める。 t、安心安全 bる。具体的 ばりのたわみ	構造力学は、都 さで豊かな社会を かな問題演習の対	市にインフラを 構築することを 象としては、① たわみ、④応力	を整備するとと と目的とした」 D静定ばりの反 D法を用いた7	問題演習を通じ ともに、都市の防災 た木工学の最重要科 え力や断面力、影響 下静定ばりの解法、		

		授	業	科	目	Ø	概	要	
(建築者	『市学部	土木工学科)						Т	
科目 区分	学科目	授業科目の名称			Ē	構義等の内容			備考
IV 主専攻科目	都市と防災	構造力学 2	で豊かな社会造物の力学に「構造力学」は、応用的が	会を構築す こ関する学 1」で、静 な構造力学 不静定構造	ることを目的と 閉であり、土木構 定構造物と簡単 を学習する。 具 物の解析法、不	した科目である。 造物を設計する な不静定構造物を 本的には、仮想化	構造力学は ための基礎と と学習した後、 土事およびエン	向上させ、安心安全 静止・安定している構 なる学問である。 「構造力学2」で ネルギー法を用いた 去を用いたラーメン	
		橋梁工学	築すること。 の発展と歴 部材の接合 構、 横 論などを学 ラス橋の構	を目的とした 史、橋梁形 去などを大き 大など床、 大など 大など 大など 大など 大など 大など 大など 大など 大など 大など	た科目で、まず 式の種類と特徴、 習する。次に桁桁 などの詳細構造 らに、鋼単純合原	鋼橋の設計に必見 鋼橋の設計法、 喬(プレートガー を理解した後、関 式 I 桁橋に関し、 て、上弦材、下引	要な共通の基礎 設計荷重、 ーダー)につい 所面力の算出 構造の詳細 弦材、斜材、	全で豊かな社会を構 遊知識として、鋼橋 材料と許容応力度、 ハて、主桁、対傾 方法、断面決定の理 や断面計算法を 本点等の構造詳細、 る。	
		土質力学1	年劣化によりを供用する。 者向けに、5 の応力の検討	り、我が国 こは、土に 土に関する。 討、圧密と	の都市の防災水道 関する力学理論 基本用語を習得	準は高まりつつさ を知る必要がある する。その後、こ 長期変形現象に関	ある。長期的が る。「土質力を 上中の水に関 <sup>*</sup> なり組む。い <sup>*</sup>	発する自然災害や経 かつ安定して構造物 学1」ではまず初学 する分野、土中内で ずれも土質力学の根	
		土質力学演習	準の防災機能 するには、 質力学演習)	能を付与した 力学理論に では、主	た構造物の構築/ 裏付けされた、記	が必要である。」 設計計算を精度。 で学んだ力学5	長期的かつ安? よく行う必要? 理論をもとに?	衆の観点から、高水 定した構造物を供用 がある。本科目(土 寅習問題に取り組む	
		土質力学 2	いる。地盤の の構造物に の自然災害だ して、破壊	の改変や荷 重大な影響 が多発する 問題(斜面) る自然災害	重の増加によりるを与えることもる を与えることもる 地勢条件にある。 崩壊、クーロンの とも密接に関連っ	変形や沈下、場合 ある。また我が 「土質力学2」 の破壊基準、支持	合によっては 国では地震や では、「土ƒ 寺力、土圧)	寺する役目を担って 破壊が生じ、これら 台風、土砂災害など 質力学1」の応担と を中心に取り扱う。 欠世代の都市防災を	
		道路工学	動で経済があ あり、道路6 は、道路舗3 道路新設時の	成立し、人の整備状況 との人の知 との人の知 の技術基準、 で、将来計	の交流で新たな」 がその国の経済、 恵と技術による? 、環境に配慮した 画に即した安全。	文化が生まれ、、 文化をはかる。 変遷、道路を有刻 た道路舗装の設言	これらを支え、 ベロメータと めに機能させ、 什法の考え方。	資本である。物資移 るものが道路交通で もいえる。本科目で る交通流理論基礎や とその施工法等を理 かつ耐久性を持つ道	
		コンクリート工学1	材料 (マテ) 「コンクリー 材料、コンタ について講	リアル)に ート工学1 <sub>.</sub> クリート材 義すること	ついての知識を( 」では、建設材料 料などを対象に、	を得することを 料として、鉄鋼、 材料の分類や をより安全に、。	目的とした科  木材、石材、 基本的性質や記 より機能的にな	楽するために、建設 目である。特に、 歴青材料、高分子 評価方法、用途など かつ経済的に構築す	
		コンクリート工学2	材料 (マテリー 「コンクリー (強度、弾 (運搬、打電	リアル)に ート工学2 <sub>.</sub> 望性)、カ <sup>:</sup> ち込み、締 能的にかつ	ついての知識を( 」では、建設材料 学以外の特性( <sup>‡</sup> 固め、養生)に <sup>*</sup>	修得することを  料で最も使用量が 推積変化、耐久性 ついて講義する。	目的とした科  が多いコンク  生、水密性)、 ことで、建設材	察するために、建設 目である。特に、 リートの力学的性質 配合設計、施工 構造物をより安全 よび施工に関する基	

		授	業	科	目	の	概	要	
(建築者	市学部	土木工学科)	T						
科目区分	学科目	授業科目の名称			11 11	構義等の内容			備考
IV 主専攻科目	都市と防災	コンクリート構造	ンクリート という異な ては必要不 る。この摂 由、②曲け	、構造物についる ない はい	いて学習する。 幹の特長を最大限 であるため、その コンクリート・針	失筋コンクリー 艮に生かした構 の成り立ちを理 失筋の力学的性 り、 ③せん断	ト構造物は、= 造であり、現代 解することは、 質と鉄筋コンク 力を受けるRO	不可欠な、鉄筋ココンクリートと鉄筋 はの社会資本におい極めて重要であ リートの成立理 にはり、④軸力と曲	
		メンテナンス工学	基盤の維持 としている で継続的な 維持費と関	特管理(メンテ う。社会基盤に な投資がなされ は設費の割合に	ナンス)に必要る は、生活や経済活 い、膨大なスト	となる基礎知識 活動の発展を支 ックが形成され なると予測され	を系統立てて習 える公共財であ てきた。2030年 ており、既存の	をするために、社会 習得することを目的 5り、今日に至るま E頃には、構造物の 2社会ストックを合	
		土木施工	木工事に必察 本工事を発電が を地造成・ 基礎工・ 基礎工・	が要な各種施 で、LNG施設・ 公園・当山・ はアンクンとの基 ではなどの基 ではなどの基	正法の基礎知識を・空港・港湾・/ エ場施設・ドッ ・治水などである 「設・発破などの	を学習する。エペイプライン、( グ、③生活環境 る。土木工事に の作業が含まれ	事の対象は、① ②エネルギー・ 匿施設;上下水 は、掘削・水替 、建設材料学、	提集するため、土 )交通・運輸施設; 産業関係施設; ・産業関係施設・労 道・廃棄物処分場・ ・ 大・土工・仮設・ コンクリート工 過程を土木施工法と	
		建設マネジメント	災害等から 充てられる 者はQ(品 境保全)を 付け、目的	o生活や社会を うため、その 質確保)、C で理しながり でを正確に理解 いたを学び、。	を守る防災の目的 事業には適正な何 (適正な利益の研 ら建設工事を進る 解した上で、その	内がある。公共 西格が設定され 確保)、D(工程 かる必要がある。 の目的を達成す	事業では国民の るべきで、それ 建遵守)、S (安 。本講義では社 るための適切な	歴性を向上し、自然 の税金が建設事業に いを請け負った施工 定全の確保)、E(環 社会基盤整備の位置 ぶ道筋、つまり建設 うことに寄与できる	
	都市と環境	測量学1	上三次元空 得る学問で で、人が測 る。測量学	E間の位置関係 である。三次5 脚定機材を使斥 とは、許容で	系を測定し、地区 元座標(X、Y、Z 用し屋外で測定で できる範囲内の記	図を作成したり )を決める基本 するため、注意 呉差の消去方法	数値データ(面 ×測定は、距離 深く測定しても を学ぶ学問と言	道路・建物など地球 前積、体積など)を 、角度、高さの3つ がず誤差が生じ 言ってもよく、「測 性(高さ)測量を学	
		測量学2	て行うトラ 環境及いら計 標値から計 し活用・計 測定・	デバース測量を 下の計測にで 計算する面積 でるこ力を養う。 同じて大別され	を中心に、面積液 ついて学ぶ。トラ 則量、路線測量な う。なお、測量に	則量、平板測量 ラバース測量は などに広く利用 よ内業(室内で ・2」は内業に	、電磁波および 地図を作るため されますので、 の計算・作図)	こ、これらを利用し	
		測量実習	が、理論の観測・計算のと実習では、場別を記述しまます。	) みでは実際! ゆ・図化などの で、測量の は自然環境及で いる水準測量、	こ役立てることに の作業が正しく前 学習では理論とほび都市を実測する	まできず、測量: 指率よくできる 実技とを関連さい るための基本的: 則り測点の相対!	器機・器具の取 ように習熟し† せることが必要 な測量である地	のちろん重要である 対り扱いに慣れて、 一分な経験を重ねる 逐不可欠である。測 也面の高低差を測り ごするトラバース測	
		地形情報処理学	するデータ モートセン LANDS システムの れる地形情	v を収集、処理 v シングと呼ぶ S A T などでも の原理や方法に 青報及びその原	里、分析、評価 いる かいまた いっこう できまる できまる ままる ままる ままる まま こまま できま といる まま できま といる まま できまる ままる ままる ままる ままる ままる ままる ままる ままる ままる	、その結果をは例は天気予報が は不気予報が で含む地球全 で解説すると を行い、その利	画像や図表に表用の衛星、地球体を観測してい 共に、これらの	√、環境、都市に関表示する技術をリまで演調査のためのいる。これらの観測のシステムから得らのGIS(地球情報	

		授	業	科	目	の	概	要	
(建築都	<b>『市学部</b>	土木工学科)							
科目 区分	学科目	授業科目の名称			書	義等の内容			備考
IV 主専攻科目	都市と環境	都市デザイン	再生へ、ま は何か?ま 関係のある を、建築家 え方、思想	たは、都市 た、それら 建築計画や や都市計画 に関して学	活用へと社会的男 はどのようにデサ デザイン、都市ラ 家の思想とデザイ	要求が変化していずインされるのだがインされるのだがインの例かいかを通じて、 だから現在、そ	いる。都市とにか?について、 ら、今日までの 都市をデザイン して未来へと変	の都市計画から都市 は何か?都市空間と 人の生活と密接に の基本的な捕らえ方 ノする計画手法や考 変わりゆく手法やデ 案する。	
		都市・地域計画	的に誘導し 民の参加し 日本の都市 その上で、	ていく必要 た都市づく i・地域計画 都市・地域	性が高まっている りが求められてい の歴史を振り返り 計画における調査	5。また、環境 いる。本科目で り、日本の都市 近・計画・実施	に配慮した都市 は、西欧近代の ・地域計画制度 という計画づく	や地域の発展を計画 市・地域づくり、市 の都市計画の歴史、 まの仕組みを学ぶ。 くりの手法とプロセ 下になされるべきか	
		計画数理	展析及び計 である最適 などについ	画をシステ i化手法のと て学ぶ。基 る。それぞ	マティックで合理 してスケジュール 礎的な統計手法に	性的に分析する の問題、線形 こついては基礎	オペレーション 計画法、動的計 統計学で学び、	て必要となる多変量 ンズリサーチの技法 +画法、ゲーム理論 本科目はより高度 トることができるの	
		地域マネジメント	分野では老 伴う公共建 では財政義 本講義で 備・更新、	柄化した都 築ストック 全化に向け は「地域デサ	市インフラの維料 の複合化・再配置 た新たな方策等か ドイン」の視点、す の維持管理・運営	管理と更新・ ・縮減と維持 ・模索・試行されなわちハード	再編、建築分野 管理、また地域 れている。 面での都市・類	テーマである。土木 予では少子高齢化に 成政策・地域経済面 建築施設の再編整 利を交えながら課題	
		交通計画	を基礎とす 法を概説す して、環境 論(道路網)	る交通調査 る。次いで に配慮した 計画、道路の	の手法、OD表の構 、総合的な都市交 公共輸送計画(鉄	背造を説明し、 ☑通計画の考え 道、バス、新交 ☑ついて概説し、	それに立脚する 方とプロセス、 延通システム)、 、最後に地区レ	-ソントリップ調査 5交通需要予測の手 個別の施設計画と 道路の計画と設計 レベルの交通計画と と学ぶ。	
		公共政策学	などが担う くりも公発見 とができる いて、政治	さまざまなった。政策で、政策では、政策では、政策では、政策では、政策議議では、政策を対し、対し、政策を対し、対し、対し、政策を対し、対し、政策を対し、対し、政策を対し、対し、政策を対し、対し、政策を対し、対し、政策を対し、政策を対し、政策を対し、政策を対し、政策を対し、政策を対し、政策を対し、政策を対し、政策を対し、政策を対し、政策を対し、政策を対し、政策を対し、政策を対し、対し、政策を対し、対し、政策を対し、政策を対し、政策を対し、対し、政策を対し、対し、政策を対し、対し、対し、政策を対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対	方針や施策、事業 である。公共政策 策案の形成、政策 は、社会資本整備	だであり、社会: では、公共に関う で決定、政策実施に携わる技術に携わる技術	基盤の整備や利力る多くの分野施、政策評価の 者にとって重要	b、NPOやNGO、住民 利活用による都市づ 牙を対象とし、政策 の各段階に分けるこ 要な公共的政策につ 女策の比較から日本	
		まちづくり関連法規	ぶ。本科目 物の敷地、 定)につい が集団とな	では、主に 構造及び建 て、知識とし るまちづく	建築基準法におけ 築設備に関する規 して修得し、その	ける建築行為に  記定(単体規定)、 根拠や意味に関 ったって、知っ	関わる諸手続き、都市計画等に して学習する。 ておかなけれに	要な法規について学 を(制度規定)、建築 に関する規定(集団規 。また、単体の建築 ばならない土地・建 と学ぶ。	
		水理学1	ことを目的 かせず、「 を学ぶ。土 道工学・海	」として発達 水理学1」 :木工学にお :岸工学など	してきた学問で <i>あ</i> では実用的な水コ いて水理学を基礎	る。都市と環境 注術と理論的 をとする工学を シ水工学を理解	境の維持、防災な流体力学とを 水工学と呼び、 するうえで、オ	トる解法を提供する 後には水害対策が欠 を合わせた水の力学 河川工学・上下水 大理学の知識は必要	

		授	業	科	目	Ø	概	要	
(建築者	市学部	土木工学科)							
科目 区分	学科目	授業科目の名称			計	義等の内容			備考
IV主専攻科目	都市と環境	水理学演習	う。水理学 の基本的性 係わる諸量 体力学を理	は都市、環境 質、静水圧算 を計算出来る 解し、これら	きの維持に必要な 算定法、運動量(6 5スキルを身につ 5の水路における	k水管理の基礎を R存則とベルヌー Oけてもらう。 a	と学ぶ学問であ ーイの定理等を また、管水路と た速等を定常な	るための演習を行 り、本科目では水 理解し、これらに 開水路の基礎的流 場合について概略	
		水理学2	要な、河川を行いなが圧、運動量よび管水路	や海岸管理の   ら、より発展   保存則およて   なの流体運動	)基礎となる水の 長的な内容を学習 バエネルギー保存 かについて、より	O流れや圧力につ 習する。まず、ス 字則) の理解を終	oいて学ぶ。「 kに関わる力学 Wめる。また、 への対応法を学	iと環境の維持に必 「水理学1」の復習 ら的基礎原理(静水 乱流の基礎理論お らび、開水路での流	
		河海工学	工学の観点 の基本的性 法を紹介す が国の河川 る方法、地 に流水理論	から学ぶ。 質(発生・伝 る。そして、 の特徴およて まの地質や相 に基づいた際	成が国で地震災害 活播・変形)、高 高潮と津波に が降雨の継続時間 直生および地形や な水流下予測など	唇と共に重要な消息 高波災害への対処 こる災害対応法に 間、強さと頻度が 特性などを考慮に	毎岸災害の詳細 地法と、ても解説 よどの水文特性 こ入れた降雨の 、治水・利水	、特に河川、海岸 間を概説し、海の波 港湾構造物の設計 むする。加えて、我 きる統計的に処理す 。流出機構、ならび の計画・設計・施	
			行為は、そ 市・環境創 ために把握し 確に把握し に対するエ	の大切な水環  造を目指すこ 地球上の貴重    でいなけれた  学的アプロー	環境に多大な影響 ことは、土木関連 こな資源であるが だならない。本語 -チについて学び	緊を及ぼす。自然 車に従事するにな なへの理解と、₹ 構義では水利用、	**と共生し、バ あたって重要な その水環境保全を 水環・ 水電・ 水電・ 水電・ 水電・ 水電・ 水電・ 水電・ 水電	一方私たちの開発 ボランスのよい 都 注目標である。その がのようなものか正 注目標とした水環境 :理解し、それを目 ・る。	オムニバス方式
		環境工学	(27 笠井 水環境と 技術の進歩 (33 寺田 河川と海	とリサイクル   一美/7回   の関係(沿岸	) 反える土木技術 と レ等の面から講 ) 域)での水質・	食する。	学的な水域管理	を化、高耐久化等の 理、沿岸生態系にお 。	
		上下水道工学	は、土木従 都市の水環 および下水 いて学び、	事者にとって 環境について概 関値の処理シス 急速ろ過シス の処理について	て非常に重要な代 既説し、水質に限 ペテムについて学 ペテム、膜ろ過等	£務の一つである 関する専門知識を をぶ。具体的には 等の水処理技術は	る。本講義では と習得し、上水 は水質基準の意 こついて理解を	コに供給すること に、水資源の利用と は道の基礎システム 議とその変遷につ に深める。また高度 はついて学習する	
	実践力	土木実験	的として、 は、コンク ラスの載荷	材料実験、構 リートを構成 実験による応	構造実験、土質写 対する主要材料の ご力や変位の測録	長験、水工実験の基本的特性についます。	り4つの実験を ついて、構造実 生質を表す諸定	え力を養うことを目 行う。材料実験で いいでは、はりやト 数の決定法、流れ と解を深める。	
		環境防災実験	を目的とし 的な実験を 解、対策の めの実験)	て、土木構造 行う。実施す ための実験な 、構造実験	5物の建設や各種 ↑る実験は、土質 など)、水工実駅 (構造物の振動局	重災害に伴って生 質実験(地盤沈 食(洪水や波の野 な答に関する実際	生じる現象を理 下や斜面崩壊な 見象と被災メカ 倹)、材料実験	実践力を養うこと 解するための基礎 こどのメカニズム理 ロニズムの理解のた さ (コンクリートの から構成される。	

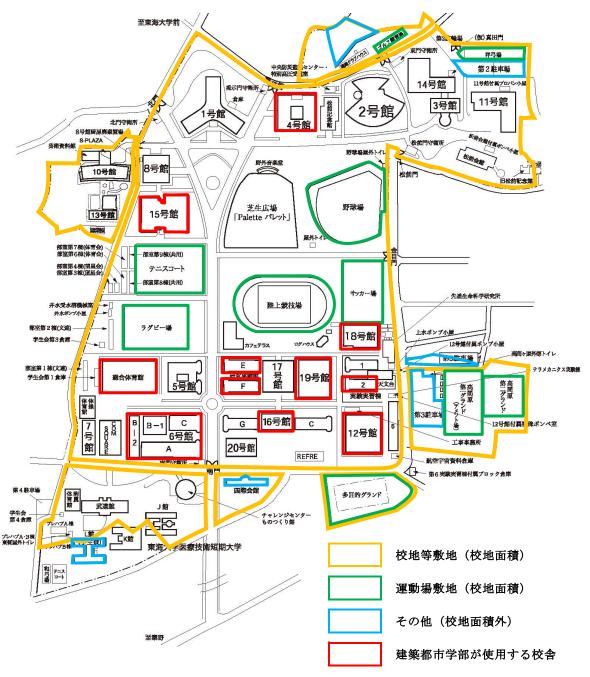
		—————————————————————————————————————	業	——————— 科 E		<u>の</u>	概	要	1紙 日本	
(建築都	『市学部	土木工学科)	-1-		-		1.20	~		
科目 区分	学科目	授業科目の名称			講義等	の内容				備考
IV 主専攻科目	実践力	土木設計製図	わりを持つこと 考え方や手法に ていくこと。一般 れるため、後、 を学習した後、	計画、設計、施になるが、「土になるが、「土になるが、「土っいての知識をでした利用したコンクリー」の影部コンクカリートのの標準的な数に、	木設計製図」 "実践"を通 ある。土木構 または鋼で造 ト構造物およ	は、そこで じて実際に 造物は長期 られている び鋼構造物	要求される権使うことがで間の供用に耐の供用に耐いますの設計の手続います。	構造物の設計類できる能力に変けえることを は、まず製図の	製図の 変換し 要求さ の基礎	
		まちづくり演習	様々な声がまされり、 地域なが解するという。 理解したのが解したのが解した。 はないが解する。 はないが解する。 はないがないない。 はないないないない。 はないないないない。 はないないないない。 はないないないない。 はないないないない。 はないないないない。 はないないないない。 はないないないないない。 はないないないないない。 はないないないないないないないないない。 はないないないないないないない。 はないないないないないないないないない。 はないないないないないないないないないないないないない。 はないないないないないないないないないないないないないないない。 はないないないないないないないないないないないないないないないないないないない	れまで学んなで等し、からないで知いて知いは境発を検すの無いので、ないので、ないので、ないので、ないで、ないで、ないで、ないで、ないで、ないで、ないで、ないで、ないで、ない	と現実を結び 、、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 り い な 、 と 、 も い い な い 、 、 は い ら い る に り る と め ら れ と め ら れ と め ら る に め ら る と め ら る ら る ら る ら る ら ら ら ら り る ら ら ら ら ら ら	付けて自ら の防ででは、 特定のないでの を でいるでいるでいる。 でいるでいるでいる。 でいる。 でいるでいる。 でいるでいる。 でいるでは、 でいるでいる。 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでします。 でいるでは、 でいるでいるでは、 でいるでいるでは、 でいるでと でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 とっと。 でいるでは、 とっと。 でいるでは、 とっと。 でいるでは、 とっと。 とっと。 とっと。 とっと。 とっと。 とっと。 とっと。 とっと	考え、行動し 対象ない。 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	していくことでいくことでいくことでいる。 「基盤とはないです。」 「エリンとでする。 「エリンとでする。」 「サインに関いる。」 「世上と、多りでは、多りでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	をこ現想で重分目 ま状の学す野的 をも習るに	
			に、土木の専門 遂行するための に必要な幅広い 理学、土の力学	は、土木工学を 知識を十分に活 実践力を養い、 知識として、測 等の専門基礎科 ための復習と実	用して計画の 公務員試験合 量学、材料力 目の基礎的事	立案、設計 格に導くこ 学およびコ 項や理論を	、施工および とを目的にし ンクリートコ	バ維持管理の シている。その エ学、構造力学	業務を のため 学、水	オムニバス方式
		公務員受験対策専門演習	(35 藤原 覚 「土質力学」 (33 寺田 一 「水理学」の (31 三神 厚 「構造力学」 (27 笠井 哲	孝/3回) 分野について、 太/3回) の分野について 美/3回) 分野について、 /3回) の分野について、 の分野について、	、基礎的な部 基礎的な部分 、基礎的な部	分から現代の分から現代の	の技術までを 技術までを ま の技術までを	<ul><li>教授する。</li><li>対授する。</li><li>・教授する。</li></ul>	受す	
		建設CAD	務所には、コン せることを可じる。本科目を描いる。 でいるソフトは でいるソフト教室	ュータを利用し ピュータを利用し され、使いこさ 、学生がComput るように指導す Auto CADであり にて、前半は基 なスキルを身に	した設計シス すことにより er-Aided-Des る。一般的に 、本科目では 本的な作図技	テムが必ず 様々なアイ ignを実践 用いられて Auto CADを 術を習得し	あり、技術者 デアを具現し かな道具とし いるCADソフ 用いて授業者 、後半は現場	がはこれを使い とすることが て用い、基礎 トの中で最も と進める。授	ハこな できな き ・ 普及 し 業はコ	
		土木技術者のための基礎英語	が増えている。 考え、環境の変 とする。最近の 門英語の特徴や 加え、文化や環 語の用法を利用 く人を意識した	、海外で土木事 本科目は、たの記 ・本内は、点の関す ・大大技理解する関連に基づら ・大大技理解する ・大大大学 ・大大学 ・大大学 ・大大学 ・大大学 ・大大学 ・大大学 ・大	機会に備え、国をに備え、国をにできるとのでいるととの性が、土までは、土までは、大きないでは、大きないでは、カーション・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	土木技術英 際講 大ななす が 表 なる る が 、 み く に だ だ で だ が 、 が 、 が 、 が 、 が く り く に く た く に く た く に く た く で く で く で く で く で く で く で く で く で	語の基礎に対性を身に付ける とを通じて、の最新の動作 また、土木打はなく、情報	ロえ、様々なけれていくことでは、 せれに関連するでは 技術英語に特な 最収集につない	文化や をするとなる なない で が で が で が で が で が で が に が に が に が に が	
	ゼミナール	土木工学ゼミナール	ついて理解を深 とを目標とする に、都市と防災 ミナール形式に いて資料収集、	ミナール」は、 め、土木技術者 。 土木工学に関 、都市と環境に より担当教員の 課題の究明、解 り組み、課題祭	に対して求め する基礎知識 関連する幅広 提示するテー 決策等につい	られる基本 及び一般的 い専門分野 マあるいは て土木工学	的な知識と素な専門知識を の中から1分 学生諸君の間 だけに捉われ	養の向上を          一通り修得          野を選び、少         引心あるテー       いず幅広い分野	図るこ した後 ・人数ゼ マに対 野を対	
		卒業研究 1	マを自主的に見 決方法を自分自 は、研究の目的 び実験実習内容	」は、現在の土 出し、研究テー 身の力で遂行す や焦点を定める 等をもとに、主 研究を開始する。	マに関連する る能力をを養 作業を中心に 体的に自分の	文献の調査 うことを目 行い、3年	、整理を通し 的とする。 次後期までは	ご問題点の把抗 「卒業研究1」 二学習した講	屋と解   で   義およ	

			 業	———— 科	<b>B</b>	<u></u>	概	要	日本産業規格A4縦型)
(建築者	3市学部	土木工学科)	*	17	н	•	1996	•	
科目区分	学科目	授業科目の名称			言葉	義等の内容			備考
主専攻科目	ゼミナール	卒業研究 2	や実験を行結的 作定し要義ととして を表して を表して を表して	いながらだい 果のさなましい まを達成し、 できため、 満たし ででいる でで、 が にし が に で が に が に が に が に が に が に が に が に が	-タを収集し、そ 最終的に「卒業 連明的な思考法、 この過程でそれら 有意義な成果を え、研究室やフ	のデータを統計 使研究論文を完成 技術的な解析的の理解修得に称 ご上げるよう努力 イールドにおい 社会や大学院に	├的に分析し、 えさせる」こと こなど多岐に取りに 責極的にいく必要 いて様々な人と	って、実際には グラフ標となる。 がラフ標となって、 をもる理をもの知識が むととる。 がむめる。 はなめる、 はない、 はない、 実践力」を を はない、 実践力」を はない、 まない、 まない、 まない、 まない、 まない、 まない。 まない。 まない。 まない。 まない。 また、 まるので、 また、 また、 また、 また、 また、 また、 また、 また、 また、 また	
	建築士受験科目	建築構造製図	の図面は設 に何が描えいて は建学ぶ。 本演者で の描き方、	計者の意志を れているかが 礎で学んだ知 は、鉄筋コン 読み方を体得	他部門に伝える 『正確に読みとれ 『識を用い、「建 ・クリート構造お	う言語に相当する いなければ建築物 築工学」として物 3よび鉄骨構造の 抽組図、構造詳網	伝達手段とな の施工はでき 時に構造図の描 り構造図の作成	図がある。これらるので、その図面ない。この演習でき方、読み方につき方、読み方につを通して、構造とどの意味するとこ	
		建築デザイン入門	ど多岐にわ	たる観点に触 特徴や設計思	ぬることができ	る。本講義では	は具体的な建築	学やまちづくりな 作品を取り上げ、 建築を見る「眼」と	
		建築計画A	題や今後の 世界を紹介する し、フィー	対応等を考究 本のさまざま 、生涯学習・ 。また、講義	することを目的な風土・地形とな風土・地形とコニティが おいないと関連したの調査・分析・	ひとする。 : 集落立地、家族 正設事例等を話題 : 各種建築実例の	くと住居形式の ほに取り挙げな ロフィールドワ	施設等の今日的群 関係、特色ある名がら、要点と実例 一ク課題を出題 の計画・設計上の	
		建築計画B	すること あ、 こ計 る。 講義では 要点 変変 変変 変変 変変 変変 変変 変変 変変 変変 変	目的して、施 設計プロセス 各種演習・フ を紹介する。	設の機能・用途において必要と マイールドワーク 取り挙げる具体 者施設などの優	別に話題性のあたなる建築知識、などを通して、 ながあためになった。	る計画・設計 技能・技術等 各種公共施設 は、博物館・美	のあり方等を考究 実例を紹介しなが について講述す の計画・設計上の 術館・劇場等の芸 行政施設、およひ	
		空間計画	の概要につ 学について	いて学び、空 の基礎的な知	習問計画の基礎、 1識を得るだけて	及びその応用手	≒法について学 建築技術者とし	的な要求条件など 習していく。建築 て活躍するために	
		西洋建築史 1	様々な教訓 物を空間体 本講義は な建築や都	と実験を基礎 験し、その感 、ヨーロッパ 市が、どのよ	をして展開され 動を呼ぶ要因や の古代から中世 うに発達・多様	uた。このため、 P背景を分析する せを中心に、人間	すでに存在し ことが重要で 引社会の活動の €にとってどの	結晶である歴史的 ような意味をもっ	
		日本建築史1	去から問い 択の関係が 造の変化、 本講義で	直し、正しく 最も明確に示 技術の進歩と は、日本の住	把握することに される存在であ も深く関係する 宅と都市の歴史	こある。特に住宅 oり、それを取り o。	により、建築	築の位置付けを過 と平面・意匠の遺 落の構成、社会構 に対する視野を広	
		建築法規	件確保のた 技術の進歩 本講義で 為に関わる 画等に関す	めの最低基準 等の社会情勢 は、将来建築 諸手続き、建	等を定める。19の変化に合わせ に携わる者に不 ないながい。 ないないないないでは、1900では、	950年の制定以際 けて改正され、複 で可欠な基礎とし なな要の備に	を、地震・大火 種かつ難解な で、建築基準 関する規定(単	良好な環境衛生条等の大災害、建築 構成となった。 法における建築行 単体規定)、都市計 に関する理解を深	





## 湘南校舎配置図



	湘南校舎 校地・校舎面積								
	区分	専 用	共 用	共有する他の学 校の専用	計				
校	校舎敷地	377,017.10 m²	0.00 m²	0.00 <b>m</b> ²	377,017.10 m <sup>2</sup>				
地	運動場用地	155,168.27 m <sup>2</sup>	0.00 m²	0.00 m²	155,168.27 <b>m</b> i	内借地5,880.49㎡			
	小計	532,185.37 m <sup>2</sup>	0.00 m²	0.00 m²	532,185.37 m <sup>2</sup>				
等	その他	14,699.03 m <sup>2</sup>	0.00 m²	0.00 <b>m</b> ²	14,699.03 m <sup>2</sup>	内借地5,567.00㎡			
	合計	546,844.40 m <sup>2</sup>	0.00 m²	0.00 m <sup>2</sup>	546,844.40 m <sup>2</sup>	借用期間:6年			
		専 用	共 用	共有する他の学 校の専用	計				
	校舎	249,088.72 m <sup>2</sup> ( 249,088.72 m <sup>2</sup> )	0.00 m <sup>*</sup> (0.00 m <sup>*</sup> )	0.00 m <sup>2</sup> )	249,088.72 m <sup>2</sup> ( 249,088.72 m <sup>2</sup> )				

## 設置の趣旨等を記載した書類 建築都市学部

## 【本文目次】

- 1 設置の趣旨及び必要性…p. 2
- 2 学部・学科等の特色…p.6
- 3 学部・学科等の名称及び学位の名称…p.7
- 4 教育課程の編成の考え方及び特色…p.8
- 5 教育方法,履修指導方法及び卒業要件…p.14
- 6 企業実習(インターンシップを含む)や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の 具体的計画…p. 18
- 7 取得可能な資格…p. 20
- 8 入学者選抜の概要…p. 21
- 9 教員組織の編成の考え方及び特色…p. 23
- 10 施設・設備等の整備計画…p. 26
- 1 1 管理運営…p. 27
- 12 自己点検・評価…p. 28
- 13 情報の公表…p. 29
- 14 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等…p. 32
- 15 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制…p. 33

## 1 設置の趣旨及び必要性

## 1. 東海大学の 2022 年度改組改編

東海大学では、建学80周年にあたる2022年4月に全学的な改組改編を行う。その目的は、来るべき社会の変化に対応し、地球市民として未来を創造していく人材育成を推進すること、そして、建学以来継承してきた文理融合の理念と一貫教育を基軸とした教育・研究活動をより一層進化・推進し、学生が幅広い知識を養い、深い理解力をもって社会に貢献することである。改組改編の概要としては、学部学科の再編により、全国5キャンパス8校舎23学部62学科・専攻体制とする。学部学科の新設状況は次のとおりである。

## ①湘南キャンパス

湘南キャンパスにおいては、理工系から情報系、社会・人文科学、体育スポーツまで、文理融合型総合大学ならではの多様な学部構成を活かし、受験生の多様なニーズに応えられるよう、既設の学科・課程を統合してシナジー効果を引き出すための集約型学科構成を目指し、湘南校舎(神奈川県平塚市)に次の学部学科を新設する。

児童教育学部(児童教育学科)を新設する。

情報理工学部に情報メディア学科を新設する。

建築都市学部(建築学科、土木工学科)を新設する。

工学部に機械システム工学科、医工学科、生物工学科を新設する。

なお、児童教育学部(児童教育学科)の新設は設置認可申請中であり、工学部医工学科の教育研究は、湘南校舎及び伊勢原校舎(神奈川県伊勢原市)で行う。

#### ②東京キャンパス

東京キャンパスにおいては、都心からほど近くに位置する利便性の高い立地を活かし、来るべき国際社会で活躍できる人材を育成するため、高輪校舎(東京都港区)に次の学部学科を新設する。

経営学部(経営学科)を新設する。

国際学部(国際学科)を新設する。

情報通信学部に情報通信学科を新設する。

なお、これらの学部学科の教育研究は、湘南校舎及び高輪校舎で行う。

#### ③静岡キャンパス

静岡キャンパスにおいては、海洋国家日本を支える人材を養成してきた既設の海洋学部の さらなる充実と静岡地域における人材育成に関するニーズに応えるため、静岡校舎(静岡県 静岡市)に次の学部学科を新設する。

海洋学部に海洋理工学科(海洋理工学専攻、航海学専攻)を新設する。

人文学部(人文学科)を新設する。

#### ④九州キャンパス

九州キャンパスにおいては、熊本・阿蘇の地でこれまで育んできた教育資源を継承し、文

理分断からの脱却を目指す教育を推進するとともに、農学部のさらなる充実を図るため、熊本校舎(熊本県熊本市)において、文理融合学部(経営学科、地域社会学科、人間情報工学科)を新設し、臨空校舎(熊本県上益城郡)において、農学部に農学科、動物科学科、食生命科学科を新設する。なお、農学部の教育研究は、熊本校舎及び臨空校舎で行う。

## 2. 建築都市学部設置の社会的背景・必要性、教育研究上の目的・養成する人材

## 1) 建築都市学部の設置

建築・都市は、私たちの生活や社会の根幹を支える社会資本である。近年、建築・都市を 取り巻く状況は、地球環境問題や大災害の多発、拡大成長期に造られた都市基盤の老朽化と その更新、ストック型社会への転換、技術の進展による新たな価値観の創出、急激な社会環 境の変化による地域社会・家族関係・ライフスタイルの変容など、劇的な構造変化と諸問題 をもたらしている。

特に、技術革新や超少子高齢社会の出現は、設計・建設過程における職務環境にも変化を 生じさせており、建築・都市に関わる各分野が担う役割も、多様化・複雑化が進んでいる。 こうした課題に応えるには、最新かつ高度な専門知識と技術力に加え、人間・社会・生活・ 文化・歴史に対する幅広い視野と柔軟な発想力が必要とされる。

具体的に身近な社会をみると、「地域」は地球環境の変化がもたらす想定を超えた災害への対策をはじめ、超少子高齢社会に対応するための地方創生、地域らしさの創出、地域経済の活性化など、未来に向けて抱える課題は多い。その課題に対し、自ら調査・発見し、地域と恊働して解決を図ることができる「柔らかな技術者」の育成は、地域コミュニティの中核的役割を持つ建築都市学部が、取り組むべき使命といえる。

以上の背景と課題の解決に向け、新たに設置される建築都市学部では、従来の「工学」の 枠組みを越え、ソフトとハードの両面から建築・都市の課題に取り組む新しい学生の育成を 目指す。また、地域に根ざした建築・都市のあり方を、既存の建築・土木分野のみならず、 社会学・経済学など文系分野の教員の参画等により多角的に学ぶことで、住環境から都市環 境、地球環境まで及ぶ広い視野と高い技術力を備え、持続可能な社会システムの構築をめざ すグローカルな人材を養成することを目的とする。

#### 2) 建築学科の設置

現代の日本、そして世界が抱える問題や課題を考える時、建築に関する分野は、構造・材料・設備・環境・建築設計に代表されるハード面から、歴史や地域、生活文化を背景にした建築史・建築計画・まちづくり等、ソフト面まで、多岐で広範な分野にまたがっている。そして、これらの分野は、これから生じるであろう大きな変化の波とも密接に関係している。

建築学科においては、技術の進歩、環境の変化、社会の変化を捉える幅広い視野と、建築学の幅の広い専門性を兼ね備えた「柔らかな技術者」の育成を目指している。具体的には「建築計画」、「建築工学」、「地域デザイン」をカリキュラムの柱とし、文系・理系の枠にとらわれず、社会・生活の「変化を捉える力」を備え、新しい視点を持って地域と社会の発展に継続的に寄与できる人材を養成する。

## 【ディプロマ・ポリシー】

建築都市学部建築学科では、以下の能力を備えたと認められる者に学位「学士(工学)」を 授与する。

#### 『知識・理解』

都市・建築空間創出のための「建築計画」、「建築工学」、「地域デザイン」に関する3つの 専門知識。

## 『汎用的技能』

3つの専門力「建築計画」、「建築工学」、「地域デザイン」を基盤として様々な分野との協働により問題解決に向けて実践していくための汎用的技能。

## 『態度・志向性』

文系・理系の枠にとらわれず、「変化を捉える力」を持ち、新しい視点により地域と社会の 発展に継続的に寄与しようとする態度。

## 【具体的な人材像】

- ・高い専門性に加え多分野の知識を広範に併せ持つ建築士・施工管理技術者
- ・専門分野を極めた建築・景観計画コンサルタント、専門工事技術者、地域・都市マネジメントリーダー、建築学術研究者

#### 3) 土木工学科の設置

社会基盤は、安全で安心できる社会、円滑な産業経済活動を支えるために必要不可欠であり、それらを建設し、維持・管理、活用することができる技術力を有することが必要である。さらに、急激な技術の進歩と、これに伴う社会環境の変化、そして地球環境の変化や想定外の災害など、情報化社会においては、従来の分野や区分けを超え、様々な価値や多様性が生まれており、土木分野もこれらに対応し、問題解決に向かうマネジメント力が求められている。

土木工学科においては、従来のライフラインの整備、国土保全、社会基盤の建設から、自然環境の保全、災害の軽減、エネルギーなど、持続可能社会の構築を視野に入れた土木工学の幅広い専門性を有し、社会経済や自然環境の変化に加え、想定外の環境変化にも対応できる柔軟性をもった人材を育成する。具体的には、「都市と防災」、「都市と環境」をカリキュラムの柱とし、身に付けた技術力をもって、地域の発展に還元することができる技術力と実行力を伴った人材を養成する。

## 【ディプロマ・ポリシー】

建築都市学部土木工学科では、以下の能力を備えたと認められる者に学位「学士(工学)」 を授与する。

#### 『知識・理解』

幅広い教養を身に付け、社会や自然における土木技術の役割をしっかりと理解し、土木工 学分野の基礎知識を持つと共に、専門分野の土木技術の知識と技術を持つこと。

#### 『汎用的技能』

土木工学の専門知識と専門的技術を活用し、都市が抱える諸課題に対して土木技術者として挑戦する実践力を持つこと。

#### 『態度・志向性』

土木技術を駆使した安心安全で豊かな国土を創造し、持続可能な都市の実現のあり方を自ら考えるとともに、身に付けた技術力をもって、地域の発展に還元する姿勢を持つこと。

## 【具体的な人材像】

- ・防災のハードとソフトの知識を併せ持つ公務員などの土木技術者
- ・自然環境との調和した技術を有する土木分野のマネジメントリーダー

## 3. 研究対象とする中心的な学問分野

## 1) 建築学科の学問分野

構造・設備・材料などのハード面と生活・社会・歴史・文化などのソフト面、および地域に根ざしたローカルな視点と都市・地球環境レベルのグローバルな視点の両面から思考し、豊かで持続可能な生活及び都市空間、社会システムの実現のために、建築・都市の分野から貢献しうる、指導者的人材を養成するためには、建築・都市の諸課題を読み解く能力の修得が必要である。

具体的には、「建築計画(建築計画・歴史意匠、建築意匠設計)」、「建築工学(建築構造・材料施工、建築環境・設備)」、「地域デザイン(地域・都市マネジメント)」に関する3つの専門力を修得していく。工学系の専門知識・技術に加え、インターンシップ等の「実践スタディ」や卒業研究等の「ゼミナール」により、3つの専門力を基盤として"様々な分野との協働により問題解決に向けて実践していく力"を体得することにより、文系と理系の区別に捉われない幅広い専門性をもった人材を育成するための研究活動と教育活動を行う。

#### 2) 土木工学科の学問分野

社会基盤施設の計画・設計から災害復旧、復興までの社会基盤施設の整備・管理、国土を 守る技術と自然や全ての生き物と優しく、共生する環境の創造と、次世代のための安全で快 適な都市・地域空間づくりの手法について、施設建設に関するハードと計画や政策立案のソ フトの両面の視点で学び、また、日本の各地域で頻発する災害や地球レベルで発生する自然 や都市環境の保全の技術的課題を発見し、そこにある原理を理解して問題の解決に貢献でき る能力を修得する。

具体的には、数学や物理学(力学)、情報の基礎などの「土木の基礎」を構築した後、「都市と防災」、「都市と環境」の各分野の専門能力をバランスよく修得させる。次いで、それら

に関する演習や実験・実習を通じ、理解や知識を確実なものにし、実践力を養っていく。以上で培った知識を「実践力科目群」、「ゼミナール科目群」において集約し、土木工学に関する諸問題に取り組み、地球環境と共生するために必要な"工学的な専門性"と、問題解決のために必要な、"多分野を跨ったコミュニケーション力"と、"多分野を跨ってマネジメントしていく力"を養成するための教育活動と研究活動を行う。

## 2 学部・学科等の特色

## 1. 建築都市学部

建築都市学部は、中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像(平成17年1月)」で提言された大学が担うべき7種の機能のうち、「3幅広い職業人養成」をめざす。具体的には、建築・都市の今日的な課題に取り組むために不可欠な、建築学・土木工学に関する最新かつ高度な専門知識と技術力に加え、人間・社会・生活・文化に対する幅広い視野を備えたグローカルな人材を養成する。

教育システムの特徴として、3点が挙げられる。第一に、専門分野の基礎・基本を重視し、低学年において専門的素養を広く身につけた上で、各自が興味を持った分野を選択して、時代が要請する課題を考えながら深く学習し、高度な専門力を育成する。第二に、実験・演習・インターンシップなど実践的科目を重視して、社会的実践力を経験的に育成する。第三に、総合大学のメリットを活かし、社会学・経済学・歴史学・環境科学など他学部の科目履修を促すことで、幅広い視野と柔軟な発想力を育成する。以上に加え、少人数によるゼミナール科目により、複数の人間が相互に協調しながら問題解決能力を育み、社会の要請に柔軟に対応できる専門技術者を養成することを教育の特徴とする。

#### 2. 建築学科

建築学科では、修得すべき3つの専門力「建築計画」、「建築工学」、「地域デザイン」をカリキュラムの柱(コース)とし、3つの専門力(基礎)を2年次終了までに修得する。3年次以降、個々の学生は自身の基軸を3コースの何れかに定めることとなるが、一級建築士受験資格を満たすために基軸としたコース以外の科目も履修する。これにより、基軸とした1コースの専門力(発展)をより高めつつ、他2つの専門力(発展)も修得できる。工学系の専門知識・技術に加え、インターンシップ等の「実践スタディ」や卒業研究等の「ゼミナール」により、3つの専門力を基盤として"様々な分野との協働により問題解決に向けて実践していく力"を体得し、文系と理系の区別に捉われない幅広い専門性をもった人材を育成するための教育を推進する。

#### 3. 土木工学科

土木工学科では、「都市と防災」、「都市と環境」をカリキュラムの柱とし、まずは、それらの基礎である「土木の基礎」を1年次終了までに概ね修得する。2年次以降、「構造」、「土質」、「水理」の工学的な専門力を高めながら、自然災害に対しての人々の生命を守る防災分野、自然との共生を目指す環境分野を修得する。それらを実践するための実験、実習等の「実践

カ」や卒業研究等の「ゼミナール」により、防災と環境の専門力を基盤として、様々な分野 とのコミュニケーション力、実践力、マネジメント力を体得し、工学分野以外を含めた、幅 広い専門性をもった人材を育成するための教育を推進する。

## 3 学部・学科等の名称及び学位の名称

#### 1. 学部の名称

建築都市学部は、私たちの生活や社会の根幹を支える社会資本である建築と都市について、 多角的に学ぶという設置目的から、「建築都市学部」と命名した。「都市」については、従来 の「工学」の枠組みを越えて人間関係・地域社会などのソフト面からも思考すること、2学 科各々の視点から都市問題を扱うことから、英語名称として土木工学を意味する「Civil Engineering」ではなく「Urban Planning」とした。

## 2. 学科の名称

#### 1) 建築学科

技術の進歩、環境の変化、社会の変化を捉える幅広い視野と、構造・材料・設備・環境・ 建築設計に代表されるハード面から、歴史や地域、生活文化を背景にした建築史・建築計画・ まちづくり等、ソフト面まで、多岐で広範な建築学の専門性を兼ね備えた人材の育成を目指 すため、「建築学科」とした。

#### 2) 土木工学科

従来のライフラインの整備、国土保全、社会基盤施設の建設から、自然環境の保全、災害の軽減、エネルギーなど、持続可能社会の構築を視野に入れた土木工学の幅広い専門性を有し、社会経済や自然環境の変化に加え、想定外の環境変化にも対応できる柔軟性をもった人材の育成を目指すため、「土木工学科」とした。

#### 3. 学位の名称

建築都市学部においては、学位は専門領域を広くカバーできる人材であることをアピールすること、建設業界に受入れやすいこと、国際的な観点からも一般的に受入れられる名称であることが重要である。こうした背景により、建築都市学部を構成する2学科の学位の名称を「工学」としている。

#### 【日本語名称】

学部名称 :建築都市学部

学科名称 : 建築学科

土木工学科

学位名称 : 学士(工学)

#### 【英訳名称】

建築都市学部 : Undergraduate School of Architecture and Urban Planning

建築学科 : Department of Architecture

土木工学科 : Department of Civil Engineering

学士(工学) : Bachelor of Engineering

## 4 教育課程の編成の考え方及び特色

1. 教育課程の編成方針

## 1) 建築学科【カリキュラム・ポリシー】

建築都市学部建築学科が定めるディプロマ・ポリシーに基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施する。

#### 『教育課程・学修成果』

建築学科の教育課程の編成方針は、全ての講義・演習・実習・実験科目において、建築学 科の教育方針にもとづくカリキュラムを構築し、多様な学生の資質に応じた実践力が身に付 くように指導することを基本とする。

1、2年次には、教養科目と共に学科の専門基礎科目として、「建築計画」、「建築工学」、「地域デザイン」の専門力(基礎)を修得するための科目群「建築の基礎」中の科目が開講される。「建築デザイン入門」、「建築の理数学」、「建築デザイン演習1」、「建築法規」、「建築構造力学1A・演習」、「建築環境工学・演習」などの科目が用意されている。

3年次以降には、学科の発展科目として「建築計画」、「建築工学」、「地域デザイン」の専門力(発展)を修得するための科目群「建築計画」、「建築工学」、「地域デザイン」、および3つの専門力を基盤として"様々な分野との協働により問題解決に向けて実践していく力"を体得し、文系と理系の区別に捉われない幅広い専門性を修得するための科目群「実践スタディ」、「ゼミナール」中の科目が開講される。科目群「建築計画」では、建築計画・歴史意匠、建築意匠設計に関する科目が用意されている。科目群「建築工学」では、建築構造・材料施工、建築環境・設備に関する科目が用意されている。科目群「地域デザイン」では、地域・都市マネジメントに関する科目が用意されている。科目群「実践スタディ」、「ゼミナール」では、「建築インターンシップA」、「建築プレゼンテーション英語」、「建築専門演習」、「卒業論文・卒業設計」などの科目が用意されている。

#### 『学修成果の評価方法』

建築学科のディプロマ・ポリシーに示されている『知識・理解』『汎用的技能』『態度・志向性』に関して、修得単位数・GPAによる分析評価等を用いた学生による自己評価により、学修成果の評価を行っている。その集計結果は、FD活動等をとおして教育の質向上のためのPDCAサイクルにつなげている。

## 2) 土木工学科【カリキュラム・ポリシー】

建築都市学部土木工学科が定めるディプロマ・ポリシーに基づき、以下に示す教育課程を 編成し、実施する。

## 『教育課程・学修成果』

土木工学科の教育課程の編成方針は、全ての講義・演習・実習・実験科目において、土木 工学科の教育方針にもとづくカリキュラムを構築し、多様な学生の資質に応じた実践力が身 に付くように指導することを基本とする。

1年次には、教養科目と共に学科の専門基礎科目として、「都市と防災」、「都市と環境」の専門力(基礎)を修得するための科目群「土木の基礎」中の科目が開講される。「土木の数学」、「土木の微積分」、「土木解析学」、「プログラミング基礎」、「土木基礎力学1(演習含む)」などの科目が用意されている。

2年次以降には、学科の発展科目として「都市と防災」、「都市と環境」の専門力(発展)を修得するための科目群「都市と防災」、「都市と環境」および3つの専門力を基盤として"様々な分野との協働により問題解決に向けて実践していく力"を体得し、幅広い専門性を修得するための科目群「実践力」、「ゼミナール」中の科目が開講される。科目群「都市と防災」では、構造力学、土質力学、コンクリート工学に関する科目が用意されている。科目群「都市と環境」では、水理学、測量学、都市・交通計画に関する科目が用意されている。科目群「実践力」、「ゼミナール」では、「環境防災実験」、「土木工学ゼミナール」、「公務員受験対策専門演習」、「卒業研究1・2」などの科目が用意されている。科目群「建築士受験科目」では、「建築計画A」、「建築構造製図」、「建築法規」などの科目が用意されている。

#### 『学修成果の評価方法』

土木工学科のディプロマ・ポリシーに示されている『知識・理解』『汎用的技能』『態度・志向性』に関して、修得単位数・GPAによる分析評価等を用いた学生による自己評価により、学修成果の評価を行っている。その集計結果は、FD活動等をとおして教育の質向上のためのPDCAサイクルにつなげている。

#### 3)「ディプロマ・ポリシー」「カリキュラム・ポリシー」と教育課程の関連

上記1)、2)のカリキュラム・ポリシーは、ディプロマ・ポリシーの達成のため、後述する教育課程に基づき、資料のとおり図式化することができる。【資料1】参照

#### 2. 教育課程の構成

#### 1) 現代文明論・現代教養科目・英語科目(教養科目)

教養科目として、1年次から2年次にかけ、「I現代文明論」、「II現代教養科目」、「II英語科目」の科目区分に必修科目を開講する。これらの科目の学びをとおして、現在の複雑化した社会の課題に対して、幅広い視点から、自らの考えを深め、行動していく姿勢を育てるとともに、後述する主専攻科目と影響しあいながら、ディプロマ・ポリシーの達成に向け、学修を進めていく。

教養科目の学びは以下のとおりである。

#### 「 I 現代文明論 |

幅広い分野の問題点や課題の発見、そして解決への姿勢を育てていくことを目的とした「現代文明論」や「現代教養講義」の履修をとおして、自らの人生の過ごし方や、その姿勢について考える機会を設定している。

## 「Ⅱ現代教養科目」

"基礎教養科目"において、大学教育や学部教育への理解を深める「入門ゼミナールA」、「入門ゼミナールB」を開講し、"発展教養科目"において、国際・地域を基点として社会について学び、そこでの課題の把握とその解決について能動的に考える授業を展開する「シティズンシップ」、「地域・国際理解」、「現代教養講義」を開講する。

また、"健康スポーツ科目"において、生涯にわたり心・体・社会的に健やかに充実した生活を送るための基盤として、「健康・フィットネス理論実習」「生涯スポーツ理論実習」を開講する。

## 「Ⅲ英語科目」

"英語コミュニケーション科目"において、国際的に幅広く社会と関わる素地を身につける ため、「英語リスニング&スピーキング」、「英語リーディング&ライティング」を開講する。

## 2) 主専攻科目(専門科目)

#### ①建築学科

#### 「建築の基礎」科目群

学科の基礎科目群として位置付けられる。これにより、「建築計画」、「建築工学」、「地域 デザイン」の3つの専門力(基礎)を修得する。

「建築計画」および「地域デザイン」分野全般の入門科目として、第1セメスターに「建築デザイン入門」を配当する。さらに、これらの分野を横断する知識の基礎科目として、第1セメスターでの「空間計画」、第2セメスターでの「建築法規」、第3セメスターでの「建築計画A」、「住宅論」を配当する。また、歴史意匠の基礎科目として、第3セメスターに「日本建築史1」、第4セメスターに「西洋建築史1」を配当する。建築意匠設計の基礎科目として、第1セメスターでの「建築デザイン演習1(設計製図基礎)」、第2セメスターでの「建築デザイン演習2(空間基礎造形)」、第3セメスターでの「建築デザイン演習3(住宅建築設計)」とステップアップする。また、第2セメスターに「デジタルデザイン演習」を配当し、CADを用いた実践的な製図技術を修得する。

「建築工学」分野全般の入門科目として、第 1 セメスターに「生産・構法A」を、第 2 セメスターに「生産・構法B」を配当する。さらに、この分野に共通する知識の基礎科目として、第 1 セメスターに、「建築の理数学」を配当する。また、建築構造の基礎科目として、第 2 セメスターでの「建築構造力学 1 A・演習」、第 3 セメスターでの「建築構造力学 1 B・演習」とステップアップする。材料施工の基礎科目として、第 3 セメスターに「生産・構法実験」を配当する。建築環境・設備の基礎科目として、第 2 セメスターに「建築環境工学・演習」、第 3 セメスターに「建築設備」を配当する。

## 「建築計画」科目群

学科の発展科目群の1つとして位置付けられる。建築計画・歴史意匠、建築意匠設計について学修することにより、「建築計画」の専門力(発展)を修得する。

建築計画の発展科目として、第4セメスターに「建築計画B」を配当し、「建築の基礎」科目群の同Aからステップアップする。

歴史意匠の発展科目として、第4セメスターに「日本建築史2」を、第5セメスターに 「西洋建築史2」を配当し、「建築の基礎」科目群の各同1からステップアップする。また、 第6セメスターに「近現代建築史」を配当する。さらに、第5セメスターに「建築文化史」 を配当し、日本・西洋・近現代の建築史を俯瞰する。

建築意匠設計の発展科目として、第4セメスターに「建築デザイン演習4(公共建築設計A)」、第5セメスターに「建築デザイン演習5(公共建築設計B)」、第6セメスターに「建築デザイン演習6(提案型建築設計)」を配当し、「建築の基礎」科目群の同1~3から引き続きステップアップする。

## 「地域デザイン」科目群

学科の発展科目群の1つとして位置付けられる。地域・都市マネジメントについて学修することにより、「地域デザイン」の専門力(発展)を修得する。

個々の建築に向けていた視点をローカル規模に拡大した地域マネジメントの発展科目として、第5セメスターでの「地域まちづくり」、第6セメスターでの「地域デザイン・演習」、第7セメスターでの「地域マネジメント」とステップアップする。

また、「地域まちづくり」を踏まえてさらに視点をグローバル規模に拡大した都市マネジメントの発展科目として、第6セメスターでの「都市計画」、第7セメスターでの「都市デザイン」とステップアップする。

#### 「建築工学」科目群

学科の発展科目群の1つとして位置付けられる。築構造・材料施工、建築環境・設備について学修することにより、「建築工学」の専門力(発展)を修得する。

建築構造全般の発展科目として、第5セメスターに、「建築構造力学2・演習」を配当し、「建築の基礎」科目群の同1A・Bからステップアップする。また、各種構造材料や設計手法を専門的に学ぶ発展科目として、第4セメスターに「建築鉄筋コンクリート構造・演習」、「建築鋼構造・演習」、第5セメスターに「建築耐震工学」、第6セメスターに「建築構造解析・演習」、「建築基礎構造」、「建築構造製図」を配当する。

建築材料の発展科目として、第5セメスターでの「建築材料A」、第6セメスターでの「建築材料B」とステップアップする。また、建築施工の発展科目として、第5セメスターに「建築施工」、「建築測量実習」を配当する。

建築環境の発展科目として、第5セメスターに「建築環境計画・演習」を配当し、「建築の基礎」科目群の「建築環境工学・演習」からステップアップする。また、建築設備の発展科目として、第6セメスターに「建築設備計画」「建築設備設計・演習」を配当し、「建築の基礎」科目群の「建築設備」から引き続きステップアップする。

## 「実践スタディ」科目群

学科の発展科目群の1つとして位置付けられる。「インターンシップ」、「プレゼンテーション英語」等について学修することにより、3つの専門力を基盤として"様々な分野との協働により問題解決に向けて実践していく力"を体得するための一助となる。

実務体験や協働する地域との関わり体験から実践力を身につけることを目的に、「建築の基礎」科目群を修得したうえで、第4セメスターに「建築インターンシップA」を、第5セメスターに「建築インターンシップB」配当し、第5セメスターに「建築プレゼンテーション英語」、「海外建築研修」を配当する。

## 「ゼミナール」科目群

学科の発展科目群の1つとして位置付けられる。「建築専門演習」は卒業研究のプレゼミナールであり、選択科目となる。「卒業研究」は必修科目であり、学生が担当を希望する教員を選定し、各研究室で研究・制作活動を実施する。「卒業論文・卒業設計」は必修科目であり、卒業研究を修得後、卒業研究指導教員のもとで、引き続き研究・制作活動を実施する。他分野・学科の研究室の協働も含めて論文・設計として学修成果を取りまとめ発表する。これにより、3つの専門力を基盤として"様々な分野との協働により問題解決に向けて実践していく力"を体得し、文系と理系の区別に捉われない幅広い専門性を修得する。

## ②土木工学科

#### 「土木の基礎」科目群

学科の基礎科目群として位置づけられる。これにより、「都市と防災」、「都市と環境」の2つの専門力(基礎)を修得する。

第1セメスターでは、「土木数物の基礎」、「土木の数学」、「工科の線形代数」、「基礎情報処理」、「土木基礎力学1(演習含む)」を配当する。

第2セメスターでは、「土木の微積分」、「土木解析学」、「物理学」、「化学基礎」、「プログラミング基礎」、「土木基礎力学2(演習含む)」を配当する。

第3セメスターでは、「基礎統計学」を配当する。

#### 「都市と防災」科目群

学科の発展科目群の1つとして位置づけられる。構造力学、土質力学、コンクリート工学について学修することにより、「都市と防災」の専門力(発展)を修得する。

第1セメスターでは、「防災まちづくり」を配当する。第3セメスターでは、「構造力学 1」、「構造力学演習」、「土質力学1」、「土質力学演習」を配当する。第4セメスターでは、 「地震防災基礎」、「構造力学2」、「土質力学2」、「コンクリート工学1」を配当する。

第5セメスターでは、「都市防災工学」、「橋梁工学」、「コンクリート工学2」、「コンクリート構造」、「メンテナンス工学」、「土木施工」を配当する。第6セメスターでは、「道路工学」、「建設マネジメント」を配当する。

#### 「都市と環境」科目群

学科の発展科目群の1つとして位置づけられる。水理学、測量学、都市・交通計画につ

いて学修することにより、「都市と環境」の専門力(発展)を修得する。第1セメスターでは、「測量学1」を配当する。第2セメスターでは、「測量学2」を配当する。第3メスターでは、「測量実習」「都市デザイン」「水理学1」「水理学演習」を配当する。第4セメスターでは、「都市・地域計画」「計画数理」「水理学2」を配当する。第5セメスターでは、「交通計画」「河海工学」「環境工学」「上下水道工学」を配当する。第6セメスターでは、「地形情報処理学」「公共政策学」を配当する。第7セメスターでは、「地域マネジメント」「まちづくり関連法規」を配当する。

#### 「実践力」科目群

学科の発展科目群の1つとして位置付けられる。実験、製図、公務員対策講座、技術英語等について学修することにより、2つの専門力を基盤として"多分野を跨ったコミュニケーション力"と、"多分野を跨ってマネジメントしていく力"を修得するための一助となる。一部が選択科目となる。

第5セメスターでは、「土木実験」を配当する。第6セメスターでは、「環境防災実験」、「土木設計製図」、「まちづくり演習」、「公務員受験対策専門演習」、「土木技術者のための基礎英語」を配当する。第7セメスターでは、「建設CAD」を配当する。

## 「ゼミナール」科目群

学科の発展科目群の1つとして位置付けられる。「土木工学ゼミナール」は、卒業研究のプレゼミナールであり、選択科目となる。「卒業研究」は必修科目であり、学生が担当を希望する教員を選定し、各研究室で研究活動を実施する。他分野・学科の研究室の協働も含めて論文として学修成果を取りまとめ発表する。これにより、2つの専門力を基盤として土木工学に関する諸問題に取り組み、地球環境と共生するために必要な"工学的な専門性"と、問題解決のために必要な、"多分野を跨ったコミュニケーション力"と、"多分野を跨ってマネジメントしていく力"を修得する。

第6セメスターでは、「土木工学ゼミナール」を配当する。第7セメスターでは、「卒業研究1」を配当する。第8セメスターでは、「卒業研究2」を配当する。

#### 「建築士受験科目」科目群

学科の発展科目群の1つとして位置づけられる。建築製図、建築計画、建築史、建築法規について学修することにより、二級・木造建築士の受験資格に必要な専門力(発展)を修得する。第1セメスターでは、「空間計画」、「建築デザイン入門」を配当する。第3セメスターでは、「日本建築史1」、「建築計画A」を配当する。第4セメスターでは、「西洋建築史1」、「建築計画B」を配当する。第5セメスターでは、「建築法規」を配当する。第6セメスターでは、「建築構造製図」、「建築法規」を配当する。

## 5 教育方法, 履修指導方法及び卒業要件

## 1. 教養科目と主専攻科目(専門科目)の計画的な融合

本学は、教養科目と主専攻科目(専門科目)の融合の実現を目指し、1年次から2年次にかけて、次のとおり教養科目を配置している。

大学教育や学部教育への理解を深め、大学生活を送るうえで必要なアカデミックスキルの基礎的能力・知識を養う「入門ゼミナールA」、「入門ゼミナールB」、生涯にわたり心・体・社会的に健やかに充実した生活を送るための基盤となる"健康スポーツ科目"や国際的に幅広く社会と関わる素地を身につける"英語コミュニケーション科目"により、主専攻科目(専門科目)への円滑な学びへと導いていく。

また、多様な人々が民主政治の担い手である市民として、意見の違いを乗り越え、相互の人権を尊重しあえる社会を形成するにはどうすればよいかを考えることを目標とする「シティズンシップ」、多様な人々の視点に立ち、地域社会・国際社会の様々な課題を発見し、その解決について考える「地域・国際理解」の学びを通じて、学生が社会の構成員であることを自覚し、社会と関わろうとする自発的な意識を高め、公共に資する判断と行動の必要性を認識することにより、自らが社会の持続的な発展に向けて取り組んでいく必要性を認識し、深化させていく。

以上を礎に、2年次に学修する本学の基幹科目である「現代文明論」や「現代教養講義」により、正しい姿勢や倫理観をもって、自ら考え、問題解決を目指して、挑み、仲間と集い、成し遂げていく姿勢を身に付けていく。そして、「主専攻科目(専門科目)」の学びと融合しながら、現代社会に必要とされる専門知識や技術に加え、倫理観をもって、様々な課題に積極的に取り組んでいく姿勢を育成していくカリキュラム体系となっている。

## 2. 教養科目に基づく専門科目の展開

#### 1) 建築学科

建築学科の学修の流れは、教養科目による知識の修得と社会的実践力の向上と連動し、建築計画・地域デザイン分野への入門科目的位置付けである「建築デザイン入門」および建築工学分野への入門科目的位置付けである「生産・構法A」、「生産・構法B」を通じて、幅広い建築分野の理解と建築学科での学びの可能性の理解、将来の進路へのきっかけ作りを行っていく。

あわせて、教養科目で養っていく学問の深み、社会との関わりを理解しながら、専門科目での学修を以下の方針で学修を進めていく。その特徴は以下のとおりである。

- ④第1~3セメスター(一部科目は第4セメスター)では、将来いずれの分野を希望しようとも共通する「建築の基礎」科目群を中心に習得する。
- ○第4・5セメスター時の「実践スタディ」科目群により、専門科目を社会と連動させる。
- ⑩第7・8セメスターでは、「ゼミナール」科目群を履修し、専門分野の学びをより社会と連動させつつ、卒業設計・卒業論文に取り組む。なお、意欲的に学習を進め、第5セメスタ

ーまでに十分な数の専門科目を修得している学生に対しては、第6セメスターからの「ゼミナール」科目群の履修を認める。

## 2) 土木工学科

土木工学科の学修の流れは、教養科目による知識の修得と社会的実践力の向上と連動し、都市と防災分野への入門科目的位置付けである「構造力学」、「土質力学」および都市と環境分野への入門科目的位置付けである「水理学」、「測量学」を通じて、幅広い土木分野の理解と土木工学科での学びの可能性の理解、将来の進路へのきっかけ作りを行っていく。

あわせて、教養科目で養っていく学問の深み、社会との関わりを理解しながら、専門科目での学修を以下の方針で学修を進めていく。その特徴は以下のとおりである。

- ®第1~7セメスターでは、土木の基礎の学びの過程で発見される自身の適正に応じた基軸を「都市と防災」、「都市と環境」のいずれかに定め、対応する科目群を中心に習得してより深い学修を進める。また、二級・木造建築士受験資格を希望する学生は「建築受験科目」を修得する。
- ○第5~7セメスターに、「実践力」科目群により、専門科目をより社会と連動させる。
- ●第7、8セメスターでは、「ゼミナール」科目群を履修し、専門分野の学びをより社会と連動させつつ、卒業研究に取り組む。なお、卒業研究のプレゼミナールである第6セメスターからの「ゼミナール」科目群の履修も推奨する。

#### 3. 履修順序と学修の進め方

本学においては、カリキュラムの体系化を目指し、全科目を3桁の数字でナンバリングしている。1桁目は履修推奨年次、2桁目は科目群やグループ、3桁目は履修時の条件の有無を表している。これらをカリキュラム表に記載して学生に提示し、履修モデルと合わせて学生が学修計画を組み立てる際の一助となるように対応している。

なお、履修者数等の設定については、基礎系の科目の受講状況により、次学期・次年度の 科目群ごとの受講人数を予め想定し、開講クラス数等の増加等によって、科目ごとに適切に 管理を行う。

#### 1) 学修の進め方

## ①建築学科

これまで述べてきた教育課程により、「建築計画」、「建築工学」、「地域デザイン」を柱とし、文系と理系の区別に捉われない幅広い専門性をもった人材を効果的に育成するため、基礎的な学修を進める科目群は低年次に開講する。また、専門的な内容を含んだ科目群は、基礎科目を設定することにより学修を深く進めていく上での順序性を設定(難易度や関連性をわかりやすくするため、同一科目名に1、2 やA、B を付記)し、ゼミナール科目による指導を行うことにより力を養っていく。

教養科目の学びを踏まえ、専門科目における学修の進め方は以下のとおりである。

#### 「建築の基礎」科目群

学科の基礎科目群として位置付け、建築計画、建築工学、地域デザインに関する基礎科目を1、2年次に開講する。

#### 「建築計画」科目群

学科の発展科目群の1つとして位置付け、建築計画・歴史意匠、建築意匠設計に関する 科目を3年次以降に開講する。

## 「地域デザイン」科目群

学科の発展科目群の1つとして位置付け、地域・都市マネジメントに関する科目を3年 次以降に開講する。

## 「建築工学」科目群

学科の発展科目群の1つとして位置付け、築構造・材料施工、建築環境・設備に関する 科目を3年次以降に開講する。

## 「実践スタディ」科目群

学科の発展科目群の1つとして位置付け、インターンシップ、プレゼンテーション英語 等に関する科目を3年次以降に開講する。

## 「ゼミナール」科目群

学科の発展科目群の1つとして位置付け、「建築専門演習」、「卒業研究」、「卒業論文・卒業設計」を3年次以降にゼミナール形式で開講する。

## ②土木工学科

これまで述べてきた教育課程により、「都市と防災」、「都市と環境」を柱とし、文系と理系の区別に捉われない幅広い専門性をもった人材を効果的に育成するため、基礎的な学修を進める科目群は1年次に開講する。また、専門的な内容を含んだ科目群は、基礎科目を設定することにより学修を深く進めていく上での順序性を設定し、ゼミナール科目による指導を行うことにより力を養っていく。

教養科目の学びを踏まえ、専門科目における学修の進め方は以下のとおりである。

#### 「土木の基礎」科目群

学科の基礎科目群として位置付け、「都市と防災」、「都市と環境」に関する基礎科目を1~3年次に開講する。

## 「都市と防災」科目群

学科の発展科目群の1つとして位置付け、構造力学、土質力学、コンクリート工学に関する科目を1年次以降に開講する。

#### 「都市と環境」科目群

学科の発展科目群の1つとして位置付け、水理学、都市・交通計画に関する科目を1年 次以降に開講する。

#### 「実践力」科目群

学科の発展科目群の1つとして位置付け、実験、製図、公務員対策講座、技術英語等に 関する科目を3年次以降に開講する。

#### 「ゼミナール」科目群

学科の発展科目群の1つとして位置付け、「土木工学ゼミナール」、「卒業研究1」、「卒業

研究2」を3年次以降にゼミナール形式で開講する。

「建築士受験科目」科目群

学科の発展科目群の1つとして位置付け、建築製図、建築計画、建築史、建築法規に関する科目を1年次から開講する。

## 2) 卒業要件

①建築学科

以下の合計で124単位以上修得する。

(履修科目の登録の上限:20単位(1学期))

- □科目区分 I 現代文明論<必修科目> 2 単位修得
- □科目区分Ⅱ現代教養科目

基礎教養科目<必修科目> 4 単位修得 発展教養科目<必修科目> 6 単位修得

健康スポーツ科目<必修科目> 2単位修得

- □科目区分Ⅲ英語コミュニケーション科目 <必修科目> 4単位修得
- □科目区分IV主専攻科目 76 単位修得

## <必修科目>

■ゼミナール に設定された必修科目を8単位修得 (計8単位)

#### <選択科目>

- ■建築の基礎 ■建築計画 ■地域デザイン ■建築工学
- ■実践スタディ ■ゼミナール

に設定された選択科目を68単位以上修得

(計 68 単位)

□科目区分IVの余剰、他学部・他学科科目を修得した単位 30 単位修得

合計 124 単位修得

## ②十木工学科

以下の合計で124単位以上修得する。

(履修科目の登録の上限:20単位(1学期))

- □科目区分 I 現代文明論<必修科目> 2 単位修得
- □科目区分Ⅱ現代教養科目

基礎教養科目<必修科目> 4 単位修得

発展教養科目<必修科目> 6 単位修得

健康スポーツ科目<必修科目> 2単位修得

□科目区分Ⅲ英語コミュニケーション科目 〈必修科目〉 4単位修得

□科目区分IV主専攻科目 76 単位修得

## <必修科目>

設定された必修科目より36単位を修得

(計 36 単位)

## <選択科目>

- ■土木の基礎 ■都市と防災 ■都市と環境 ■実践力
- ■ゼミナール ■建築士受験科目

に設定された選択科目より40単位以上を修得

(計 40 単位)

□科目区分IVの余剰、他学部・他学科科目を修得した単位 30 単位修得

合計 124 単位修得

## 3)履修モデル

前掲の【具体的な人材像】に基づき、履修モデルを資料として添付する。【資料2】参照

## 4) 履修科目の登録上限について

確実な学修とその定着を図るため、CAP制を設定する。1学期(1セメスター)における履修登録の上限を20単位と定めることにより、確実な授業外学習(予習・復習)がなされるようにする。資格取得のための卒業単位数に含まれない科目、セメスター期間外の実習等については、「セッション科目」として扱うため上限の単位数にカウントしない。

#### 5) 他大学における授業科目の履修について

他大学における授業科目の履修、単位認定については、大学設置基準に基づき本学が定めるルールに則り活用していく。但し、資格取得等に関わる科目については、その基準を満たしているか等、慎重に審査して行う。

# 6 企業実習(インターンシップを含む)や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画

#### ア 実習先の確保の状況

「建築インターンシップA」、「建築インターンシップB」は、建築学科において、就業体験を通じて大学での講義・演習では得られない専門分野の実践的知識や職業観・社会倫理を身につけることを目的とする。AとBは、内容は変わらず開講学期のみ異なり、研修分野の基礎知識を必要とするため、「建築の基礎」科目群を修得した4セメスター以降の履修を指定している。高学年の選択科目であることから、履修者は1セメスター当たり学年定員240名の1割強(30名程度)と想定している。

実習先は、実務的な教育的効果があると学科で認めた国内外の建築設計事務所・建設会社、

および地域まちづくり等を主導する市民団体・自治体等とする。卒業生が主催・在籍する建築設計事務所、および研究・社会活動を通して教員と連携関係にある市民団体などを実習先として確保している。また自治体については、大学が推進する地域連携事業により提携協定等を結んでいる秦野市・平塚市・伊勢原市等で研修を行う。以上のように、企業・市民団体・自治体など多様な実習先を確保して、インターンシップを実施する体制を整えている。

## 【実習施設一覧】

授業科目	実習施設名	所在地	受入れ可能人数
建築インター	大成建設㈱横浜支	〒231-0033 神奈川県横浜市中区	3名
ンシップA	店	長者町6丁目96番地2	
	戸田建設㈱	〒108-0023 東京都港区芝浦 3-9-1	2名
建築インター		芝浦ルネサイトタワー	
ンシップB	一級建築士事務所	〒259-1131 神奈川県伊勢原市	2名
	モリイズアトリエ	伊勢原 3-12-18	
	㈱梶浦暁建築設計	〒251-0022 神奈川県藤沢市鵠沼	2名
	事務所	橘 1-8-1 ヤマセビル 3F	
	㈱エイバンバ	〒231-0023 神奈川県横浜市中	3名
		区山下町 82 徳永ビル 505	
	(有)香山壽夫建築	〒113-0033 東京都文京区本郷	3名
	研究所	2-12-10 UT 本郷ビル	
	㈱ハチジュウイチ	〒103-0025 東京都中央区日本橋	2名
	エー	茅場町 1-6-3 KT ビル 302	
	㈱計画・環境建築	〒102-0075 東京都千代田区三番	2名
		24-28 千代田ハヤシビル 4 階	
	㈱富永事務所	〒194-0041 東京都町田市玉川学	2名
		園 1-25-27	
	山下貴成建築設計	〒150-0002 東京都渋谷区渋谷	2名
	事務所	3-25-21 第一平野ビル 403	
	㈱アルテス	〒107-0052 東京都港区赤坂 6-5	2名
		-30 KI ビル	
	明野設計室一級級	〒215-0017 神奈川県川崎市麻生	2名
	建築士事務所	区王禅寺西1丁目14-4	
	㈱彦根建築設計事	〒153-0052 東京都目黒区祐天寺	2名
	務所	2-14-5	
	GEN INOUE	〒231-0003 神奈川県横浜市中区	2名
		北仲通 4-45 松島ビル 4 階	
	㈱メグロ建築研究	〒153-0064 東京都目黒区下目黒	2名
	所	5-3-12-3F	
	㈱ミント・建築スタ	〒130-0011 東京都墨田区石原	2名

	ジオ	1-38-7	
	㈱手塚建築建築研	〒158-0082 東京都世田谷区等々	2名
	究所	カ 1-19-9-3F	
建築インター	㈱篠崎弘之建築設	〒151-0053 東京都渋谷区代々木	2名
産業インクー ンシップA	計事務所	5-7-9-301	
	公益社団法人	〒231-0012 神奈川県横浜市中	2名
建築インター	横浜歴史資産調査	区相生町三丁目 60-405	
レシップB	会		
	特定非営利団体ア	〒151-0071 東京都渋谷区本町	2名
	ーバンデザイン研	三丁目 43 番 4 号	
	究体		
	特定非営利団体 小	〒250-0013 神奈川県小田原市	2名
	田原まちづくり応	南町 1-5-73 清閑亭内	
	援団		

# イ 実習先との連携体制

本科目では、①参加希望者への説明会、②実習先の選定及び実習内容の協議、③実習先に関する事前研究という準備段階を踏まえた上で、延べ68時間程度の実習を実施する。②では、インターンシップ担当教員と受入先責任者・指導担当者の間で、授業の趣旨の説明、実習内容や指導方法、日報の書式、成績評価等について確認を行い、受入依頼書・承諾書を取り交わす。また実習中は、担当教員が学生の研修状況を把握すると共に、必要に応じてインターンシップ受入先と連絡を取り、協議・相談・調整等を図る。

# ウ 成績評価体制及び単位認定方法

学生は、実習中「インターンシップ記録(日報)」に実習内容を記録し、実習終了後に「インターンシップ報告書」を作成して、日報とともに担当教員に提出する。さらに、実習内容と成果について、実習報告会でプレゼンテーションを行う。受入先の指導担当者は、研修終了後に指導結果を「評価票」にまとめて、建築学科に提出する。

インターンシップ担当教員は、この「評価票」、「インターンシップ記録」、「インターンシップ報告書」、および実習報告会の内容を総合して、成績の評価を行う。

#### 7 取得可能な資格

建築都市学部建築学科で取得可能な資格は、国家資格である一級建築士、二級建築士、木 造建築士の受験資格であり、資格取得にあたっては、卒業要件単位に含まれる科目から、分 野別に必要単位数の修得が必要である。なお、受験資格取得が卒業の必須条件ではない。

建築都市学部土木工学科で取得可能な資格は、国家資格である二級建築士、木造建築士の 受験資格であり、資格取得にあたっては、卒業要件単位に含まれる科目から、分野別に必要 単位数の修得が必要である。なお、受験資格取得が卒業の必須条件ではない。

# 8 入学者選抜の概要

# 1. アドミッション・ポリシー

# 1) 建築学科【アドミッション・ポリシー】

### 『求める学生像』

建築都市学部建築学科の教育目標を理解し、この目標を達成するために自ら学ぶ意欲をもった人材。

建築都市学部建築学科で定められたディプロマ・ポリシーで、求められている能力を身に つけられると期待できる基礎学力を十分有する人材。

# 『入学者にもとめる知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

### (1) 知識・技能

英語では、高校での英語の科目の履修を通して英語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身につけておくこと。

数学では、高校での数学の科目の履修を通して公式や計算方法を理解した上で、それらを 応用できる能力を身につけておくこと。

理科では、高校での理科(物理、化学、生物)の中から数科目を選択し、個々の項目の内容を理解していること。

国語及び社会は、理系の学問を学ぶ上で必要な文化的な知識を幅広く理解していること。

# (2) 思考力・判断力・表現力

都市・建築空間創出のためには、文理融合の視点が必要である。建築の専門知識のみならず、文系・理系の広範な知識を総合的に思考し判断する力が期待できること。

#### (3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

多様な価値観や立場・役割を理解し、自分と自分以外の人及び社会システムと健全な関係 を築くことができ、都市・建築空間創出の活動に主体的に取り組むことが期待できること。

# 2) 土木工学科【アドミッション・ポリシー】

#### 『求める学生像』

建築都市学部土木工学科の教育目標を理解し、この目標を達成するために自ら学ぶ意欲を もった人材。

建築都市学部土木工学科で定められたディプロマ・ポリシーで、求められている能力を身 につけられると期待できる基礎学力を十分有する人材。

# 『入学者にもとめる知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

#### (1)知識・技能

英語では、高校での英語の科目の履修を通して英語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身につけておくこと。

数学では、高校での数学の科目の履修を通して公式や計算方法を理解した上で、それらを 応用できる能力を身につけておくこと。

理科では、高校での理科(物理、化学、生物)の中から数科目を選択し、個々の項目の内容を理解していること。

国語及び社会は、理系の学問を学ぶ上で必要な文化的な知識を幅広く理解していること。

### (2) 思考力・判断力・表現力

文理融合の観点から、土木技術に関係する理系と文系(経済学、社会学等)それぞれの知識や技能を総合して応用できること、及び、それらを表現できること。

# (3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

社会基盤整備に必要な市民との円滑な合意形成等のためにも多様な価値観を理解し、友好な人間関係を築くコミュニケーションができること、物事に対して挑戦的に取り組むこと、および、失敗や挫折を乗り越えて目標を実現しようとすること。

# 2. 入学者選抜の概要

建築都市学部の入学試験は、次のとおり予定している。

学校推薦による選抜入試としては、付属高等学校長の推薦に基づいて書類審査及び「小論 文」の試験により選抜行う「付属学校推薦型選抜入学試験」、学校長の推薦に基づいて書類審 査及び「小論文」、「面接試験(口述試験含む)」の試験により選抜を行う「公募制学校推薦型 選抜入学試験」を実施する。

学力等による選抜入試としては、文系の3科目または理系の3科目を受験して高得点の2科目の結果で合否判定を行う「文系・理系学部統一選抜入学試験」、3教科の科目を受験して3科目の結果で合否判定を行う「一般選抜入学試験」、書類審査を経て大学入学共通テストの成績により合否判定を行う「大学入学共通テスト利用選抜入学試験」、書類審査及び課題発表、面接試験等により選抜を行う「総合型選抜入学試験」を行う。

なお、入学試験の募集定員全体の割合は、建築都市学部建築学科において、学校推薦による選抜入試33%、学力等による選抜入試67%、建築都市学部土木工学科において、学校推薦による選抜入試24%、学力等による選抜入試76%である。

#### 3. 入学者選抜の体制

入学試験における判定は、学長の責任・指揮のもと、学長を委員長、副学長、学部長、入 学センター所長を副委員長とし、該当する学科の学科長等により構成される学部入試判定委 員会によって実施される。

また、入試問題の作成は、入学試験の運営全体を統括する入試運営本部に設置される出題・採点本部の「入試問題作成部会」において行われる。入試問題作成部会は、「学科試験各科目」、「専門試験科目」、「実技試験科目」、「小論文」ごとに置かれ、その責任者及び委員は、出題・採点本部長から指名を受けた学部長の推薦に基づき、原則として専任講師以上

の教員とし、学長が任命する体制となっている。

# 9 教員組織の編成の考え方及び特色

# 1. 専任教員組織

# 1) 建築学科

建築都市学部建築学科の専任教員組織は、教授 8 名、准教授 5 名、助教 2 名の 15 名で構成されており、完成年度における年齢構成は、 $30\sim39$  歳 1 名、 $40\sim49$  歳 3 名、 $50\sim59$  歳 7 名、 $60\sim64$  歳 4 名となっている。

本学の定年齢は、「学校法人東海大学教職員定年規程」のとおりであり、完成年度までに定年を迎える教員が1名(教授1名)いるが、「学校法人東海大学大学・短大特任教員任用内規」第2条別表の規定に基づき、特任教員として完成年度まで雇用することについて、「東海大学教員人事委員会」で承認されている。【資料3】参照

完成年度後の教員組織の計画については、令和7年度の完成年度以降において、中堅・若手教員の教育・研究能力の育成を踏まえて昇格を目指すとともに、定年を超えている教員については、次のとおり後任の補充計画を策定している。

対象者	採用予定年度	採用条件等
教員A(教授 64 歳)	令和8年度	博士の学位を有する30~50歳代で、建築計画を
主な担当科目:「西洋建		専門分野とし、教授もしくは准教授レベルの教
築史」		育研究業績を有すると認められる者

この計画に基づき、他大学の現職教員等から広く候補者を募り、本学の教員採用基準に照らし合わせた厳格な審査のもと、採用を行い、開設時の教育水準の維持・向上を図る。

# 2) 土木工学科

建築都市学部土木工学科の専任教員組織は、教授 5 名、准教授 3 名、助教 1 名の 9 名で構成されており、完成年度における年齢構成は、 $40\sim49$  歳 3 名、 $50\sim59$  歳 3 名、 $60\sim64$  歳 2 名、 $65\sim69$  歳 1 名となっている。

本学の定年齢は、「学校法人東海大学教職員定年規程」のとおりであり、完成年度までに定年を迎える教員が1名(教授1名)いるが、「学校法人東海大学大学・短大特任教員任用内規」第2条別表の規定に基づき、特任教員として完成年度まで雇用することについて、「東海大学教員人事委員会」で承認されている。前掲【資料3】参照

完成年度後の教員組織の計画については、令和7年度の完成年度以降において、中堅・若手教員の教育・研究能力の育成を踏まえて昇格を目指すとともに、定年を超えている教員については、次のとおり後任の補充計画を策定している。

対象者	採用予定年度	採用条件等
教員A (教授 62 歳)	令和8年度	博士の学位を有する 30~50 歳代で、コンクリー

主な担当科目:「コンク	ト工学を専門分野とし、教授レベルの教育研究
リート工学」	業績を有すると認められる者

この計画に基づき、他大学の現職教員等から広く候補者を募り、本学の教員採用基準に照らし合わせた厳格な審査のもと、採用を行い、開設時の教育水準の維持・向上を図る。

#### 2. 教養科目の教員配置の考え方

本学においては、総合大学の強みを生かした文理融合の教育を進めており、教養科目については、各学部において運営するのではなく、センター等により行い、学部とは別の組織により運営を行っている。教養科目を構成する各科目については、学部の特色等にあわせて授業科目に教員を配置し、学生同士も学部や分野を越えてお互いに交わりながら、全学的に同一の授業形態にて授業を行う方法を実践する。このため、「I現代文明論」、「II現代教養科目」、「II英語科目」については、原則として兼担兼任教員が担当する。なお、「II現代教養科目」の「入門ゼミナール1・2」については、学部学科教育の導入を担う科目であるため、専任教員が担当する。

# 3. 専門科目の教員配置の考え方

#### 1) 建築学科

専門科目についての基本的な考え方は、授業を行うにあたり最も適した研究や教育の実績がある教員が授業を行うことである。

基礎科目や幅広い視点を養うための専門科目は、その分野で豊富な教育経験と研究の実績がある教員を配置する。また、一部の実務内容に関する科目および多くの演習科目、実験・実習科目では、実務経験のある専任教員に加え、実務内容に関連する他学部・他学科教員や、実務経験を有する兼任教員を配置する。実践スタディ科目、ゼミナール科目など、繊細かつ継続的な指導が必要な科目については、専任教員による少人数での開講とする。

# 「建築の基礎」科目群

建築計画・建築工学・地域デザインすべての分野に共通する基礎科目であることから、専 任教員が専門分野に近い科目を分担して配置する。

建築設計科目である「建築デザイン演習1」、「建築デザイン演習2」、「建築デザイン演習3」、「デジタルデザイン演習」は、多くの学生が履修予定であるため、教員を複数名配置する。

# 「建築計画」科目群

建築計画を専門とする教員を中心に、地域デザインを専門とする教員とともに配置する。 建築設計科目である「建築デザイン演習4」、「建築デザイン演習5」等は、多くの学生が 履修予定であるため、教員を複数名配置する。

# 「地域デザイン」科目群

地域デザインを専門とする教員を中心に、建築計画を専門とする教員とともに配置する。

# 「建築工学」科目群

建築工学を専門とする教員を配置する。

実務内容を含む「建築基礎構造」、「建築構造製図」、「建築施工」には、実務内容に関連する他学部・他学科教員や、実務経験を有する兼任教員を配置する。

# 「実践スタディ」科目群

専任教員による少人数での開講とする。

# 「ゼミナール」科目群

すべての専任教員が担当し、学生の適正や希望に対応する専門分野の教員による少人数での開講とする。

# 2) 土木工学科

専門科目についての基本的な考え方は、授業を行うにあたり最も適した研究や教育の実績がある教員が授業を行うことである。

基礎科目や幅広い視点を養うための専門科目は、その分野で豊富な教育経験と研究の実績がある教員を配置する。また、一部の実務内容に関する科目および多くの演習科目、実験・実習科目では、実務経験のある専任教員に加え、実務内容に関連する他学部・他学科教員や、実務経験を有する兼任教員を配置する。実践力科目、ゼミナール科目など、繊細かつ継続的な指導が必要な科目については、専任教員による少人数での開講とする。

#### 「十木の基礎」科目群

都市と防災、都市と環境のすべての分野に共通する基礎科目であることから、専任教員が 専門分野に近い科目を分担して配置する。

理系の基礎科目である「物理学」、「化学基礎」には、その分野で教育経験と研究の実績がある他学部・他学科教員を配置する。

#### 「都市と防災」科目群

構造力学、土質力学、コンクリート工学を専門とする教員を中心に、水工学、計画学を専門とする教員とともに配置する。

#### 「都市と環境」科目群

水工学、計画学を専門とする教員を中心に、構造力学、土質力学、コンクリート工学を専門とする教員とともに配置する。

専門的内容を含む「河海工学」、「上下水道工学」には、兼任教員を配置する。

#### 「実践力」科目群

全ての専任教員による少人数での開講とする。

#### 「ゼミナール」科目群

全ての専任教員が担当し、学生の適正や希望に対応する専門分野の教員による少人数での開講とする。

# 「建築士受験科目」科目群

全ての科目について、専門知識を有する他学科教員による開講とする。

### 10 施設・設備等の整備計画

#### 1. 校地、運動場の整備計画

建築都市学部は、教育研究を湘南校舎(神奈川県平塚市)において行う。

湘南校舎の校地面積は 532, 185. 37 ㎡であり、多目的グラウンドをはじめ複数の運動場が整備されており、芝生広場「Palette パレット」などの学生の休息できる場所やその他の利用のための適当な空地も十分に確保されているため、新たな整備計画はない。

# 2. 校舎等施設の整備計画

校地校舎等の図面のとおり、湘南校舎において、19 号館を中心として、専任教員研究室、 製図室、実習室、コンピュータ室、教室、会議室等を専用・共用として確保しており、教育 研究に支障はないため、新たな整備計画はない。

#### 3. 図書等の資料及び図書館の整備計画

図書等の整備について、建築都市学部の学問領域に関わる図書資料として、図書 105,670 冊を整備しており、教育研究に支障はない。引き続き開講科目及び周辺学問領域に関わる図書資料を幅広く収集して充実させる予定である。

学術雑誌については、プリント版ジャーナルと電子ジャーナルの2形態を整備する。「学術雑誌一覧」のとおり、多数の学術雑誌を整備しており教育研究に支障はない。【資料4】参照また、既にオンライン・文献データベースが整備されており、学内の図書館をはじめ各施設、研究室、一部は学外から"SSL-VPN"を利用した24時間検索を実現している。

図書館の施設整備については、建築都市学部の学生が利用する湘南校舎の図書館の面積は 11,089 ㎡であり、閲覧室や東海大学蔵書検索システム(TIME-OPAC)を利用できる検索パソ コンが既に整備され、教育研究に支障はないため、新たな整備計画はない。

なお、東海大学では、新型コロナウイルスの流行に伴い、遠隔授業が導入されたことを契機として、電子書籍を利用できる環境を整えている。具体的には、学生や教職員がさまざまな専門分野の基本的な内容に関する電子書籍を自由に閲覧できるサービスを目指し、丸善雄松堂株式会社の「Maruzen eBook Library」(https://elib.maruzen.co.jp/)において、各学部の教員が推薦した各分野の基礎的・入門的な図書の中から特に選出した約1550タイトルと、岩波書店発行の「岩波新書」、「岩波現代文庫」シリーズなど500タイトルが利用可能となっている。また、先に述べたオンライン・文献データベースにより、世界各国で刊行されている学術雑誌や国内外で発行されている主要新聞・雑誌類の記事、「世界大百科事典」「日本国

語大辞典」「新英和大辞典」といった辞書類、地図データベースなど数多くのさまざまな情報を大学の付属図書館以外の場所から検索・閲覧できる環境が整えられている。

本学では、社会情勢の変化に対応した教育研究環境を整えるべく、教員や学生が必ずしも大学の付属図書館に来なくても、書籍や情報の検索・閲覧が可能となる「非来館型サービス」を拡充していく。

他大学図書館との連携について、本学は、私立大学図書館協会に加盟し、図書の相互貸借・文献の複写依頼のやり取りを中心に相互利用を積極的に展開している。また、国・公立大学並びに外部機関とも私立大学と変わらない連携・交流関係を確立している。その実績を生かし国立情報学研究所 NACSIS - ILL の ILL 文献複写等料金相殺サービスにも参画し、充実した相互協力を展開している。

神奈川県内では神奈川県図書館協会に加盟し、その下部組織である大学図書館協力委員会に参画し、県内の大学・短期大学図書館と共通閲覧証による館内における閲覧及び文献複写を原則とする相互利用により、活発な協力活動を展開している。今後は、同協会加盟の公共図書館、専門図書館と館種を超えた幅広い相互協力活動の展開への可能性も高まり、活発な協力活動を展開する計画である。

# 11 管理運営

建築都市学部の管理運営は、基本的には建築都市学部教授会によってなされる。教授会は「東海大学学部教授会規程」に従い、通常、月1回開催され、その構成員は教授、准教授、講師及び助教であるが、必要に応じてその他の教職員を加えることができる。教授会は学部長がこれを招集し、その議長となるが、このとき構成員の3分の2以上の出席がなければ成立しない。また、その議決は、出席人員の過半数の賛成を要する。

なお、教授会では次のことを審議することで実際の学部運営を行っている。

- (1)研究及び教育に関する事項
- (2)学生の入学、卒業、学位の授与に関する事項
- (3)学生の学籍異動に関する事項
- (4)教務及び学生生活に関する事項
- (5)その他必要と認められる事項

また、建築都市学部には、教育・研究及び管理運営の質的向上を図るために必要な事項の検討・点検・評価活動に関する「評価委員会」、教務事項に関する「教務委員会」、FD活動の推進に関する「FD委員会」、広報活動の充実に関する「広報委員会」が設置され、これら委員会は、学部長及び教授会との連携と機能分担がなされる。

#### 12 自己点検・評価

東海大学は、学長の諮問機関として東海大学評価委員会が設置され、大学の自己点検・評価を行いながら、その結果に基づいて各種教学改革の提言を行っている。

各学部には、学部評価委員会が設置されており、ここで自己点検・評価を行うことになる。 東海大学で実施している自己点検・評価活動は、機関点検・評価と教員個人の総合的業績評価に大別することができる。

#### 1. 機関点検・評価

機関点検・評価は、学部・研究科等を単位として、各教育機関が、東海大学全体の中期目標・計画に沿って、学部・研究科の中期目標・計画を立て、ミッション・シェアリング・シート(5年計画で学部・研究科の教育研究改革、改善の目標と手段を明記した書類)に記載することから始まる。

このミッション・シェアリング・シート記載項目の達成度や問題点について、各学部・研究科が毎年度末に自己点検・評価を行った後、学部・研究科の相互評価に付され、さらに大学評価委員会によって最終的な評価が行われて学長に報告される。

また別途、大学基準協会が定めた点検・評価項目に従った自己点検評価報告書も作成している。学長は、これに基づいて、翌年の改革改善を指揮する流れが作られている。

# 2. 教員個人の総合的業績評価

本学では、教員個人が、その活動状況について Web を利用して登録するようことが定められており、登録された活動状況について、総合的業績評価システムによって評価を行う。主たる評価項目は、①研究活動、②教育活動、③学内外活動の3項目である。

研究活動については論文・著書の執筆、学会等発表状況を、教育活動については学部における教育活動、学内外活動については各種の学内運営業務の担当状況、学外における学会活動、審議会等学外の委員受託、地域貢献活動などが評価対象となる。これらは、教員の所属学部で毎年総合評価を受ける。

#### 3. 認証評価及び大学全体の自己点検・評価

東海大学は、学部・大学院について、平成29 (2017) 年度に財団法人大学基準協会による 認証評価を受審し、「適合」の判定を得た。次回の認証評価は、令和6 (2024) 年度が予定されている。財団法人大学基準協会の認証評価とともに、東海大学は、大学全体の自己・点検 評価を、前記1及び2などを取り入れながら毎年度実施しており、毎年度「教育研究年報」 を大学のオフィシャルホームページに掲載して公表している。

# 13 情報の公表

本学は、学校教育法第 113 条及び学校教育法施行規則第 172 条の 2 に基づき、以下のとおり、各学部及び大学院各研究科における教育研究活動等の状況について、本学のオフィシャルサイトにより、広く社会に向けて開示している。

#### ア 大学の教育研究上の目的に関すること

本学では、大学院、学部における教育研究上の目的を、それぞれ各学則に定めており、 オフィシャルサイトの<大学の概要>において、「学則」の条文中の別表として公表している。 【オフィシャルサイト】http://www.u-tokai.ac.jp 「教育研究上の目的」:トップ>大学の概要>学則

# イ 教育研究上の基本組織に関すること

本学の教育研究上の基本組織については、オフィシャルサイト<大学の概要>において、「教育・研究組織について」として、各事務部門の組織名称と併せて学部及び研究科の名称を公表している。なお、学部・学科及び研究科・専攻の名称については、オフィシャルサイトの<教育・研究><学部・学科>、<大学院>において公表している。

【オフィシャルサイト】http://www.u-tokai.ac.jp

「教育・研究組織」の名称 トップ>大学の概要>教育・研究組織について 「各学部」の名称 トップ>教育・研究><学部・学科>及び<大学院>

# ウ 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

本学においては、昭和59年度より、年度ごとの教育研究活動の客観的事実を広く社会に報告することを目的に「東海大学教育研究年報」を年1回編集・発行しており、その中で教員組織に関する情報も公表してきている。教育研究年報がオフィシャルサイトトップページの<大学の概要><(大学の取り組み)教育研究年報>において、「教育研究年報」として閲覧できるようになっており、専任教員数及び専任教員の年齢構成については、オフィシャルサイトトップページの<各種情報・お問い合わせ>情報の公表>(教育研究上の情報)>において、公表している。

また、各教員が有する学位及び業績に関する情報については、オフィシャルサイトトップページの<教育・研究><学部・学科>、<大学院>のページにおいて、各学部・学科及び研究科・専攻のトップページの「教員紹介」として公表している。なお、各教員の研究活動情報については、オフィシャルサイトトップページの<教育・研究><研究支援・体制>において、「研究活動・ライセンス検索」から検索ができるようになっている。

【オフィシャルサイト】http://www.u-tokai.ac.jp

「教員組織等」

トップ>各種情報・お問い合わせ>情報の公表>年齢別教員数「教員が有する学位及び業績」

トップ>各種情報・お問い合わせ>情報の公表>学部・学科>各 学部・学科(各研究科・専攻)トップ>教員紹介「ResearchMap」トップ>教育・研究>研究支援・体制>研究活動・ライセンス検索>教員研究活動情報の検索

エ 入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修 了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

入学者に関する受入方針については、オフィシャルサイトトップページの<大学の概要 >理念・歴史>教育研究上の目的及び養成する人材像、3つのポリシー>に「アドミッシ ョン・ポリシー」として掲載している。入学者の数、収容定員及び在学する学生の数については、オフィシャルサイトトップページの<各種情報・お問い合わせ>情報の公表><収容定員>において、「学生数」として公表している。また、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況については、オフィシャルサイトトップページの<各種情報・お問い合わせ>情報の公表>就職者数において公表している。また、本学では、「就職指導も教育の一環」という理念に基づいて、全学的な就職支援体制を構築している。

【オフィシャルサイト】http://www.u-tokai.ac.jp

「入学者に関する受入方針」

トップ>大学の概要> (理念・歴史) 教育研究上の目的及び養成する人材像、3つのポリシー

「入学者の数、収容定員及び在学する学生の数」

トップ>各種情報・お問い合わせ>情報の公表>収容定員

「卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学 及び就職等の状況」

トップ>各種情報・お問い合わせ>情報の公表>就職者数

# オ 授業科目,授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

本学では、授業の概要情報と、授業の基本・詳細情報を合わせてシラバスと称し、シラバスデータベースシステムは、授業内容や授業計画を網羅したシステムとなっている。学生の授業選択を強力にサポートする豊富な検索機能と、学習を進める上で有効となる最新の情報を提供しており、オフィシャルサイトトップページの<各種情報・お問い合わせ><情報の公表>(授業について)シラバス又は年間授業計画の概要>においてシラバス」を公表している。

【オフィシャルサイト】http://www.u-tokai.ac.jp

「学部・学科」、「研究科専攻」のシラバス

トップ>各種情報・お問い合わせ>情報の公表>(授業について)シラバス又は年間授業計画の概要>授業内容・計画(シラバス)

### カ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

学修の成果に係る評価等、大学設置基準等において、学生に明示することとされている 事項については、オフィシャルサイトトップページの<教育・研究><学部・学科>、< 大学院>のページにおいて、各学部・学科及び研究科・専攻のトップページの「カリキュ ラム」として公表している。

【オフィシャルサイト】http://www.u-tokai.ac.jp

「学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準(学部・学科)」 トップ>教育・研究>[学部・学科]、[大学院]>各学部・学科・専攻・課程・ 研究科トップ>カリキュラム

#### キ 校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

校地・校舎等の施設等については、オフィシャルサイトトップページにおいて、「各種情報お問い合わせ>情報の公表> (学校法人東海大学 情報公開) 校地・校舎面積・耐震化率として公表している。

【オフィシャルサイト】http://www.u-tokai.ac.jp

「学生の教育研究環境等」:トップ>各種情報・お問い合わせ>情報の公表>(学校法人東海大学 情報公開)校地・校舎面積・耐震化率

# ク 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること

授業料等については、オフィシャルサイトトップページの<受験・入学案内>において、「学部・学科学費」及び「大学院学費」として公表している。

【オフィシャルサイト】http://www.u-tokai.ac.jp

「授業料、入学料その他の大学が徴収する費用」 トップ>受験・入学案内>学部・学科学費、大学院学費

# ケ 大学が行う学生の修学, 進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

大学が行う学生の各種支援に関することについては、オフィシャルサイトトップページの<学生生活>及び<キャリア・就職>において、それぞれ公表している。また、教育支援センターでは、東海大学が進めている教育改革を推進するために、すべての学生の目線に立ち、全学の組織的な教育改善計画(Faculty Development)を開発し、教育の質と教育力の向上を支援しており、大学のオフィシャルサイトとは別に教育支援センターサイトを開設し、その取り組みを公表している。

さらに、健康推進センターでは、病気の早期発見や健康の保持増進に努め、学生及び教職員が心身ともに健康で快適なキャンパスライフを送れるようサポートし、オフィシャルサイトでその取り組みを公表している。

【オフィシャルサイト】http://www.u-tokai.ac.jp

「修学支援」:トップ>学生生活>学生生活サポート

「進路選択支援」: トップ>学生生活>キャリア就職

「心身の健康等に係る支援」:トップ>学生生活>教育支援組織>健 康推進センター

【教育支援センターサイト】http://jpn.esc.u-tokai.ac.jp

【健康推進センターサイト】http://www.tsc.u-tokai.ac.jp/pubhome/hokenc

コ その他(教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報,学則等各種 規程,設置認可申請書,設置届出書,設置計画履行状況等報告書,自己点検・評価報告 書,認定評価の結果 等)

本学における「アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)」、「カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)」、「ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)」については、オフィシャルサイトトップページの<大学の概要>において、「教育研究上の目的及び養成する人材像、3つのポリシー」として掲載している。

学則については、オフィシャルサイトトップページの<大学の概要>において、「学則」 として、東海大学大学院学則、東海大学学則を、それぞれ掲載している。

設置認可申請書・設置届出書及び設置計画履行状況報告書については、オフィシャルサイトトップページの<大学の概要>において掲載している。

本学における自己点検評価活動、及び平成29年度に受審した第三者評価の結果については、オフィシャルサイトトップページの<大学の概要><学則・コンプライアンス><において、「自己点検評価活動」として掲載している。

【オフィシャルサイト】http://www.u-tokai.ac.jp

「アドミッション・カリキュラム・アカデミックポリシー」 トップ>大学の概要>教育研究上の目的及び養成する人材像、3 つのポリシー

「学則」

トップ>大学の概要>学則

「設置認可申請書・設置届出書及び設置計画履行状況報告書」トップ>各種情報・お問い合わせ>情報の公表>学部、研究科等に係る「設置申請・届出書」及び「設置計画履行状況報告書」「自己点検評価活動、第三者評価の結果」トップ>大学の概要>自己点検評価活動

#### 14 教育内容等の改善のための組織的な研修等

#### 1. 教育支援センターによる全学実施体制

東海大学は、組織的・継続的なFD活動を推進する部署として、東海大学教育支援センターを設置している。教育支援センターでは、各年度に複数回、教育活動の活性化を図ることを目的に、学外から講師を招き、全学共通の内容を盛り込んだ「FD・SD研修会」を開催している。例年、年度において3回開催しており、この研修会において、教員だけでなく、事務職員や技術職員などの大学職員を対象とした、管理運営や教育・研究支援までを含めた資質向上のための組織的な研修を実施している。

### 2. 各学部の取り組み

建築都市学部では、主専攻科目において授業アンケートを実施し、学生の理解度、講義形態に対する意見、学生・教員間のコミュニケーションの評価、などの意見を学期毎に集め、 次の講義にどのように改良していくのかについて、シラバスにおいても記載し、授業内容及び方法の改善についてPDCAのサイクルを実施する。

建築都市学部にFD委員会を組織し、学士課程教育内容の改善を目標とした活動を実施する。活動内容は、多様な学修歴をもつ新入生に対応するため初年次開講の専門基礎科目について、学生の履修履歴や学力実態に即した授業内容の組織的改善を行なうとともに、大学生活全般への導入、学部・学科に関する理解を深め専門分野への勉学の意欲を高めるための初

年次をターゲットとしたFD研究会を実施する。さらにFD委員会では、授業公開を促進させ、授業の内容について、幅広く他の教員からの意見を聞き、以降の講義へ反映させる試みを継続的に行う。また、FDの講演会を定期的に開催し、多様な学生の気質の理解や、個々の教科における学生理解度の評価手法などについて理解を深める。活動としては、年度間において複数回のFD研究会を実施し、建築都市学部所属教員による担当授業の改善報告やFDの講演会を開催し、講師として、優れた授業を行う教員を大学として表彰する「東海大学Teaching Award」の受賞教員や授業改善に知見のある学外教員等を迎える計画である。なお、学部においてMSS(Mission Sharing Sheet)を定義し、その中に授業内容・方法の改善に向けた個々の試みを登録し、学期毎にチェックすることにより、PDCAサイクルを実現する。

# 15 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

# 1. 教育課程内の取組について

本学においては、現代市民として身につけるべき教養を修得するための方策として「パブリック・アチーブメント型教育」の導入を掲げている。「パブリック・アチーブメント」とは、米国では、立場や状況の異なる市民が社会で共存するためのルールを作り、環境整備を行う中で、若者が社会活動をとおして民主社会における市民性を獲得していくための実践及びそのための組織と学習プログラムを意味している。

日本という成熟した社会における若者の自己中心主義・政治的無関心・無気力感を克服し、「地域」の課題への取り組みをテーマとする科目を教養科目に開設し、ここで育てた問題意識や目的意識のもと専門教育へと展開し、教養教育と専門教育の融合・発展と、その相乗効果による教育効果の向上を行うことにより、社会的・職業的自立を目指している。そのことを踏まえ、建築都市学部建築学科では、「ゼミナール科目群」において、実践的な研究・制作活動を通じ、リテラシー(問題解決力)とコンピテンシー(社会人基礎力)を養い、自身の適性を見極め就職・進学に関して真剣に向き合う契機とする。また、「建築インターンシップA・B」により、就業体験を通じて大学での講義・演習では得られない専門分野の実践的知識や職業観・社会倫理を身につける。建築都市学部土木工学科においても、「ゼミナール科目群」において、課題の究明、解決策等について土木工学だけに捉われず幅広い分野を対象に主体的に取り組み、課題発表や討論を通じ問題解明の認識を深めて実践力を養い、自ら考え、研究室やフィールドにおいて様々な人と集い、目標に挑み、そして成し遂げていくことにより、社会や大学院においてより高度な「実践力」を発揮することを目指す。

#### 2. 教育課程外の取組について

本学に在籍している学生全てに門戸が開かれているチャレンジセンターの「チャレンジプロジェクト」により、本学が実践している4つの力「自ら考える力・集い力・挑み力・成し遂げ力」を身につける活動を行っている。これは、学生が活動を企画・運営し、目標の達成を目指す課外活動であり、地域活性化、ボランティア等多様な活動を学生自身の手で展開している。

# 3. 適切な体制の整備について

教育課程については、東海大学教育審議会を柱として、パブリック・アチーブメント型教育の方向性を定め、現代教養センター・地域連携を担うTo-Collaboを軸に運営を行っている。さらに、各学部・学科においては、専門科目へパブリック・アチーブメント型教育を展開している。また、教育課程外の活動についてはチャレンジセンターを中心に行っており、この双方の広がりから、地域連携を担うTo-Collaboにより、実際に地域との連携する教育研究活動という形で、実践的な教育活動と学生の活動の場を維持している。

以 上

# 設置の趣旨等を記載した書類 建築都市学部

# 【資料目次】

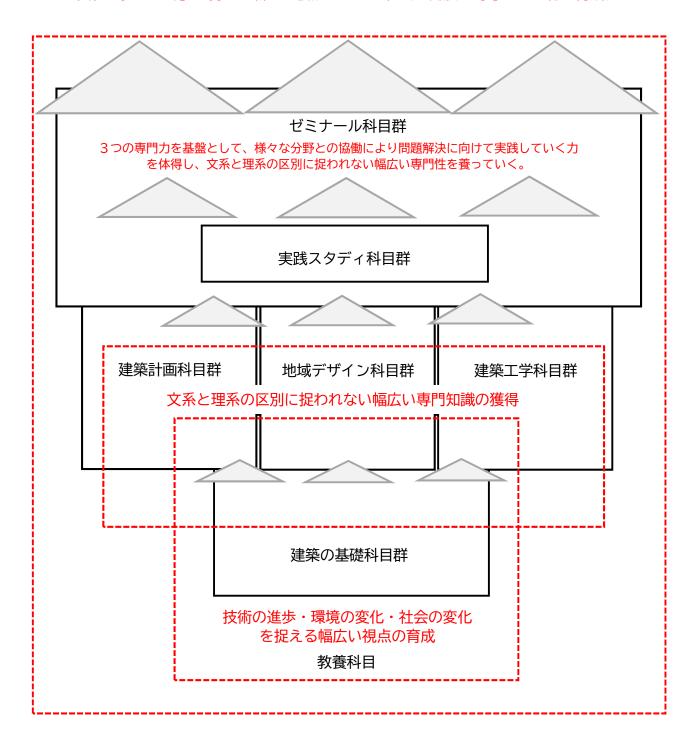
- 資料1 「ディプロマ・ポリシー」「カリキュラム・ポリシー」と教育課程との関連図 ...p. 2
- 資料2 履修モデル…p.4
- 資料3 学校法人東海大学教職員定年規程 学校法人東海大学大学・短大特任教員任用内規…p.8
- 資料4 学術雑誌一覧…p. 13

# 建築都市学部建築学科

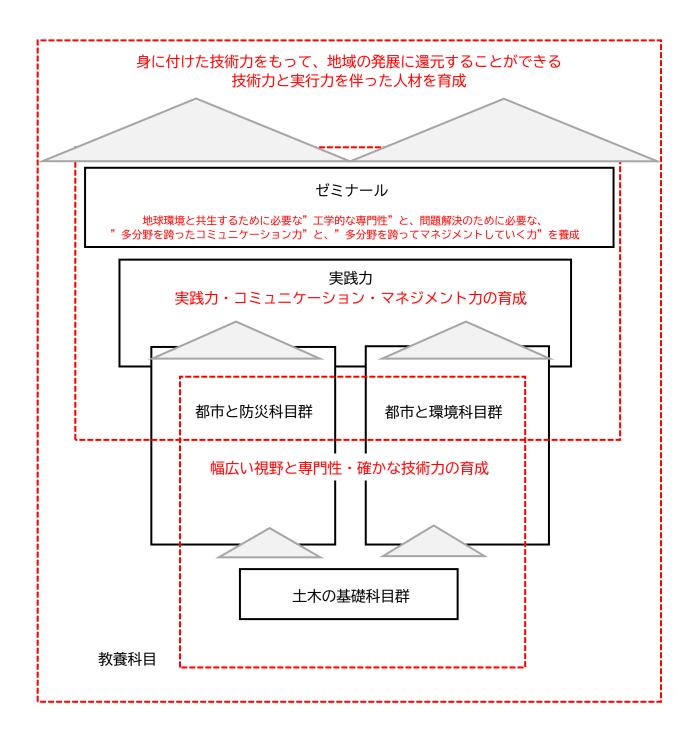
# 「ディプロマ・ポリシー」「カリキュラム・ポリシー」と教育課程との関連図

幅広い視野と専門性をもつ「柔らかな技術者」を育成。

「変化を捉える力」を持ち、新しい視点をもって社会の発展に寄与する人材を育成。



# 建築都市学部土木工学科 「ディプロマ・ポリシー」「カリキュラム・ポリシー」と教育課程との関連図



履修モデル:建築都市学部建築学科 【具体的な人材像】高い専門性に加え多分野の知識を広範に併せ持つ建築士・施工管理技術者

		14	年次			2 4	年次			3	年次			4	- 年次	
科目区分	春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期	
	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位	数 授業科目	単位数
I 現代文明論					現代文明論	2										
	入門ゼミナールA	2	入門ゼミナールB	2			現代教養講義	2								
	シティズンシップ	2	地域・国際理解	2												
Ⅱ 現代教養科 目	健康・フィットネス理 論実習	1	生涯スポーツ理論実習	1												
Ⅲ英語科目	英語リスニング&ス	2	英語リーディング&ラ	2												
	ピーキング 建築デザイン演習 1 (設計製図基礎)		オティング 建築デザイン演習 2 (空間基礎造形)	4	建築デザイン演習3	4	西洋建築史 1	2	建築設備	2	建築専門演習	2	. 卒業研究		4 卒業論文・卒業設計	4
	建築デザイン入門	2	生産・構法B	2	建築計画 A	2	建築インターンシップ A	2	建築インターンシップ B	2	建築デザイン演習 6 (提案型建築設計)	4	西洋建築史 2		2 地域まちづくり	2
	空間計画	2	建築環境工学・演習	4	. 日本建築史 1	2	海外建築研修	2	建築プレゼンテーショ ン英語	2	都市計画	2	建築文化史		2	
	生産・構法A	2	デジタルデザイン演習	2	住宅論	2	建築デザイン演習 4 (公共建築設計 A)	4	建築デザイン演習 5 (公共建築設計B)	4	建築施工	2				
Ⅳ主専攻科目	建築の理数学	2			建築法規	2	建築計画B	2	建築構造力学 1 B・演習	4	建築材料B	2				
					生産・構法実験	2	日本建築史 2	2	建築耐震工学	2	建築設備計画	2	).			
					建築構造力学 1 A・演習	4	建築鉄筋コンクリート 構造・演習	4	建築材料A	2						
									建築測量実習	2						
		4.5		4.5		0.5		0.0		0.0						
単位数合計		19		19	1	20		20		20		14			8	6

履修モデル:建築都市学部建築学科 【具体的な人材像】専門分野を極めた建築・景観計画コンサルタント、専門工事技術者、地域・都市マネジメントリーダー、建築学術研究者

	1年次 2年次 3年次		年次			4 年次										
科目区分	春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期				秋学期	
	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数
I 現代文明論					現代文明論	2										
	入門ゼミナールA	2	入門ゼミナールB	2			現代教養講義	2								
	シティズンシップ	2	地域・国際理解	2												
Ⅰ現代教養科 目	健康・フィットネス理 論実習	1	生涯スポーツ理論実習	1												
Ⅲ英語科目	英語リスニング&ス ピーキング	2	英語リーディング&ラ イティング	2												
	建築デザイン演習 1 (設計製図基礎)	4	建築デザイン演習 2 (空間基礎造形)	4	建築デザイン演習3 (住宅建築設計)	4	· 西洋建築史 1	2	建築設備	2	建築専門演習	2	卒業研究	4	1 卒業論文・卒業設計	4
	建築デザイン入門	2	建築構造力学 1 A ・演習	4	建築計画A	2	建築インターンシップ A	2	建築インターンシップ B	2						
	空間計画	2	生産・構法B	2	日本建築史 1	2	海外建築研修	2	建築プレゼンテーショ ン英語	2						
	生産・構法A	2			住宅論	2	建築環境工学・演習	4	建築環境計画・演習	4						
V主専攻科目	建築の理数学	2	デジタルデザイン演習	2	建築法規	2										
. 1 () X () 1					建築構造力学 1 B・演習	4	建築デザイン演習 4 (公共建築設計 A)	4	建築デザイン演習 5 (公共建築設計B)	4	建築デザイン演習 6 (提案型建築設計)	4	都市デザイン	2	2	
					生産・構法実験	2	建築計画B	2	西洋建築史 2	2	近現代建築史	2	地域マネジメント	2	2	
							日本建築史2	2	建築文化史	2	都市計画	2				
									地域まちづくり	2	地域デザイン・演習	4				
											公共政策学	2				
単位数合計		19		19		20		20		20		16		8	3	4

履修モデル:建築都市学部土木工学科 【具体的な人材像】防災のハードとソフトの知識を併せ持つ公務員などの土木技術者

	1 年次					2年次				3 :	年次		4 年次				
科目区分	春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		
	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	
I 現代文明論					現代文明論	2											
	入門ゼミナールA	2	入門ゼミナールB	2			現代教養講義	2									
Ⅱ 現代教養科 目	シティズンシップ	2	地域・国際理解	2													
	健康・フィットネス理 論実習	1	生涯スポーツ理論実習	1													
Ⅲ英語科目	英語リスニング&ス ピーキング	2	英語リーディング&ラ イティング	2													
	土木数物の基礎	1	土木の微積分	2	基礎統計学	2	都市・地域計画	2	土木実験	2	土木工学ゼミナール	2	卒業研究 1	2	2 卒業研究 2	2	
	土木の数学	2	土木解析学	2	建築法規	2	計画数理	2	河海工学	2	土木設計製図	2	建設CAD	2	2		
	基礎情報処理	2	プログラミング基礎	2	構造力学 1	2	地震防災基礎	2	交通計画	2	公務員受験対策専門演 習	2	まちづくり関連法規	2	2		
	土木基礎力学 1 (演習 含む)	2	土木基礎力学2 (演習 含む)	2	構造力学演習	2	構造力学 2	2	上下水道工学	2	土木技術者のための基 礎英語	2	地域マネジメント	2	2		
	測量学 1	2	物理学	2	土質力学 1	2	土質力学 2	2	都市防災工学	2	環境防災実験	2					
Ⅳ主専攻科目	工科の線形代数	2	測量学2	2	土質力学演習	2	コンクリート工学 1	2	橋梁工学(セッション 科目)	2	地形情報処理学	2					
	防災まちづくり	2			測量実習	2	水理学 2	2	メンテナンス工学 (セッション科目)	2	建築構造製図	2					
					水理学 1	2			コンクリート工学2	2	化学基礎	2					
					水理学演習	2			コンクリート構造	2	道路工学	2					
									土木施工	2	建設マネジメント	2					
単位数合計		20		19		20		16		20		20		8	3	2	

履修モデル:建築都市学部土木工学科 【具体的な人材像】自然環境との調和した技術を有する土木分野のマネジメントリーダー

		14	年次			2 4	年次			3 :	年次			4	年次	
科目区分	春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期	
	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数
I 現代文明論					現代文明論	2										
	入門ゼミナールA	2	入門ゼミナールB	2			現代教養講義	2								
Ⅱ 現代教養科 目	シティズンシップ	2	地域・国際理解	2												
	健康・フィットネス理 論実習	1	生涯スポーツ理論実習	1												
Ⅲ英語科目	英語リスニング&ス ピーキング	2	英語リーディング&ラ イティング	2												
	土木数物の基礎	1	土木の微積分	2	基礎統計学	2	建築計画B	2	土木実験	2	環境防災実験	2	卒業研究 1	2	2 卒業研究 2	2
	土木の数学	2	土木解析学	2	構造力学 1	2	コンクリート工学 1	2	コンクリート構造	2	土木工学ゼミナール	2	建設CAD	2	2	
	基礎情報処理	2	プログラミング基礎	2	構造力学演習	2	物理学	2	コンクリート工学2	2	土木設計製図	2	空間計画	2	2	
	土木基礎力学 1 (演習 含む)	2	土木基礎力学2 (演習 含む)	2	土質力学 1	2	水理学 2	2	橋梁工学(セッション 科目)	2	公務員受験対策専門演 習	2	地域マネジメント	2	2	
	建築デザイン入門	2	化学基礎	2	土質力学演習	2	都市・地域計画	2	建築計画A	2	土木技術者のための基 礎英語	2	まちづくり関連法規	2	2	
Ⅳ主専攻科目	空間計画	2	測量学2	2	測量実習	2	計画数理	2	日本建築史 1	2	まちづくり演習	2				
	測量学 1	2			水理学 1	2			交通計画	2	道路工学	2				
					水理学演習	2			河海工学	2	建築法規	2				
					都市デザイン	2			環境工学	2	地形情報処理学	2				
									上下水道工学	2	公共政策学	2				
									_							
単位数合計		20		19		20		14		20		20		10	)	2

(制定 昭和28年6月1日)

改訂 昭和43年4月1日 昭和63年4月1日 1991年6月17日 1994年4月1日 2000年4月1日 2003年4月1日 2007年4月1日 2012年4月1日 2017年4月1日 2017年4月1日

第1条 学校法人東海大学に勤務する専任の教職員の定年は、次のとおりとする。 教員

職種	区分	身分	資格	定年齢
	大学院・大学		教授	65
	短大・研究所等		准教授・講師・ 助教・助手	62
		教諭・養護教諭	上級職1種・2種	65
教員	高等学校・中等部	教訓・後護教訓     司書教諭	中級職1種・2種	62
	小学校・幼稚園	り音牧皇	一般職1種	62
		助教諭	一般職2種	60
	2004年4月1日以	教諭・養護教諭	   一般職1種	60
	後の採用者	司書教諭	川又州以 Ⅰ 7里	00

# 職能資格制度を適用する職員

職種	区分	身分	資格	定年齢
			参与・副参与	65
			参事・副参事	
	事務		主事・副主事	62
			主査・職員一級	60
			職員二級	
			主席技師・主任技師	65
			技師	
職員	技術		技師補・上級技術員	62
			一級技術員・技術員	60
			初級技術員	
			1等級~4等級	65
	看護		5等級~7等級	62
			8等級以下	60
	保健		主席保健技術員・副主席保	65
	水健		健技術員・主任保健技術員	

上級保健技術員一・上級保	62
健技術員二	
中級保健技術員・保健技術	60
員・初級保健技術員	

# 職能資格制度を適用しない職員

職種	区分	身分	資格	定年齢
			船長・機関長	65
			一等航海士,一等機関士,	62
			通信長,事務長,次席一等	
			航海士, 次席一等機関士,	
			二等航海士, 二等機関士,	
			次席二等航海士, 次席二	
	船舶		等機関士,三等航海士,三	
			等機関士, 次席三等航海	
職員			士, 次席三等機関士, 小型	
			舟艇船長, 小型舟艇機関	
			長,小型舟艇甲板長,甲板	
			長,操機長,司厨長	
			操舵手, 操機手, 調理手,	60
			甲板員,機関員,司厨員	
			課長職以上の管理職	65
	その他		上記以外の役職	62
			上記以外の職員	60

- 第2条 定年による退職は、定年に達した日の属する年度末日とする。
- 第3条 定年令の計算は、「年令計算ニ関スル法律」及び「民法」第143条による。ただし、 2000年3月31日までに採用された教職員についてはこれを適用しない。
- 第4条 教育上又は経営上必要と認めた者については、第1条の規定を適用しない。
- 第5条 「高年齢者等の雇用の安定等に関する法律」により定年退職後に継続雇用する場合は、「学校法人東海大学大学・短大非常勤教員規程」、「学校法人東海大学初等中等教育機関非常勤講師規程」及び「学校法人東海大学臨時職員規程」を適用する。なお、継続雇用における条件については、「学校法人東海大学高齢者継続雇用運用細則」による。

付 則

- 1 この規程は、昭和28年6月1日から施行する。
- 2 この規程の施行にあたって必要な細則については、別に定める。

付 則 (2017年4月1日)

この規程は、2017年4月1日から施行する。

# ○学校法人東海大学大学・短大特任教員任用内規

(制定 2017年4月1日) 改訂 2020年4月1日

(目的・趣旨)

第1条 学校法人東海大学大学・短大特任教員任用内規(以下「この内規」という。)は、「学校法人東海大学特任教職員任用規程」(以下「規程」という。)に定める特任教職員のうち、大学・短大の特任教員(以下「特任教員」という。)の任用についての運用を定めることを目的とする。

(個別管理区分)

- 第2条 特任教員の各人の雇用条件を,雇用契約書等で提示することを目的として,規程 第3条に定める個別管理区分は,次の項目とし,詳細を別表に定めるものとする。
  - (1) 採用区分
  - (2) 職務区分
  - (3) 所属及び勤務地
  - (4) 資格
  - (5) 1回の雇用期間
  - (6) 授業責任時間
  - (7) 招聘の有無
  - (8) 年俸額
  - (9) 教育及び研究に関する経費配算
  - (10) 外部資金要件
  - (11) その他

(限度年齢)

- 第3条 規程第4条及び第5条の定めの他,次の各号の満年齢に達する年度末を契約期間 の限度とする。
  - (1) 教授65歳
  - (2) 准教授以下 62 歳
- 2 原則として教授に限り、専任定年後に継続して雇用することができる。その場合、限度年齢は68歳とするが、特段の事情がある場合は、稟議により、70歳に達する年度末までを限度とすることができる。
- 3 本条における年齢の計算は、「年齢計算ニ関スル法律」及び「民法」第143条による。 (契約更新に関する条件)
- 第4条 特任教員の契約は、次の各号のいずれかに該当する場合、更新を行わないものと する。
  - (1) 担当する授業科目が減少し、授業責任時間を満たさないとき。
  - (2) 担当する業務がなくなったとき。
  - (3) 担当する研究プロジェクトが終了したとき。
  - (4) 外部資金要件の者については、人件費、研究費等の経費全額を充足し得る外部資金が確保できないとき。
  - (5) その他, 雇用契約書等に定める契約内容が遵守されないとき。

(専任への任用変更)

- 第5条 特任教員が専任教員への任用変更を希望する場合,人事計画に基づき,公募する 教員採用に応募することができる。ただし,専任定年後の継続雇用者を除く。
- 2 専任教員と同等の職務に就く特任教員は、所属学部等より推薦があった場合、所定の 専任採用審査を受けることができる。このとき、在職中の教育・研究の業績及び勤務実 績のほか、学生指導、学部学科等所属する組織の運営業務、大学内外の各種業務等の担 当について評価する。

付 則

- 1 この内規は、2017年4月1日から施行する。
- 2 (経過措置)

規程の付則第3項に定める経過措置を適用する特任教員第3種の任用手続は、規程の制定に伴い、任用に係る委員会を廃止するため、他の特任教員と同様とする。

付 則(2020年4月1日)

この内規は,2020年4月1日より施行する。

# 別表

個別管理区分	内 容
(1)採用区分	新採用, <mark>再採用</mark> ,再雇用
(2)職務区分	教育・研究の職務を主に担当,教育を主に担当,
	研究を主に担当、診療を主に担当、その他
(3)所属及び勤務地	各機関に定める所属及び勤務地
(4)資格	教授, 准教授, 講師, 助教, 助手
(5)1回の雇用期間	1回の雇用期間は1か年度毎とする。専任への任用変更は
	原則として5か年度以内とする。
	最長雇用期間は9か年度とし、外部資金を要件とする者に
	ついては,外部資金未確保の場合は更新しない。
(6)授業責任時間	職務内容に応じて3コマ,6コマ,10コマ,その他
	専任定年後の継続雇用者は原則として3コマとする。
(7)招聘の有無	大学による招聘にて採用された者は,成果に応じて給与に
	特別加算することができる。ただし、専任定年後の継続雇
	用者を除く。
(8)年俸額	職務による諸手当については年俸額に含むものとする。実
	績による諸手当については,実績に応じて別途支給する。
(9)教育及び研究に関する	特定の診療を行う職務の教員を除き、職務内容に応じて、
経費配算	研究費又は教育開発費を配算する。
(10)外部資金要件	該当する外部資金の要件及び名称
(11)その他	上記個別管理区分に定める他,特別の事情のある場合は,
	<u>必要に応じて記載する。</u>

- (注)採用区分の内容は、次のように定める。
  - (1) 新採用 新たに特任教員として雇用契約を締結すること。

# (2) 再採用

専任退職後, 引続き特任教員として雇用契約を締結すること。

(3) 再雇用

退職した者が、一定の期間を経て、再度雇用契約を締結すること。

# 学術雑誌一覧

# 建築都市学部

建樂都市 No.	誌名(国内雑誌)
1	PPM / 日本工業新聞社.
2	WIP:水公害·用廃水情報 / 水曜社.
3	三井建設技術研究所報 / 三井建設株式会社技術研究所.
4	西松建設技報.
5	海岸工学講演会講演集/土木学会[編].
6	神奈川県公害センター年報 / 神奈川県公害センター.
7	環境/環境科学研究所編.
8	環境情報科学 = Environmental information science / 環境情報科学センター [編].
9	Memoirs / Kanazawa Institute of Technology.
10	橋梁 = Bridge engineering.
11	橋梁と基礎.
12	空気清浄 / 日本空気清浄協会.
13	空気調和・衛生工学 / 空気調和・衛生工学会 [編].
14	空気調和・衛生工学会論文集 = Transactions of the Society of Heating, Air-conditioning and Sanitary
14	Engineers of Japan
15	建設省直轄工事技術研究報告 / 建設省.
16	建設機械/日本工業出版.
17	建設業界/日本土木工業協会,電力建設業協会[編].
18	建設の機械化 / 日本建設機械化協会 [編].
19	公害研究: 学際的協力をめざして.
20	公害研究年報/東京都公害研究所[編].
21	公害資源研究所年報 / 工業技術院公害資源研究所 [編].
22	公害資源研究所報告 / 工業技術院公害資源研究所 [編].
23	公害と対策 / 公害対策技術同友会.
24	公害年鑑/環境保全協会[編集].
25	高速道路と自動車 / 高速道路調査会 [編].
26	港湾 / 港灣協會 [編].
27	港湾技術研究所報告 = Report of Port and Harbour Technical Research Institute, Ministry of
	Transportation / 運輸省港湾技術研究所.
28	港湾技術要報/運輸省港湾局建設課.
29	コンクリートジャーナル / 日本コンクリート会議.
30	コンクリート工学 / 日本コンクリート会議 [編] = Concrete journal / Japan National Council on Concrete.
31	清水建設研究所報 / 清水建設株式会社研究所.
32	写真測量とリモートセンシング / 日本写真測量学会.
33	水質汚濁研究 / 日本水質汚濁研究会.
34	水道協會雜誌.

35	水利科学 / 水利科学研究所.
36	施工:建築の技術 = Architectural product-engineering.
37	セメントコンクリート = Cement and concrete / 日本セメント技術協会 [編集].
38	施工技術:土木雑誌/日刊工業新聞社.
20	全国公害研会誌 = Journal of Environmental Laboratories Association / 全国公害研協議会編集委員会 [編
39	集].
40	測地学会誌.
41	測量 = Surveying / 日本測量協會 [編].
42	大成建設技術研究所報 / 大成建設株式会社技術研究所.
43	竹中技術研究報告 = Takenaka technical research report / 竹中工務店 [編].
44	田中正造と足尾鉱毒事件研究 / 渡良瀬川研究会編集.
45	土と基礎 = Soil mechanics and foundation engineering / 土質工学会 [編].
46	東京都公害研究所年報 = Annual report of the Tokyo Metropolitan Research Institute for Environmental
	Protection / 東京都公害研究所 [編].
47	東京都清掃研究所研究報告/東京都清掃研究所[編].
48	道路/日本道路技術協會[編].
49	都市計画 / 日本都市計画学会 [編] = Planning review / the City Planning Institute of Japan.
50	土質工学会論文報告集 / 土質工学会 [編].
51	土木學會誌.
52	土木学会論文報告集 = Proceedings of the Japan Society of Civil Engineers / 土木学会 [編].
53	土木技術.
54	土木技術資料 / 土木研究会.
55	土木研究所報告.
56	土木施工:the doboku-seko.
57	間組研究年報/間組.
58	フジタ工業技術研究所報 = Journal of the Technical Laboratory of the Fujita Corporation / Fujita
	Corporation.
59	防災科学技術 / 国立防災科学技術センター.
60	舗装 / 建設図書 [編].
61	水 : 水の総合雑誌 = The water / 工業用水クラブ [編].
62	水処理技術 / 日本水処理技術研究会.
63	神奈川県水質調査年表/神奈川県公害対策事務局.
64	用水と廃水.
65	豫防時報 / 日本損害保険協会 [編].
66	日本地震工学シンポジウム講演集.
67	日本土木史研究発表会論文集 / 土木学会日本土木史研究委員会.
68	トンネル工学シリーズ / 土木学会.
69	地震工学研究発表会講演概要 / 土木学会.
70	環境問題シンポジウム講演論文集 / 土木学会.
71	土木試驗所報告 / 內務省土木試驗所.
72	土木学会年次学術講演会講演概要集. 第1部 / 土木学会.

70	上大党会生为党侨建定会建定概要集 第2並 / 上大党会
73	土木学会年次学術講演会講演概要集. 第2部 / 土木学会.
74	土木学会年次学術講演会講演概要集. 第3部 / 土木学会.
75	季刊環境研究 / 公害調査センター [編].
76	水理講演会論文集/土木学会・水理委員会編.
77	熊谷技報 = Kumagai technical research report.
78	戸田建設技術開発センター研究報告 / 戸田建設.
79	土木計画学シンポジウム / 土木学会土木計画学研究委員会.
80	土質工学研究発表会発表講演集 / 土質工学会 [編].
81	土質工学シンポジウム発表論文集 / 土質工学会 [編集].
82	岩盤力学に関するシンポジウム講演論文集 / 土木学会.
83	下水道協会誌 = Journal of Japan Sewage Works Association / 日本下水道協会 [編].
84	間組技術局研究年報/間組.
85	神奈川県公害センター研究報告 / 神奈川県公害センター [編].
86	風工学シンポジウム論文集 / 日本気象学会.
87	建設機械化研究所報告 / 日本建設機械化協会建設機械化研究所.
88	建設機械化研究所年報 / 日本建設機械化協会建設機械化研究所.
89	財団法人建設工学研究振興会年報 / 建設工学研究振興会 [編集].
90	建設省技術研究会報告 / 土木研究会.
91	港湾技術研究所講演会講演集/運輸省港湾技術研究所[編].
92	港湾技術研究所年報 / 運輸省港湾技術研究所 [編].
93	プレストレストコンクリート: journal of Japan Prestressed Concrete Engineering Association / プレストレストコンクリート技術協会 [編].
94	技術研究所所報 = Technical report of Research Laboratory of Sumitomo Construction / 住友建設株式会社 [編].
95	港湾技研資料 = Technical note of Port and Harbour Technical Research Institute, Ministry of Transportation, Japan / 運輸省港湾技術研究所 [編集].
96	下水道事業概要/東京都下水道局[編].
97	
98	全国公共用水域水質年鑑 / 芙蓉情報センター [編纂] ; 環境庁水質保全局監修.
99	大林道路株式会社技術報.
100	銭高組技報.
101	施工管理.
102	東京都土木技術研究所年報 / 東京都土木技術研究所 [編].
103	土木研究所彙報/建設省土木研究所.
104	土木研究所年報 / 建設省土木研究所 [編].
105	別冊土木施工.
106	田園都市/地域問題全国協議会.
107	建設統計要覧/建設省調査統計課監修.
108	建設総合統計年度報 / 建設省計画局調査統計課 [編].
109	開発土木研究所月報 = Monthly report of the Civil Engineering Research Institute / 北海道開発局開発土木研究所 [編].
<u> </u>	ı

110	資源環境対策 = Journal of resources and environment.
111	水環境学会誌 = Journal of Japan Society on Water Environment / 日本水環境学会.
112	環境と公害:自然と人間の共生を求めて.
113	大林組技術研究所報.
114	建設白書:国土建設の現況 / 建設省編.
115	かながわ環境白書 / 神奈川県 [編].
116	環境アセスメント年鑑 / 武蔵野書房 [編].
117	環境公害年鑑 / 環境法令研究会.
118	環境白書 / 環境庁編.
119	下水道年鑑 / 水道産業新聞社編.
120	建材年鑑:わが国建材工業の全貌 / 日本建設材料協会.
121	公共下水道統計 / 日本水道協会 [編].
122	構造工学論文集. A = Journal of structural engineering. A / 土木学会 [編]; 日本学術会議構造工学研究連絡委員会 [監修].
123	工事年鑑.
124	清水建設研究報告 = Technical research report of Shimizu Construction Co., Ltd. / 清水建設株式会社技術研究所編.
125	水道統計 / 厚生省環境衛生局 [編集].
126	水道年鑑 / 水道産業新聞社 [編].
127	ダム年鑑 / 日本ダム協会 [編].
128	千葉県環境白書 / 千葉県環境部.
129	千葉県公害白書.
130	土木年鑑 = Annual of civil engineering / 土木学会.
131	生コン年鑑.
132	日本河川水質年鑑/建設省河川局監修;日本河川協会編.
133	公共用水域水質測定結果 / 神奈川県.
134	廃棄物年鑑.
135	橋 / [土木学会].
136	列島ジャーナル
137	土木学会論文集 / 土木学会 = Proceedings of JSCE / Japan Society of Civil Engineers.
138	公害防止文献速報.
139	積算資料:建設・営繕・用度・労務 / 経済調査会 [編].
140	総合建設:月刊:construction news.
141	環境と測定技術 / 日本環境測定分析協会.
142	月刊下水道.
143	官公庁公害専門資料.
144	自然保護年鑑 / 自然保護年鑑編集委員会編.
145	環境白書のあらまし / 大蔵省印刷局, 19
146	土木学会誌・論文(報告)集総索引.
147	公害紛争処理白書:我が国の公害紛争処理・土地利用調整の現況/公害等調整委員会編.

148	中国水利.
149	かんきょう:人間と環境を考える.
150	資源環境技術総合研究所年報 / 工業技術院資源環境技術総合研究所.
151	大阪府環境白書 / 大阪府 [編集].
150	三井建設技術研究報告別冊 = Special report of Technical Research Institute of Mitsui Construction Co.,
152	Ltd. / 三井建設株式会社技術開発本部技術研究所 [編集].
153	三井建設技術研究報告/技術開発本部技術研究所.
154	環境白書. 総説 / 環境庁編.
155	環境白書. 各論 / 環境庁編.
156	環境管理 = Environmental management / 産業環境管理協会 [編].
157	熊谷組技術研究報告 = Kumagai technical research report / 熊谷組技術開発本部 [編].
158	フジタ技術研究所報 = Journal of Fujita Technical Research Institute.
159	ハザマ研究年報 = Technical research report of Hazama Corporation.
160	河川.
161	海岸工学論文集 / 土木学会 = Proceedings of Coastal Engineering, JSCE / Japan Society of Civil Engineers.
162	首都圈白書/国土庁[編].
163	地盤工学会論文報告集 = Journal of the Japanese Geotechnical Society : soils and foundations / 地盤工学会 [編集].
164	鹿島建設技術研究所年報 / 鹿島建設技術研究所.
165	地盤工学シンポジウム発表論文集 / 地盤工学会 [編集].
166	鹿島技術研究所年報 / 鹿島技術研究所 = Annual report / Kajima Technical Research Institute, Kajima Corporation.
167	地盤工学研究発表会発表講演集 / 地盤工学会 [編集]
168	月刊地球環境.
169	戸田建設技術研究報告 = Toda technical research report / 戸田建設 [編].
170	神奈川県公共用水域及び地下水の水質測定結果.
171	神奈川県公共用水域及び地下水の水質測定計画.
172	橋梁&都市project.
173	年報 / 首都高速道路公団 [編].
174	月刊廃棄物.
175	長良川河口堰モニタリング年報.
176	造景: まちづくりと地域おこしのための総合専門誌 = Community & urban design.
177	神奈川県公共用水域水質測定結果.
178	海岸:magazine kaigan / 全国海岸協会 [編].
179	海岸統計/建設省河川局編.
180	公害白書 / 神奈川県.
181	公害白書.
182	流量年表 / 内務省土木局 [編].
183	岩の力学国内シンポジウム講演集 / 日本学術会議, 土木学会, 土質工学会, 日本材料学会, 日本鉱業会.
184	開発: the kaihatsu.

_	
185	海洋開発シンポジウム講演集 / 土木学会海洋開発委員会 [編].
186	海洋開発論文集 = Proceedings of civil engineering in the ocean / 土木学会海洋開発委員会 [編].
187	季刊土と基礎 = Soil mechanics and foundation engineering / 日本土質基礎工學委員會 [編].
188	技術研究所年報 / 五洋建設 [編].
189	工学研究.
190	高速道路 / 高速道路調査会 [編].
191	水工学に関する夏期研修会講義集. Aコース / 土木学会水理委員会.
192	水工学に関する夏期研修会講義集. Bコース / 土木学会水理委員会.
193	土木学会年次学術講演会講演概要.
194	土木試驗所彙報 / 内務省土木試驗所.
195	土木試驗所報 / 内務省土木試驗所.
196	わが国の道路.
197	土木學會論文集 = Transactions of the Japan Society of Civil Engineers.
100	東京都環境科学研究所年報. 廃棄物研究室編 = Annual report of the Tokyo metropolitan research institute
198	for environmental protection.
199	環境研究 / 公害調査センター [編].
200	北海道開発土木研究所月報 = Monthly report of Civil Engineering Research Institute.
201	季刊全国環境研会誌 = Journal of Environmental Laboratories Association / 全国環境研協議会編集委員会 [編集].
202	月刊公害防止産業 : 環境破壊にチャレンジする技術誌 = Environmental pollution control.
203	産業公害/産業公害防止協会.
204	環境白書 / 環境省編.
204	コンクリート工学論文集 / 日本コンクリート工学協会 [編] = Concrete research and technology / Japan
205	Concrete Institute.
206	サスティナブルマネジメント = Sustainable management / 環境経営学会編.
207	港湾空港技術講演会講演集.
208	港湾空港技術研究所報告 = Report of the Port and Airport Research Institute / 港湾空港技術研究所 [編].
209	港湾空港技術研究所資料 = Technical note of the Port and Airport Research Institute / 港湾空港技術研究所.
210	大成建設技術センター報 = Report of Taisei Technology Center.
211	近鉄技報 = Technical review of Kintetsu.
212	循環型社会白書/環境省編.
213	日本環境年鑑.
213	国土技術政策総合研究所資料 / 国土交通省国土技術政策総合研究所 [編] = Technical note of National
214	Institute for Land and Infrastructure Management / National Institute for Land and Infrastructure
	Management, Ministory of Land, Infrastructure and Transport, Japan.
215	国土技術政策総合研究所研究報告 = Research report of National Institute for Land and Infrastructure
	Management / 国土交通省国土技術政策総合研究所 [編].
216	官公庁環境専門資料.
217	環境科学会誌 = Environmental science / 環境科学会 [編].
218	CE建設業界: civil engineering / 日本土木工業協会 [編].

219	開発土木研究所講演会特集号 = Special report for the Lecture Meeting of the Civil Engineering Research Institute / 北海道開発局開発土木研究所.
220	北海道開発土木研究所月報. 特集号, 北海道開発土木研究所講演会特集号 = Monthly report of Civil
	Engineering Research Institute.
221	環境統計集/環境省総合環境政策局編.
222	BIO city = ビオシテイ:「生命都市」時代の街づくりと技術を考える総合誌.
223	技術報:let's do now / 大林道路 [編].
224	土木研究所成果報告書 = Report of research results, PWRI / 土木研究所 [編].
225	道路統計年報.
226	建設の施工企画 / 日本建設機械化協会 [編].
227	三井住友建設技術研究所報告 = Reports of technical research Institute of Sumitomo Mitsui Construction
	Co.,Ltd. / 三井住友建設 [編].
228	フジタ技術研究報告 = Fujita technical research report.
229	下水道協会誌. 論文集 = Journal of Japan Sewage Works Association. Research journal.
230	水工学論文集 = Proceedings of hydraulic engineering, JSCE / 土木学会水理委員会.
231	環境情報科学. 別冊, 環境情報科学論文集 / 環境情報科学センター [編集] = Environmental information
	science. Extra, Papers on environmental information science.
232	環境情報科学. 臨時増刊 / 環境情報科学センター [編集] = Environmental information science. Extra edition / Center for Environmental Information Science.
	国土技術政策総合研究所年報 / 国土交通省国土技術政策総合研究所 [編] = Yearbook of NILIM / National
233	Institute for Land and Infrastructure Management, Ministry of Land, Infrastructure and Transport.
234	区画整理 / 土地区画整理研究会 [編].
235	區劃整理/土地區劃整理研究會.
236	水資源・環境研究 / 水資源・環境学会 [編].
237	道路橋年報 / 日本道路協会 [編].
238	土木学会年次学術講演会講演概要集. 第5部 / 土木学会.
239	大気汚染学会講演要旨集 / 大気汚染研究協会 [編].
240	大気環境学会年会講演要旨集 / 大気環境学会 [編].
241	日本水環境学会年会講演集 / 日本水環境学会 [編].
242	環境自治体白書:環境自治体づくりの最前線/環境自治体会議[編].
243	寒地土木研究所月報 = Monthly report, Civil Engineering Research Institute for Cold Region.
244	土木学会論文集 / 土木学会 [編].
245	地球環境レポート = Global environmental policy in Japan / 地球環境レポート編集委員会編集.
246	環境ビジネス白書.
247	北海道開発土木研究所報告 / 北海道開発土木研究所 [編].
248	寒地土木研究所報告 / 土木研究所寒地土木研究所 [編].
249	環境循環型社会白書 / 環境省編.
250	都市美.
251	月刊コンクリートテクノ = Journal of concrete technology.
252	地盤工学会誌 / 地盤工学会 [編] = / the Japanese Geotechnical Society.
253	環境経済・政策研究/環境経済・政策学会編集.

	寒地土木研究所月報. 特集号, 寒地土木研究所講演会特集号 = Monthly report, Civil Engineering Research
254	Institute for Cold Region.
255	環境白書:循環型社会白書/生物多様性白書/環境省編.
256	SEEDer:地域環境情報から考える地球の未来:種まく人:シーダー.
257	水と水技術:次世代「水」エンジニアへの情報発信 = Water solutions and technologies.
258	環境技術 = Environmental conservation engineering / 環境技術研究会 [編].
259	City & life:都市のしくみとくらし/第一住宅建設協会.
260	Eneco: business i.: 月刊ビジネスアイエネコ: エネルギーと地球環境の明日を考える経済専門誌.
261	景観・デザイン研究論文集 / 土木学会 [編].
262	環境と安全 : 大学等環境安全協議会会誌 = Journal of environment and safety / 大学等環境安全協議会 [編].
263	武蔵野大学環境学部紀要 / 武蔵野大学環境学部 [編].
264	土木学会論文集. B2, 海岸工学 / 土木学会 [編] = J.JSCE, Ser.B2, Coastal engineering / Japan Society of Civil Engineers.
265	ACe建設業界: architecture & civil engineering / 日本建設業連合会 [編].
266	環境会議 = Environmental forum.
267	日中環境産業 = Japan-China environmental industry.
268	土木学会年次学術講演会講演概要集 / 土木学会 [編].
269	地盤工学研究発表会発表講演集 / 地盤工学会 [編].
270	環境パートナーズ = Environment partners.
271	建設機械施工:一般社団法人日本建設機械施工協会誌:journal of JCMA.
272	土木学会年次学術講演会講演概要集 / 土木学会.
273	建設業の経理 = Construction accounting / 建設産業経理研究機構 [編];建設業振興基金 [監修].
274	A+U : architecture and urbanism : 建築と都市/エー・アンド・ユー.
275	JSSC:日本鋼構造協会機関誌.
276	別冊新建築. 日本現代建築家シリーズ.
277	アルミニウム建築.
278	近代建築.
279	空気調和と冷凍.
280	建築界/理工図書[編].
281	建築技術 / 建築技術, 建設省建築研究所.
282	建築研究報告 = Architectural research report / 建設省建築研究所 [編集].
283	建築雑誌 / 造家學會 [編].
284	建築設備工学研究所報/関東学院大学大沢記念建築設備工学研究所[編].
285	建築設備と配管工事.
286	建築文化 = The architectural culture / 彰国社.
287	住宅建築: the housing journal for builders and designers / 建築思潮研究所.
288	新建築/新建築社[編].
289	カラム / 八幡製鐵カラム刊行委員會.
290	建築設備士.
291	ディテール.

292	都市住宅:toshi-jutaku:the monthly journal of urban housing.
293	日本建築學會論文集.
294	日本建築学会論文報告集.
295	学術講演梗概集. 計画系 / 日本建築学会.
296	学術講演梗概集. 構造系 / 日本建築学会.
297	建築研究資料/建設省建築研究所[編].
298	Approach.
299	東急建設技術研究所報/東急建設技術研究所.
300	ビルディングレター / 日本建築センター [編].
301	建築研究所年報 / 建設省建築研究所 [編集].
302	構造工学シンポジウム / 日本学術会議構造研究連絡委員会, 土木学会, 日本建築学会 [編].
303	GA document.
304	建築材料 / 工業調査会.
305	建築生産.
306	建築設備/建築設備研究會[編].
307	SD: スペースデザイン / 鹿島研究所出版会.
308	SD. 別冊 / 鹿島研究所出版会.
309	建築統計年報/建設省計画局編.
310	Yearbook of construction statistics / United Nations.
311	風声:京洛だより.
312	学術講演梗概集. A, 材料・施工,防火,海洋,電算利用 = Summaries of technical papers of Annual Meeting Architectural Institute of Japan. Materials and construction, fire safety, off-shore engineering and
313	architecture, computer application / 日本建築学会. 学術講演梗概集. B, 構造I = Summaries of technical papers of Annual Meeting Architectural Institute of Japan. B, Structures I / 日本建築学会 [編].
314	学術講演梗概集. C, 構造II = Summaries of technical papers of Annual Meeting Architectural Institute of Japan. Structures II / 日本建築学会 [編].
315	学術講演梗概集. D, 環境工学 = Summaries of technical papers of Annual Meeting Architectural Institute of Japan. D, Environmental engineering / 日本建築学会 [編].
316	学術講演梗概集. E, 建築計画, 農村計画 = Summaries of technical papers of Annual Meeting Architectural Institute of Japan. Architectural planning and design rural planning / 日本建築学会 [編].
317	学術講演梗概集. F, 都市計画, 建築経済・住宅問題, 建築史・建築意匠 = Summaries of technical papers of annual meeting architectural institute of Japan. Urban planning, building economics and housing problems, history and theory of architecture / 日本建築学会.
318	学校建築年報. 国立学校編 / 文部省学校建築年報編集委員会編.
319	季刊大林.
320	建築家作品年鑑.
321	新建築. 住宅特集 = The Japan architect.
	日本建築学会計画系論文報告集/日本建築学会 [編] = Transactions of AlJ. Journal of architecture,
322	planning and environmental engineering / Architectural Institute of Japan.
323	日本建築学会構造系論文報告集 / 日本建築学会 [編] = Transactions of AIJ. Journal of structural and
	construction engineering / Architectural Institute of Japan.
324	長谷川工務店技報 = Hasegawa Komuten technical journal / 長谷川工務店技術開発部.

325	長谷工技報 = Haseko technical research report / 長谷エコーポレーション技術研究所編.
	財団法人新住宅普及会住宅建築研究所研究所だより.
327	すまいろん:研究所だより/新住宅普及会・住宅建築研究所[編].
328	
329	集合体モノグラフィ.
	経研標準建築費指数及び施工単価月報 / 建築工業経営研究会 [編] = MRC: monthly standard building cost
330	indexes and unit price data bulletin / Management Research Society for Construction Industry.
331	学校建築年報. 公立学校編 / 文部省学校建築年報編集委員会編.
332	建築設備士 / 建築設備技術者協会 [編] = / Japan Building Mechanical and Electrical Engineers
332	Association.
333	中國營造學社彙栞.
334	卒業研究卒業ゼミ概要集.
335	卒業設計作品集.
336	日本建築学会計画系論文集 / 日本建築学会 [編] = Transactions of AIJ. Journal of architecture, planning
	and environmental engineering / Architectural Institute of Japan.
337	日本建築学会構造系論文集 / 日本建築学会 [編] = Transactions of AIJ. Journal of structural and
	construction engineering / Architectural Institute of Japan. 学術講演梗概集. A, 材料施工,防火,海洋,情報システム技術 = Summaries of technical papers of Annual
338	Meeting Architectural Institute of Japan. A, Materials and construction, fire safety, off-shore
	engineering and architecture, information systems technology / 日本建築学会.
339	学術講演梗概集. A-1, 材料施工 = Summaries of technical papers of Annual Meeting Architectural
339	Institute of Japan. A
340	学術講演梗概集. A-2, 防火,海洋,情報システム技術 = Summaries of technical papers of Annual Meeting
	Architectural Institute of Japan. A
341	学術講演梗概集. B-1, 構造I, 荷重・信頼性,応用力学・構造解析,基礎構造,シェル・立体構造・膜構造 = Summaries of technical papers of Annual Meeting Architectural Institute of Japan. B
	学術講演梗概集. B-2, 構造II, 振動, 原子力プラント = Summaries of technical papers of Annual Meeting
342	Architectural Institute of Japan. B
343	学術講演梗概集. C-1, 構造III, 木質構造, 鉄骨構造, 鉄骨鉄筋コンクリート構造 = Summaries of technical
343	papers of Annual Meeting Architectural Institute of Japan. C
344	学術講演梗概集. C-2, 構造IV, 鉄筋コンクリート構造, プレストレストコンクリート構造, 壁構造・組積構造
	= Summaries of technical papers of Annual Meeting Architectural Institute of Japan. C
345	学術講演梗概集. D-1, 環境工学I, 室内音響・音環境, 騒音・固体音, 環境振動, 光・色, 給排水・水環境, 都市設備・環境管理, 環境心理生理, 環境設計, 電磁環境 = Summaries of technical papers of Annual Meeting
	設備・原現官座, 原現心座主座, 原現設計, 电磁原境 = Summaries of technical papers of Affidial Meeting Architectural Institute of Japan. D
	学術講演梗概集. D-2, 環境工学II, 熱, 湿気, 温熱感, 自然エネルギー, 気流・換気・排煙, 数値流体, 空気清浄,
346	暖冷房・空調, 熱源設備, 設備応用 = Summaries of technical papers of Annual Meeting Architectural
	Institute of Japan. D
347	学術講演梗概集. E-1, 建築計画I, 各種建物・地域施設, 設計方法, 構法計画, 人間工学, 計画基礎 =
	Summaries of technical papers of Annual Meeting Architectural Institute of Japan. E
348	学術講演梗概集. E-2, 建築計画II, 住居・住宅地, 農村計画, 教育 = Summaries of technical papers of Annual Meeting Architectural Institute of Japan. E
	Annual Meeting Architectural institute of Japan. E 学術講演梗概集. F, 都市計画, 建築経済・住宅問題, 建築歴史・意匠 = Summaries of technical papers of
349	子們語演伎號来: 1, 智师計画, 建来框屏 「正七间處, 建来准文 「思述 — Summanes of technical papers of Annual Meeting Architectural Institute of Japan. F, Urban planning, building economics and housing
	problems, history and theory of architecture / 日本建築学会 [編].

	学術講演梗概集. F-1, 都市計画, 建築経済・住宅問題 = Summaries of technical papers of Annual Meeting							
350	Architectural Institute of Japan. F							
351	学術講演梗概集. F-2, 建築歴史・意匠 = Summaries of technical papers of Annual Meeting Architectural							
331	Institute of Japan. F							
352	ソーラーシステム普及促進等補助事業成果報告書 / ソーラーシステム振興協会.							
353	民俗建築 / 民俗建築會 [編].							
354	建築.							
355	季刊新建築. 住宅特集.							
356	空調衛生設備士 / 日本空調衛生設備士協会 [編] = / Japan Building Mechanical Engineers Association.							
357	主宅建築研究所報/新住宅普及会住宅建築研究所.							
358	消防研究所報告 = Semi-annual report of Fire Research Institute / 國家消防庁消防研究所 [編].							
359	國際建築 = The international architecture / 國際建築協會 [編].							
360	民家 = Rural house / 民家研究會.							
361	建築ジャーナル = Architectural journal.							
362	Eciffo : the magazine of survey for new office.							
363	日本建築学会環境系論文集 / 日本建築学会 [編] = Transactions of AIJ. Journal of environmental							
303	engineering / Architectural Institute of Japan.							
364	JSSC鋼構造論文集: steel construction engineering / 論文集編集小委員会.							
365	アルス建築大講座.							
366	学術講演会プログラム / 日本建築学会 [編].							
367	住宅総合研究財団研究論文集 = Journal of Housing Research Foundation.							
368	建築世界.							
369	建築工藝叢誌.							
370	建築工藝叢誌. 第二期 / 建築工藝協會 [編].							
371	史標 / O.D.A.「史標」出版局 [編].							
372	構造工学論文集. B = Journal of structural engineering. B / 日本建築学会 [編];日本学術会議構造工学研究連絡委員会 [監修].							
373	國際建築時論 = International architectural review.							
374	学術講演会建築デザイン発表会プログラム / 日本建築学会 [編].							
375	村野藤吾研究 / 村野藤吾の設計研究会 [編].							
376	室内環境学会誌 / 室内環境学会 [編].							
377	現代建築 / 日本工作文化聯盟編輯.							
378	工作文化/日本工作文化聯盟編輯.							
379	Casa brutus : life design magazine = 月刊「カーサ・ブルータス」 / マガジンハウス [編].							
380	構造工学論文集. A = Journal of structural engineering. A.							
381	住総研研究論文集 / 住総研 [編] = Journal of the Housing Research Foundation "Jusoken" / Housing							
301	Research Foundation Jusoken.							
382	学術講演梗概集 / 日本建築学会 [編] = Summaries of technical papers of annual meeting / Architectural Institute of Japan.							
383	学術講演梗概集. 構造系 / 日本建築学会 [編].							
384	学術講演梗概集. 計画系 / 日本建築学会 [編].							
385	学術講演梗概集. 環境系 / 日本建築学会 [編].							
L	ı							

386	商店建築:syohten kentiku.
387	建築學會論文集 / 建築学会.
388	日本建築学会大会・・・大会プログラム / 日本建築学会 [編].
389	文京区文化財年報:文の京/文京区教育委員会[編].
390	棟柱:芸術文化振興基金助成事業/信州伝統的建造物保存技術研究会[編].
391	アイシーオール:建築工藝.
392	關西建築協會雜誌/關西建築協會.
393	建築と社会 / 日本建築協會.
394	建築と社會 / 日本建築協會 [編].
395	日本建築協會雜誌 / 日本建築協會 [編].
396	住総研研究論文集・実践研究報告集 / 住総研 [編] = Journal of the Housing Research Foundation
330	"Jusoken" / Housing Research Foundation Jusoken.
397	日経アーキテクチュア = Nikkei architecture / 日経マグロウヒル社.

国内雑誌 397種

No.	誌名(国外雑誌)							
1	Concrete international : design and construction.							
2	The Dock & harbour authority.							
3	Environmental periodicals bibliography.							
4	Journal of research / Public Works Research Institute.							
5	Landscape architecture.							
6	The New reclamation era / Bureau of Reclamation.							
	Proceedings of the American Society of Civil Engineers. Journal of professional activities / American							
7	Society of Civil Engineers.							
8	Proceedings of the American Society of Civil Engineers. Journal of the Sanitary Engineering Division.							
9	Proceedings of the American Society of Civil Engineers. Journal of the Soil Mechanics and Foundations							
	Division.							
10	Proceedings of the American Society of Civil Engineers. Journal of the Waterways, Harbors and Coastal Engineering Division.							
11	Proceedings of the American Society of Civil Engineers. Journal of the City Planning Division.							
11	Proceedings of the American Society of Civil Engineers. Issues in engineering. Journal of professional							
12	activities / American Society of Civil Engineers.							
12	Proceedings of the American Society of Civil Engineers. Journal of the Energy Division / American Society							
13	of Civil Engineers.							
14	The Structural engineer. Pt. A: journal of the Institution of Structural Engineers.							
15	The Structural engineer. Pt. B: journal of the Institution of Structural Engineers.							
16	Water and water engineering.							
17	Archives of environmental contamination and toxicology.							
18	Civil engineering in Japan / Japan Society of Civil Engineers.							
19	Concrete.							
20	Concrete products / Maclean-Hunter.							
21	Directory of published proceedings. Series PCE, Pollution control/ecology.							
22	Environmental science & technology.							
23	Ground water : journal of the Technical Division National Water Well Association.							
24	Indian journal of power and river valley development : a monthly devoted to development of power & water							
2-	resources in Asia.							
25	Journal of the Air Pollution Control Association.							
26	Journal of the American Concrete Institute.							
27	Journal of environmental quality.  Journal of the mistitution of water Engineers and Scientists / Institution of water Engineers and							
28	Scientists							
29	Journal of the New England Water Works Association.							
30	Journal / Water Pollution Control Federation.							
31	Photogrammetric engineering.							
32	The Planner / Royal Town Planning Institute.							
33	Journal of the Royal Town Planning Institute.							
34	Proceedings of the American Society of Civil Engineers. Journal of the Construction Division.							
35	Proceedings of the American Society of Civil Engineers. Journal of the Engineering Mechanics Division /							
	American Society of Civil Engineers.							
36	Proceedings of the American Society of Civil Engineers. Journal of professional activities. Engineering							
	Issues / American Society of Civil Engineers.							

37	Proceedings of the American Society of Civil Engineers. Journal of the Environmental Engineering Division.									
	Proceedings of the American Society of Civil Engineers. Journal of the Geotechnical Engineering Division /									
38	the American Society of Civil Engineers.									
39	Proceedings of the American Society of Civil Engineers. Journal of the Highway Division.									
40	Proceedings of the American Society of Civil Engineers. Journal of the Hydraulics Division.									
41	Proceedings of the American Society of Civil Engineers. Journal of the Irrigation and Drainage Division.									
42	Proceedings of the American Society of Civil Engineers. Journal of the Pipeline Division.									
43	Proceedings of the American Society of Civil Engineers. Journal of the Power Division.									
44	Proceedings of the American Society of Civil Engineers. Journal of the Structural Division.									
45	Proceedings of the American Society of Civil Engineers. Journal of the Surveying and Mapping Division / the American Society of Civil Engineers.									
46	Proceedings of the American Society of Civil Engineers. Journal of the Technical Councils of ASCE.									
47	Proceedings of the American Society of Civil Engineers. Transportation engineering journal of A.S.C.E.									
40	Proceedings of the American Society of Civil Engineers. Journal of the Urban Planning and Development									
48	Division / American Society of Civil Engineers.									
49	Proceedings of the American Society of Civil Engineers. Journal of the Water Resources Planning and Management Division.									
50	Proceedings of the American Society of Civil Engineers. Journal of the Waterway, Port, Coastal and Ocean Division.									
51	Proceedings of the Institution of Civil Engineers.									
52	Proceedings of the Institution of Civil Engineers. Pt. 1, Design and construction.									
53	Proceedings of the Institution of Civil Engineers. Pt. 2, Research and theory.									
54	Transactions of the American Society of Civil Engineers.									
55	Transactions of the Japan Society of Civil Engineers.									
56	Water, air and soil pollution.									
57	Water research.									
58	Water resources research / American Geophysical Union.									
59	Water services : journal of resources, supply, sewage & effluent.									
60	Water and sewage works.									
61	Paving and municipal engineering.									
62	Municipal engineering.									
63	Municipal and county engineering.									
64	Municipal news.									
65	Municipal news and water works.									
66	Water works and sewerage.									
67	Water and wastes engineering.									
68	Journal / American Water Works Association.									
69	Water engineering & management.									
70	Water science and technology: a journal of the International Association on Water Pollution Research.									
71	Journal of professional issues in engineering.									
72	Journal of engineering mechanics / American Society of Civil Engineers. Engineering Mechanics Division.									
73	Journal of structural engineering.									
74	Journal of construction engineering and management.									

Engineers. gineers, Water
Engineers. gineers, Water
gineers, Water
gineers, Water
ng, Technical Council
<u> </u>
nical Council on
Council on Cold
r.
onmentai
als Engineering

114	Environmental design : journal of the Islamic Environmental Design Research Centre.
115	Water environment research : a research publication of the Water Environment Federation.
116	Advances in water pollution research / International Association on Water Pollution Research.
117	Proceedings of the American Society of Civil Engineers. Journal of the Waterways Division.
118	Proceedings of the Institution of Civil Engineers. Geotechnical engineering.
119	Journal of infrastructure systems.
120	Air & waste : journal of the Air & Waste Management Association.
121	Civil engineering ASCE.
122	Civil engineering.
123	ASCE publications information.
124	Journal of hydrologic engineering / American Society of Civil Engineers, Water Resources Engineering Division.
125	Journal of bridge engineering / American Society of Civil Engineers, Structural Division.
126	Practice periodical on structural design and construction / American Society of Civil Engineers, Construction Division & Structural Division.
127	Journal of geotechnical and geoenvironmental engineering.
128	Practice periodical on hazardous, toxic, and radioactive waste management.
129	Journal of composites for construction.
130	Environment and behavior.
131	Environmental engineering : the journal of the Society of Environmental Engineers.
132	Chemosphere.
133	Atmospheric environment.
134	Proceedings of the American Society of Civil Engineers. Journal of professional practice.
135	Proceedings of the American Society of Civil Engineers. Journal of the Waterways and Harbors Division.
136	Reclamation era: a water review quartely / the Bureau of Reclamation, United States Department of the Interior.
137	Reclamation record.
138	Inter-noise : proceedings.
139	International journal of geomechanics.
140	Advances in environmental sciences.
141	Advances in environmental science and technology.
142	Journal of environmental information science.
143	Soil and foundation / the Japanese Society of Soil Mechanics and Foundation Engineering.
144	Proceedings of international sessions in conference on coastal engineering, JSCE / Japan Society of Civil Engineers Coastal Engineering Committee.
145	Journal of hazardous, toxic, and radioactive waste.
146	JAPCA.
147	Architects' year book.
148	Architectural design.
149	Architectural periodicals index / Royal Institute of British Architects.
150	The architectural review : a magazine of architecture & decoration.
151	L'Architecture d'aujourd'hui.
152	Architektur Wettbewerbe.

154	Construction contracting.
155	Domus.
156	Heating & ventilating engineer : the journal of environmental services.
157	Werk, Bauen + Wohnen.
158	Bauen + Wohnen.
159	Zodiac : a review of contemporary architecture.
160	ASHRAE journal.
161	The architects' journal.
162	Architectura.
163	
164	The Magazine of building : architectural forum.  Bautechnik.
165	Building bulletin.
166	Building materials and technology.
167	Building materials.  The Building services engineer: the journal of the Institution of Heating and Ventilating Engineers / the
168	Institution of Heating and Ventilating Engineers.
169	IHVE.
170	Heating and ventilating engineer and journal of air conditioning.
171	Interbuild.
172	Kaltetechnik.
173	McGraw-Hill's construction contracting.
174	Construction methods and equipment.
175	R.I.B.A. journal / Royal Institute of British Architects.
176	Stahlbau.
177	Architectural Association paper / Architectural Association.
178	Monvmentvm / International Council of Monuments and Sites.
179	Space structures : an international journal.
180	Building services : the CIBSE journal.
181	H & V engineer : the journal of environmental services / Turret-Wheatland.
182	Bauhaus.
183	Custom builder.
184	Progressive builder.
185	International journal of space structures.
186	Journal of architectural engineering.
187	Architectural publications index : API.
188	Architectural record.
189	Custom home.
190	Kaltetechnik-Klimatisierung.
191	Architecte. N.S.
192	Architecture vivante.
193	Les monuments historiques de la France.
194	Monuments historiques : Mh.
195	AA files : annals of the Architectural Association, School of Architecture.

196	Architektur Jahrbuch = Architecture annual / herausgegeben vom Deutschen Architektur-Museum, Frankfurt am Main.					
197	urnal of the American Society of Architectural Historians.					
198	rnal of the Society of Architectural Historians.					
199	Arts & architecture.					
200	Journal of the Institution of Heating and Ventilating Engineers.					
201	The I.H.V.E. journal: the journal of the Institution of Heating and Ventilating Engineers.					
202	Light and lighting and environmental design.					
203	House and home.					
204	Architectural forum.					

国外雑誌 204種

# 学生確保の見通し等を記載した書類 建築都市学部

## 【本文目次】

- 1. 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況…p.2
  - (1) 学生の確保の見通し…p.2
    - 1) 定員充足の見込み…p.2
    - 2) 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要…p.3
    - 3) 学生納付金の設定の考え方…p.4
  - (2) 学生確保に向けた具体的な取組状況…p.5
- 2. 人材需要の動向等社会の要請…p.8
  - (1)人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(概要)…p.8
  - (2)上記(1)が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠…p.8

# 学生の確保の見通し等を記載した書類 建築都市学部

### 1. 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

## (1) 学生の確保の見通し

## 1) 定員充足の見込み

建築都市学部の入学定員は、受験生の動向、社会からのニーズ、入学 定員を確保できる人数等を踏まえ、教育研究体制を永続的に維持可能な 体制として、建築学科の入学定員を 240 名、収容定員を 960 名とし、土 木工学科の入学定員を 100 名、収容人数を 400 名として教育研究活動を 開始する計画である。

## ①全国的な傾向からの分析

定員を充足できる根拠は次のとおりである。建築都市学部の学位の分野「工学関係」が含まれる「理・工学系」の過去5年の学部数、志願倍率、入学定員充足率状況(【資料①-1】【資料①-2】「令和2(2020)年度 私立大学・短期大学等 入学志願動向」(日本私立学校振興・共済事業団)P.26・33)をみると、【資料①-1】のとおり、学部数は微増ながら増加傾向であることに対し、志願倍率も増加傾向を示しており、令和2年度においては、13倍を超える水準に達しており、定員充足率も100%を満たしている状況である。このうち、【資料①-2】のとおり、本学科と類似した学科が含まれる学部に焦点を絞ってみてみると、令和2年度においては、「工学部」は約12.0倍、「理工学部」は約15.7倍、「建築学部」は約17.3倍となっており、【資料①-1】の動向と同様に、倍率に多少の幅はあるものの、建築学科240名、土木工学科100名とする入学定員を大幅に超える進学希望者が存在することが明らかであり、建築都市学部が受け持つ学問分野について高い需要があると分析される。

### ②将来性についての分析

東海大学は、全国に 19 学部 (令和3年現在。募集停止学部を除く。) を展開している大規模大学である。建築都市学部は、湘南キャンパス(平塚市)で学修を進める計画である。現在、湘南キャンパスには、約18,000 名程度の学部生が在籍しており、在学生の6割程度が首都圏(神奈川県、 東京都、千葉県)からの学生である。特に、地元神奈川県内の学生が、 湘南キャンパスに通う学生全体の5割程度を占めている。また、4割程 度は、首都圏以外、全国から入学してくる学生である。また、同様に、 全国に14校設置されている付属高校からの入学希望者も一定数存在し ている。

将来的にみると、18歳人口の減少は避けられない状況であるが、本学の通学圏である首都圏においては、その減少率は低いものであることに加え、【資料①-3】のとおり大規模大学は、高い水準で志願者を確保していることから、この総合大学・大規模大学のスケールメリットを活用した教育体制により、上記①の傾向が続くものと分析している。

## 2) 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

## ①今後の人口動態

文部科学省「学校基本調査」のデータをもとに分析された、「18 歳人口予測 大学・短期大学・専門学校進学率 地元残留率の動向」(2020 年度版)」(リクルート進学総研)に依れば、全国の 18 歳人口の推移は、【資料②】のとおり「2020 年 116.7 万人→2032 年 102.3 万人」となり、「約14.4 万人/12.3%」が減少するとの予想が立てられている。

一方、本学の入学者の半数程度を占めると考えられる神奈川県の 18 歳人口の推移【資料③】については、「2020 年 79,403 人 $\rightarrow$ 2032 年 73,550 人」と、減少率は「7.4%」であり、全国の減少幅(約 12.3%)に比べて、比較的小さいことが分かる。同様に、東京都をみてみると「0.6%」ではあるが微増の予測がなされており、東京への人口集中の傾向が続くと判断される。

【資料④】をみると、①進学率の上昇により、大学進学者数が増加していることに加え、②神奈川県における地元残留率は低下傾向にあるものの38.9%を維持している。さらに、この県内外の移動状況の詳細をみると、東京都への流出が1位であると同時に、東京都からの流入も1位であることが分かる。この傾向から、神奈川県と東京都は補完しあいながら、同じ生活圏・通学圏内として成立していることもわかる。

以上の状況から、本学の通学圏内である神奈川県と東京都は、18歳人口の減少の影響は生じるものの、比較的影響は小さい状況が継続すると 予測される。そして、現在の進学者の傾向を維持しつつ、入学定員を超 える一定数の志願者数を確保することが可能であると、判断することが できる。

## ②類似する分野への大学進学状況

さらに詳しく分析するため、【資料⑤】「リクルート 入試実態調査」により、学部系統「理工学部」「工学部」の10年間の動向を確認していく。全国、一都三県、神奈川県のみのいずれにおいても、「理工学部」においては、2020年度(令和2年度)には、17倍~18倍の高い志願倍率となっており、「工学部」においては、10年前から志願者数は倍増し、志願倍率も10倍を超える高い水準になっている。

また、【資料⑥】のとおり、建築都市学部と競合する可能性のある、類似した学部学科の動向をみても、高い志願倍率を維持しており、志願者数の確保を見込むことができる。

## ③既設の学部における定員充足状況

既存学部等の定員充足状況については、【資料⑦】のとおりである。

#### ■建築都市学部建築学科 【工学部建築学科】

既設学科の工学部建築学科(入学定員 200 名)の 6 年間の状況をみてみると、約 1,300 名~1,800 名の志願者を確保しており、志願倍率は最低でも 6.8 倍を確保している。建築都市学部建築学科の入学定員は、240 名を設定しており、上記①②の傾向から分析しても、入学定員を超える一定数の志願者の確保は可能であると判断することができる。

#### ■建築都市学部土木工学科 【工学部土木工学科】

既設学科の工学部土木工学科(入学定員 120 名)の6年間の状況をみてみると、約600名~800名後半の志願者を確保しており、志願倍率は最低でも5倍程度を確保している。建築都市学部土木工学科の入学定員は100名を設定しており、上記①②の傾向から分析しても、入学定員を超える一定数の志願者の確保は可能であると判断することができる。

## 3) 学生納付金の設定の考え方

納付金については、大学として適切な教育研究環境を構築・維持するのみならず、これからの社会の変化に対応した施設・設備の充実にも対応した、大学経営の根幹に係る財務状況を踏まえるとともに、受益者で

ある学生への説明責任を重視する一方、近隣の他大学の学生納付金の設定状況も勘案した上で、完成年度に収支均衡を図れることを前提に適切に設定した。下表のとおり、【資料⑥】に記載する競合校の学納金と比較しても概ね範囲内に収まっており、適切な納付金であると判断している。

競合する大学 学部学科	入学 定員	入学金	授業料	設備施設費	その他 (諸会計等)	合計
東海大学 建築都市学部 建築学科	240	200,000	1, 354	1,000	59, 200	1,613,200
工学院大学 建築学部 建築学科	145	250,000	1,080,000	310,000	41, 160	1, 681, 160
日本大学 理工学部 建築学科	250	260,000	1,250,000	220,000	40,000	1,770,000
関東学院大学 建築・環境学部 建築・環境学科	138	290,000	1,080,000	330,000	89, 660	1, 789, 660

競合する大学 学部学科	入学 定員	入学金	授業料	設備施設費	その他 (諸会計等)	合計
東海大学 建築都市学部 土木工学科	100	200,000	1, 354, 000		59, 200	1,613,200
芝浦工業大学 工学部 土木工学科	104	280,000	1, 482, 000		34, 880	1, 796, 880
東京理科大学 理工学部 土木工学科	120	300,000	1,030,000	330,000	-	1,660,000

日本大学						
理工学部	220	260,000	1,250,000	220,000	40,000	1,770,000
土木工学科						

- 注1) 本学以外の各大学の情報は、2021年4月時点の公式ウェブサイトにより調査。
- 注2)各大学の学生納付金の記載方法は、各大学の公表方法に基づく。

### (2) 学生確保に向けた具体的な取組状況

学生確保に向けて、大学として、全学的・組織的に学生確保に向けた入試 広報を行っている。その方針としては、受験生、保護者、高等学校等の教員 に対し、本学の学部・学科等の周知活動を行うだけではなく、大学への進路 希望者に対して、体験授業や各学問分野別の紹介等、高校生の進路選択のサ ポート活動を行うことである。

令和 2 (2020) 年度においては、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、各種行事の多くが中止となってしまったが、通常は以下①から⑥のとおりオープンキャンパス等を実施している。中止となってしまった令和 2 (2020) 年度については Web Open Campus と称し、自宅からでも参加できる「360°キャンパスツアー」、「バーチャルキャンパスツアー」等により実際のキャンパスプアー」、「バーチャルキャンパスツアー」等により実際のキャンパス環境についての確認ができるように対応したことに加え、各学科においては、動画にて、学部学科の案内等について、場所・時間に関係なく、「興味を持った受験生がいつでも確認することが出来る環境」を整えている。

また、HPや各種広告媒体等や高校訪問などを通じて、本学への受験、入 学者希望者を増やすことを目指すだけではなく、「入試対策講座」の開催や、 体験授業等を行い、高校生の進学へのサポート活動も積極的に行っている。

今後の取組としては、コロナ禍により整備されたWeb等の媒体と、オープンキャンパス・体験授業等各種イベント等の対面で行う活動を融合し、周知活動等を進める計画である。

- ①オープンキャンパス (対面、オンライン)計画
  - ・2021年度東海大学開催オープンキャンパス (予定)

対面:6月20日(日)、8月21(土)、8月22日(日)、3月13日(日) 「学科説明、個別面談、キャンパス見学〕

WEB:7月、8月

・入試対策講座(6月、8月、10月)

- ・進学相談会、キャンパス見学会
- ・全国開催進学相談会(約350会場を予定。実施は未定。)
- ②HP【受験生・高校教員向け 】受験生情報サイト・SNSからの情報発信 Youtubeチャンネル(東海大学公式)配信動画
- 東海大学ホームページ 受験生情報サイト(http://www.tokai-adm.jp/)
- 東海大学「日本まるごと学び改革実行プロジェクト」(https://tokai-marugoto.jp/)

### ③高校訪問

高校訪問をして、進路・キャリア形成に関する講話を行う。本学への進学についてのPRだけではなく、進路の選び方、入学試験の種類等、高校生の大学進学のサポートを行っていく計画である。

- ④大学入試説明会(高校教員対象):5月~6月にWebでの開催を予定。
- ⑤各種メディアからの情報発信(受験情報サイト、メディア企画)
- ⑥出願促進プロモーション SNS広告、エリアアド、コンビニ広告 交通広告、出願促進DM(全国の接触者対象)

以上の説明のとおり、全国的な「受験者数」や、分野別の「志願者の動向」、 既設学部等における「志願者数、志願倍率、入学者数等の実績」に加え、学生 確保に向けて具体的な取組を行うことにより、入学定員を満たすことができる と確信することができる。

#### 2. 人材需要の動向等社会の要請

## (1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的 (概要)

#### 【建築都市学部 建築学科】

建築都市学部建築学科の教育研究上の目的は、技術の進歩、環境の変化、社会の変化を捉える幅広い視野と、建築学の幅の広い専門性を兼ね備えた「柔らかな技術者」の育成である。具体的には「建築工学」「建築計画」に「地域デザイン」をカリキュラムの柱とし、社会・生活の「変化を捉える力」を備え、新しい視点を持って地域と社会の発展に継続的に寄与できる人材を養成することである。

### 【建築都市学部 土木工学科】

建築都市学部土木工学科の教育研究上の目的は、従来のライフラインの整備、国土保全、社会基盤施設の建設から、自然環境の保全、災害の軽減、エネルギーなど、持続可能社会の構築を視野に入れた土木工学の幅広い専門性を有し、社会経済や自然環境の変化に加え、想定外の環境変化にも対応できる柔軟性をもった人材を育成することである。

### (2) 上記(1)が社会的,地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

2040年に向けた高等教育のグランドデザイン(答申)に記載されている通り、急激に変化していく現代社会において、産業界においても新しい事業開発や国際化の進展により、「高度な専門知識を持ちつつ普遍的な見方のできる能力と具体的な業務の専門化に対応できる専門的なスキル・知識」を持った人材が求められている。建築都市学部においては、従来の「工学」の枠組みを越え、ソフトとハードの両面から建築・都市の課題に取り組む新しい学生の育成を目指しており、地域に根ざした建築・都市のあり方を、既存の建築・土木分野のみならず、社会学・経済学など文系分野の教員の参画等により多角的に学ぶことで、住環境から都市環境、地球環境まで及ぶ広い視野と高い技術力を備え、持続可能な社会システムの構築をめざすグローカルな人材を養成することを目指している。以上の学部の教育研究上の目的と、上記(1)で記した学科の教育研究上の目的をもって、現在生じている急激な社会の変化に対応していく計画であり、将来的に必要とされる人材像と合致している。また、既設学部等の社会からのニーズをみると、【資料⑧】のとおり、既設

また、既設学部等の社会からのニーズをみると、【資料®】のとおり、既設 学科が育成する人材へのニーズは多岐に渡り、建設業を中心に、多様な分野 へ卒業生が就職していることが分かる。また、【資料⑨】のとおり、就職実績 は以下のとおりであり、高い水準を維持している。

·工学部建築学科 : 2018 年度 100% 2019 年度 98.0%

・工学部土木工学科:2018年度100% 2019年度97.6%

加えて、本学への求人については、【資料⑩-1】の状況となっており、卒業生の数を大幅に超えており、【資料⑩-2】のとおり、全国から求人が寄せられている。建築都市学部に設置する2学科においても、その教育研究上の目的から、多様な分野への就職を目指していくため、【資料⑧】と同様に、様々な分野からのニーズに応えて課題解決を目指して社会で活躍していく人材を、引き続き輩出していくと確信している。以上の状況から、建築都市学部の教育研究上の目的は、社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであると判断される。

以上

# 学生確保の見通し等を記載した書類 建築都市学部

## 【資料目次】

【資料①-1】令和 2 (2020) 年度 私立大学・短期大学等 入学志願動向」(日本私立学校振興・共済事業団) P. 26) …p. 2

【資料①-2】令和 2 (2020) 年度 私立大学・短期大学等 入学志願動向」(日本私立学校振興・共済事業団) P. 33) …p. 2

【資料①-3】「令和 2 (2020) 年度 私立大学・短期大学等 入学志願動向」(日本私立学校振興・共済事業団) 令和 2 年 10 月) 37 ページより抜粋。…p. 2

【資料②】リクルート進学総研マーケットリポート Vol. 82 2021 年 3 月号「18 歳人口予測 大学・短期大学・専門学校進学率 地元残留率の動向」(2020 年度版) 6 ページより抜粋…p. 3

【資料③】リクルート進学総研マーケットリポート Vol. 86 2021 年 4 月号「18 歳人口予測 大学・短期大学・専門学校進学率 地元残留率の動向 南関東版」(2020 年度版) 2 ページより抜粋…p. 3

【資料④】リクルート進学総研マーケットリポート Vol. 86 2021 年 4 月号「18 歳人口予測 大学・短期大学・専門学校進学率 地元残留率の動向 南関東版」(2020 年度版) 15 ページより抜粋…p. 4

【資料⑤】「リクルート入試実態調査」による統計…p.5

【資料⑥】リクルート「入試実態調査」より集計…p.6

【資料⑦】既設学科の学生確保の状況…p.6

【資料®】既設学科の就職先…p.7

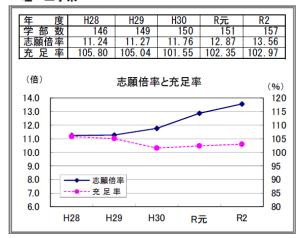
【資料⑨】既設学科の就職決定率…p.8

【資料⑩-1】東海大学産業別求人会社数···p. 8

【資料⑩-2】東海大学地域別求人会社数…p.9

## 【資料①-1】

理・工学系



「令和2 (2020) 年度 私立大学・短期大学等 入学志願動向」(日本私立学校振興・共済事業団) P.26)

## 【資料①-2】

## 5. 主な学部別の志願者・入学者動向(大学)

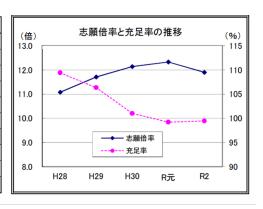
学部名称の表記は、集計数3以上の学部とし、集計数2以下は「その他」とした。

系 統 区 分	集	計学部数	<u></u>	J	、学定員()	()	1	志願者(人)		,	入学者数(	人)	入学	定員充足	率(%)
学 部 名	R元年度	R2年度	増減	R元年度	R2年度	増減	R元年度	R2年度	増減	R元年度	R2年度	增減	R元年度	R2年度	增減
工学部	49	48	Δ 1	22, 979	22, 010	△ 969	256, 256	265, 197	8, 941	24, 293	23, 507	△ 786	105. 72	106.80	1. 08
理工学部	29	30	1	18, 441	18, 581	140	275, 555	292, 296	16, 741	18, 318	18, 496	178	99. 33	99. 54	0. 21
建築学部	5	8	3	1, 315	1, 655	340	28, 342	28, 648	306	1, 352	1,806	454	102. 81	109. 12	6. 31

「令和2 (2020) 年度 私立大学・短期大学等 入学志願動向」(日本私立学校振興・共済事業団) P.33)

## 【資料①-3】

大規模大	学(収容)	<b>E員80</b>	)00人以上)			
年度	H2	8	H29	H30	R元	R2
学校数(校	)	43	44	46	46	48
入学定員()	184	, 729	191, 963	200, 368	201, 139	206, 375
志願者(人	2, 047	, 202	2, 247, 102	2, 432, 551	2, 480, 804	2, 455, 871
受験者(人	1,958	, 074	2, 150, 641	2, 330, 257	2, 367, 125	2, 329, 872
合格者(人	595	, 366	583, 179	558, 289	572, 392	647, 736
入学者(人	202	, 106	204, 136	202, 399	199, 522	205, 266
志願倍率(信	当) 1	1. 08	11. 71	12. 14	12. 33	11. 90
合格率(%	) 3	0. 41	27. 12	23. 96	24. 18	27. 80
歩留率(%	) 3	3. 95	35. 00	36. 25	34. 86	31. 69
充足率(%	) 10	9. 41	106. 34	101. 01	99. 20	99. 46



「令和2 (2020) 年度 私立大学・短期大学等 入学志願動向」

(日本私立学校振興・共済事業団) 令和2年10月)37ページより抜粋。

## 【資料②】

	_	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年	2031年	2032年
全体 計	人数	1,167,348	1,141,140	1,121,285	1,097,416	1,062,870	1,089,970	1,092,118	1,086,573	1,070,466	1,068,289	1,049,877	1,034,548	1,023,963
-H 11	指数	100.0	97.8	96.1	94.0	91.0	93.4	93.6	93.1	91.7	91.5	89.9	88.6	87.7
北海道	人数	45,674	45,007	44,276	42,489	41,028	41,853	41,256	41,087	40,148	40,064	39,321	38,302	37,985
40/4/22	指数	100.0	98.5	96.9	93.0	89.8	91.6	90.3	90.0	87.9	87.7	86.1	83.9	83.2
東北	人数	83,524	80,269	78,146	75,379	71,809	73,104	72,063	71,026	69,024	68,469	66,592	65,270	65,431
****	指数	100.0	96.1	93.6	90.2	86.0	87.5	86.3	85.0	82.6	82.0	79.7	78.1	78.3
北関東	人数	66,380	64,677	63,720	61,863	59,667	60,662	60,090	59,374	58,555	57,023	55,612	54,815	53,543
1012	指数	100.0	97.4	96.0	93.2	89.9	91.4	90.5	89.4	88.2	85.9	83.8	82.6	80.7
南関東	人数	305,457	301,999	299,356	294,497	286,935	296,205	298,790	297,810	295,937	295,254	289,575	289,332	288,670
ных	指数	100.0	98.9	98.0	96.4	93.9	97.0	97.8	97.5	96.9	96.7	94.8	94.7	94.5
甲信越	人数	49,897	47,817	46,907	45,536	44,033	44,794	44,084	43,684	42,239	42,396	41,412	40,210	39,726
TIERE	指数	100.0	95.8	94.0	91.3	88.2	89.8	88.4	87.5	84.7	85.0	83.0	80.6	79.6
北陸	人数	29,004	27,814	27,545	26,692	26,008	26,219	26,256	25,852	25,177	24,413	24,515	23,760	23,613
HUPE	指数	100.0	95.9	95.0	92.0	89.7	90.4	90.5	89.1	86.8	84.2	84.5	81.9	81.4
東海	人数	145,478	143,651	140,510	138,309	133,550	137,154	137,505	136,524	134,543	134,593	132,524	129,893	127,045
****	指数	100.0	98.7	96.6	95.1	91.8	94.3	94.5	93.8	92.5	92.5	91.1	89.3	87.3
近畿	人数	195,001	190,286	185,626	181,639	175,501	179,248	179,159	178,700	174,848	174,490	171,960	168,797	165,603
AL MIN	指数	100.0	97.6	95.2	93.1	90.0	91.9	91.9	91.6	89.7	89.5	88.2	86.6	84.9
中国	人数	70,193	67,945	66,821	65,318	63,247	64,858	65,130	64,245	64,060	64,197	63,134	62,001	61,205
ты	指数	100.0	96.8	95.2	93.1	90.1	92.4	92.8	91.5	91.3	91.5	89.9	88.3	87.2
四国	人数	35,553	34,558	33,841	32,825	31,434	32,184	31,780	31,824	31,182	30,990	30,785	30,031	29,505
izalwi.	指数	100.0	97.2	95.2	92.3	88.4	90.5	89.4	89.5	87.7	87.2	86.6	84.5	83.0
九州沖縄	人数	141,187	137,117	134,537	132,869	129,658	133,689	136,005	136,447	134,753	136,400	134,447	132,137	131,637
/ UJII/PP#B	指数	100.0	97.1	95.3	94.1	91.8	94.7	96.3	96.6	95.4	96.6	95.2	93.6	93.2

リクルート進学総研マーケットリポート Vol.82 2021 年 3 月号

「18歳人口予測 大学・短期大学・専門学校進学率 地元残留率の動向」(2020年度版)6ページより抜粋

## 【資料③】

		2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年	2031年	2032年
南関東	人数	305,457	301,999	299,356	294,497	286,935	296,205	298,790	297,810	295,937	295,254	289,575	289,332	288,670
田民木	指数	100.0	98.9	98.0	96.4	93.9	97.0	97.8	97.5	96.9	96.7	94.8	94.7	94.5
埼玉	人数	65,634	64,508	63,542	62,543	61,183	62,797	62,864	62,858	62,493	61,849	60,036	59,723	59,587
2077	指数	100.0	98.3	96.8	95.3	93.2	95.7	95.8	95.8	95.2	94.2	91.5	91.0	90.8
千葉	人数	55,220	54,908	53,904	53,438	51,411	52,883	52,926	53,796	52,669	52,233	51,260	50,271	49,742
1 7	指数	100.0	99.4	97.6	96.8	93.1	95.8	95.8	97.4	95.4	94.6	92.8	91.0	90.1
東京	人数	105,200	104,150	104,018	102,330	100,133	104,347	106,120	103,176	103,784	104,068	103,144	104,317	105,791
***	指数	100.0	99.0	98.9	97.3	95.2	99.2	100.9	98.1	98.7	98.9	98.0	99.2	100.6
神奈川	人数	79,403	78,433	77,892	76,186	74,208	76,178	76,880	77,980	76,991	77,104	75,135	75,021	73,550
TTAKIII	指数	100.0	98.8	98.1	95.9	93.5	95.9	96.8	98.2	97.0	97.1	94.6	94.5	92.6

 全国
 人数
 1,167,348
 1,141,140
 1,121,285
 1,097,416
 1,062,870
 1,089,970
 1,092,118
 1,086,573
 1,070,466
 1,068,289
 1,049,877
 1,034,548
 1,023,963

 指数
 100.0
 97.8
 96.1
 94.0
 91.0
 93.4
 93.6
 93.1
 91.7
 91.5
 89.9
 88.6
 87.7

リクルート進学総研マーケットリポート Vol86 2021年4月号

「18歳人口予測 大学・短期大学・専門学校進学率 地元残留率の動向 南関東版」(2020年度版)2ページより抜粋

#### 学校数

大学 : 31 (国立 2・公立 2・私立 27)

短期大学 : 14 (公立 1・私立 13) 専門学校 : 101 (公立 5・私立 96)

## 神奈川県

#### 卒業者数

2011年60,814人→2020年66,293人(5,479人増加)

#### 進学者数

大学 : 2011年33.604人→2020年38.113人(4.509人増加) 短期大学:2011年 3,312人→2020年 2,295人(1,017人減少) 専門学校:2011年 8,694人→2020年11,737人(3,043人増加)

#### 進学率 (現役)

大学 : 2011年55.3%→2020年57.5%(2.2ポイント上昇) 短期大学:2011年 5.4%→2020年 3.5% (1.9ボイント低下) 専門学校:2011年14.3%→2020年17.7% (3.4ポイント上昇)

#### 残留率

大学 : 2011年43.9%→2020年38.9%(5.0ポイント低下) 短期大字:2011年65.7%→2020年69.2%(3.5ボイント上昇)

## 入学者流入元 ※地元は除く

大学 :1位東京(10,133人)、2位静岡(2,104人)、3位千葉(2,101人) 短期大学:1位東京 (265人)、2位静岡 (172人)、3位長野

#### 入学者流出先 ※地元は除く

:1位東京(17,035人)、2位千葉 (912人)、3位埼玉(909人) 空:1位東京 (605人)、2位北海道 (57人)、3位静岡 (30人) 短期大学:1位東京

学校数 : 大学・短期大学は本部の所在地 (2020年学校基本調査より) : 高等学校卒業した数(全日制・定時制+中等教育学校後期課程) ・卒業者数

: 高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校(※) に進学した数

・進学率(現役): 進学者数(大学・短期大学・専門学校※2): 高等学校卒業者数(全日制・定時制+中等教育学校後期課程) : 自県内(地元)の大学・短期大学入学者のうち自県内(地元)の高校出身の大学・短期大学入学者の割合(浪人含): 自県内(地元)の大学・短期大学に入学したうち、自県以外の高校出身者が大学・短期大学に入学したこと(浪人含): 自県内(地元)の高校出身者が大学・短期大学に入学したこと(浪人含) ・残留率

流入

流出

リクルート進学総研マーケットリポート Vol86 2021年4月号

「18歳人口予測 大学・短期大学・専門学校進学率 地元残留率の動向 南関東版」(2020年度版) 15ページより抜粋

# 「リクルート 入試実態調査」による統計

- \*各年度で志願者数非公表の大学があります \*分野系統は調査に協力いただきました大学の指定分野になります。
- \*下記のエリアは本部設置所在エリアl ごよります

## <全国>

理工学部		2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
	募集人員	15,883	16,469	16,000	16,305	16,598	17,296	17,976	18,601	18,493	19,260
	志願者数	228,332	239,953	261,791	279,319	284,812	296,929	304,397	317,034	334,414	363,942
	志願倍率	14.4	14.6	16.4	17.1	17.2	17.2	16.9	17.0	18.1	18.9
工学部		2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
	募集人員	33,436	34,156	32,657	32,552	33,175	31,472	32,427	32,217	32,341	31,492
	志願者数	251,173	269,923	302,133	326,672	343,195	339,033	360,223	380,879	431,255	455,944
	志願倍率	7.5	7.9	9.3	10.0	10.3	10.8	11.1	11.8	13.3	14.5

#### <一都三県>

HF-715											
理工学部		2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
	募集人員	8,922	8,969	9,228	9,562	9,979	10,294	10,585	10,779	10,869	11,442
	志願者数	127,978	135,131	152,173	156,800	159,463	173,594	174,058	182,761	189,860	207,976
	志願倍率	14.3	15.1	16.5	16.4	16.0	16.9	16.4	17.0	17.5	18.2
工学部		2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
	募集人員	16,413	16,886	16,134	15,688	16,103	15,367	15,694	15,791	15,608	14,983
	志願者数	154,434	171,244	184,788	198,621	207,653	207,306	215,552	234,344	262,769	269,763
	志願倍率	9.4	10.1	11.5	12.7	12.9	13.5	13.7	14.8	16.8	18.0

## <神奈川のみ>

理工学部	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
募集人員	1		359	359	364	370	754	754	733	733
志願者数	χĮ		2,821	3,158	3,563	3,340	7,580	8,487	11,489	12,896
志願倍 <sup>図</sup>	₹		7.9	8.8	9.8	9.0	10.1	11.3	15.7	17.6
工学部	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
工学部 募集人員	2011年 1 2,588	2012年 2,487	2013年 2,056	2014年 2,001		2016年 2,133	3,368	3,401	2019年 3,417	2020年 3,286
工学部	2011年 2,588 1 11,478	2012-	2010-	2017	20134	2	2017	3 //01	2019年 3,417 30,168	

株式会社リクルートマーケティングパートナーズより情報提供

学部·学科	大学	都道府県	学部	学科		2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
					募集人員				120	120	125	145	145	145	145
	工学院大学	東京	建築学部	建築学科	志願者数(合計)				2,004	2,127	2,320	2,710	2,529	2,863	2,614
					志願倍率				16.7	17.7	18.6	18.7	17.4	19.7	18.0
建築都市学部					募集人員	280	0	119	119	119	119	124	124	124	124
建築学科	日本大学	東京	理工学部	建築学科	志願者数(合計)	2,513	2,437	2,953	3,526	3,155	3,532	3,905	3,771	2,411	3,321
<b>建架子件</b>					志願倍率	9.0		24.8	29.6	26.5	29.7	31.5	30.4	19.4	26.8
					募集人員			95	105	105	105	100	100	108	108
	関東学院大学	神奈川	建築·環境学部	建築·環境学科	志願者数(合計)			798	768	903	1,087	1,078	1,009	1,121	1,361
					志願倍率			8.4	7.3	8.6	10.4	10.8	10.1	10.4	12.6

学部·学科	大学	都道府県	学部	学科		2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
					募集人員	82	90	90	90	90	90	105	105	92	105
	芝浦工業大学	東京	工学部	土木工学科	志願者数(合計)	1,130	1,156	1,546	1,696	1,939	1,192	1,600	2,054	1,827	1,643
					志願倍率	13.8	12.8	17.2	18.8	21.5	13.2	15.2	19.6	19.9	15.6
建築都市学部					募集人員	100	100	100	100	100	100	120	96	96	96
土木工学科	東京理科大学	東京	理工学部	土木工学科	志願者数(合計)	1,118	1,213	1,416	1,327	1,129	1,154	1,726	1,611	1,588	1,524
エルエチ科					志願倍率	11.2	12.1	14.2	13.3	11.3	11.5	14.4	16.8	16.5	15.9
					募集人員	280	0	109	109	109	109	109	109	109	109
	日本大学	東京	理工学部	土木工学科	志願者数(合計)	842	855	878	1,069	1,145	1,341	1,425	1,151	1,128	1,176
					志願倍率	3.0		8.1	9.8	10.5	12.3	13.1	10.6	10.3	10.8

リクルート「入試実態調査」より集計/データは株式会社リクルートマーケティングパートナーズより提供

## 【資料⑦】

# 既設学部等の学生確保の状況

## 工学部 建築学科 (入学定員200名)

	志願者	受験者	合格者	入学者	志願倍率	定員充足率
2016年度	1, 424	1,355	421	215	7.1	1.07
2017年度	1, 576	1,519	393	222	7.9	1.11
2018年度	1, 354	1, 292	440	203	6.8	1.01
2019年度	1, 859	1,759	428	209	9.3	1.04
2020年度	1, 773	1,675	489	222	8.9	1.11
2021年度	1, 485	1,403	524	210	7.4	1.05

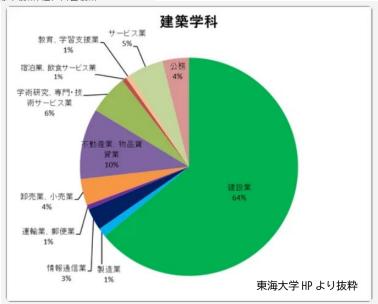
## 工学部 土木工学科 (入学定員120名)

	志願者	受験者	合格者	入学者	志願倍率	定員充足率
2016年度	624	603	317	125	5.2	1.04
2017年度	757	734	305	137	6.3	1.14
2018年度	634	607	299	126	5.3	1.05
2019年度	897	858	310	114	7.5	0.95
2020年度	751	717	372	129	6.3	1.07
2021年度	661	633	396	115	5.5	0.96

建築学科
【資料®】

## 主な就職先

ー条工務店/鹿島建設/熊谷組/五洋建設/清水建設/大和ハウス工業/大成建設/大東建託/竹中工務店/戸田建設/長谷エコーポレーション/三井ホーム/タマホーム/三機工業/東洋熱工業/新日鐵住金/三和シヤッター工業/ラックランド/レオパレス21/東京セキスイハイム/INA新建築研究所/三井不動産ファシリティーズ/平塚市役所/江戸川区役所

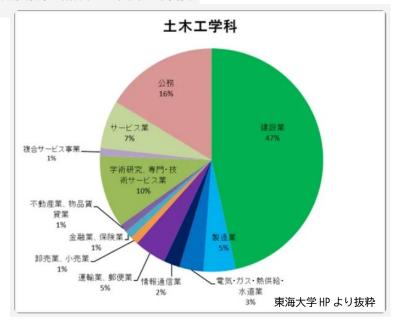


# 土木工学科

## 主な就職先

五洋建設/大成建設/東急建設/戸田建設/西松建設/安藤・間/三井住友建設/鹿島建設/東京電力ホールディングス/東京急行電鉄/東海旅客鉄道/東日本旅客鉄道/都市再生機構/国際航業/JR東日本コンサツタンツ/栃木

県庁/東京都庁/京都府庁



#### 2) 学部

2020年5月15日現在

#### <就職決定率の算出方法>

※就職決定率 = 調査時点の就職決定者数/就職希望者数×100

※決定者数=「企業・団体等」、「教員」、「公務員」、「専門職」、「自営業」、「自営(フリーランス)」、「起業」、「現職継続(社会人学生等)」、「進学と同時に就職(正規・非正規)」、「臨床研修医」に決定した者

※2018年度決定率は2019年5月21日時点の数値

#### <就職希望者数の算出方法>

※2019年度就職希望者数=キャリア支援ナビ進路希望登録で第一希望が「企業・団体等」、「教員」、「公務員」、「専門職」、「自営業」、「自営(フリーランス)」、「起業」、「現職継続(社会人学生等)」、「進学と同時に就職(正規・非正規)」の者+就職希望者の内「3月末までに就職の意志あり」、「就職準備」、「パート・アルバイト」に決定した者

2019年度 2018年度

								2010 1 2
学部	学科	専攻・課程等	卒業者数	就職希望者数	就職決定者数	決定率(%)	進学者数	決定率(%)
	生命化学科	·	112	87	84	96.6	18	98.7
	応用化学科		75	57	57	100.0	14	100.0
	光・画像工学	:科	50	41	41	100.0	6	100.0
	原子力工学科		33	21	21	100.0	10	100.0
	電気電子工学	:科	129	104	103	99.0	20	99.1
	材料科学科		65	33	31	93.9	28	100.0
	建築学科		179	149	146	98.0	26	100.0
工学部	土木工学科		99	85	83	97.6	5	100.0
	精密工学科		77	53	52	98.1	17	100.0
	機械工学科		121	88	88	100.0	23	100.0
	動力機械工学	:科	131	106	106	100.0	22	99.3
	航空宇宙学科	航空宇宙学専攻	97	61	60	98.4	26	100.0
	加至于田子科	航空操縦学専攻	40	33	31	93.9	0	96.4
	医用生体工学	:科	66	51	51	100.0	8	98.2
		合計	1274	969	954	98.5	223	99.5

【資料⑩-1】

## 2019 年度 東海大学産業別求人会社数

	産業	2019年度
メーカー	農業・林業・鉱業・漁業・酪 農畜産	66
	建設・住宅・不動産	1,624
	水産・食品	251
	素材・化学	244
	医薬品・医療関連・化粧品	95
	ゴム・ガラス・セメント・セ ラミックス	63
	鉄鋼・非鉄・金属製品	362
	機械・プラントエンジニアリ ング	434
	電子・電機	472
	自動車・輸送用機器	329
	精密機器・医療用機器	174
	印刷・パッケージ	84
	OA 機器・家具・スポーツ・ 玩具・その他	136
	小計	4,334
エネルギー		88
	銀行	27
	信用金庫・労働金庫	75
	信販・クレジット・ファイナ	10
	ンス	10
金融	その他金融	29
	リース・レンタル	47
	保険	66
	証券・投信・投資顧問	34
	小計	288

	産業	2019年度
商社	商社 (総合)	93
	商社 (水産・食品)	117
	商社(ファッション関連)	62
	商社 (素材関連)	52
	商社 (化学・医薬品・化粧品)	67
	商社 (エネルギー)	20
	商社 (精密機器・医療用機器)	156
	商社 (自動車・輸送用機器)	212
	商社(家具・インテリア・日	25
	用品)	
	商社(鉄鋼・非鉄・金属製品)	67
	その他商社	235
	小計	1,106
流通	百貨店	16
	コンビニエンス・GMS ストア	94
	生活協同組合	26
	専門店 (ファッション関連)	111
	専門店 (エンターテインメント)	9
	専門店 (電器)	18
	専門店 (家具・インテリア)	4
	専門店 (フード)	23
	専門店(ドラッグストア・調	20
	剤薬局)	39
	専門店(自動車関連)	112
	専門店 (動物関連)	3
	その他専門店	105
	小計	560

産業			2019年度
サービス	フードサービス		127
	ホテル・旅行		179
	その他の教育・学習支持	爰業	91
	エンターテインメント		54
	調査・コンサルタント		200
	人材紹介・人材派遣		107
	その他サービス		856
		小計	1,614
IT・情報 処理	情報処理・ソフトウエ	7	1,475
	情報・インターネットサ	ービス	196
		小計	1,671
情報(通	通信関連		87
信・マス	マスコミ		324
コミ)		小計	411
運輸・倉 庫	運輸		241
	倉庫		63
		小計	304
官公庁・団体		373	
教育機関		113	
医療・福祉施設		675	
専門・技術サービス業		38	
		合計	11,575

2019 年度卒業生数 6,281 名

# 【資料⑩-2】

